

こ い かわ い せ き
小井川遺跡（第5次・第6次）

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024. 3

**山梨県観光文化・スポーツ部
東海旅客鉄道株式会社**



小井川遺跡上空から、釜無川方面を望む(令和4年1月18日撮影)(東方向から西方向を撮影)



小井川遺跡第5次調査 B区2面目遺物写真 坏出土状況(古墳時代後期)(令和4年1月14日撮影)

巻頭図版 2



小井川遺跡上空から、甲府方面を望む(令和4年12月14日撮影)(西方向から東方向を撮影)



小井川遺跡第6次調査 A区1面目空撮写真(令和4年12月14日撮影)(写真上が北方向)

小井川遺跡のあらまし

1. はじめに

小井川遺跡は、中央市布施地区（旧田富町地域）にある古墳時代後期、平安時代、中世から近世にかけての遺物や遺構がある遺跡です。

令和3年度（第5次調査）と同4年度（第6次調査）に埋蔵文化財の記録保存のため発掘調査を実施しました。この報告書はこれらの成果をまとめたものです。ここでは、本書を利用する際の手引きとなるよう、発掘調査のあらましを記します。

2. 調査に至るまで

小井川遺跡は、平成15年度から18年度まで4年にわたって山梨県埋蔵文化財センター（以下「当センター」という。）によって発掘調査が行われ、V字溝状遺構や大型礎石建物遺構、堤防に伴う木列、竅穴住居跡など様々な遺構が確認されました。

今回の第5次・6次の調査は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事の計画を受け、当センターが平成31年度から令和3年度に実施した試掘調査によって遺跡の発見が続いていることが判明し、実施されたものです。試掘調査の結果を受けて、橋脚部分や付け替え道路など工事によって破壊されてしまう部分のみ、記録保存による調査を行うこととなりました。

3. 調査の方法

発掘調査では、試掘調査で得られたデータを基に、重機と人力により地面を掘り下げて、遺構の掘削、遺物等の取り上げを行いました。

各段階において、遺構の実測図化や写真撮影などの記録を取りながら、調査を進めました。

出土遺物は、中世のものが多いですが、江戸時代や古墳時代に属するものも確認できまし

た。それらの位置情報の記録に努め、必要に応じて出土状況写真の撮影を行いました。



○発掘作業の様子（第6次・中世）

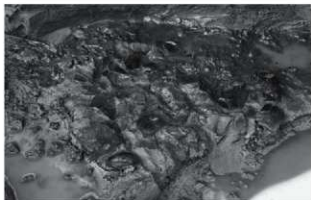
なお、小井川遺跡周辺をはじめとした甲府盆地南部は常に地下水の水位が高い地域で、発掘調査は予想を超える出水との闘いでした。調査区の周囲に鋼矢板を打ち込み、24時間水中ポンプを稼働させ、周囲には排水溝を掘りこんで出水対策を完全に整えました。しかし、台風や大雨の後など、現場がすべて水没してしまうことが何度もあり、大変過酷な環境での調査となりました。



○現場が水没している様子（第5次）

発掘調査終了後は、現地で取得した記録データを埋蔵文化財センターへ持ち帰り、図化、出土遺物の洗浄、注記、接合や復元、分類、図化等の整理作業を進め、一連の成果をまとめた本

書を作成しました。



○泥の中から細かい遺物が出土している様子
(第5次・古墳時代後期)

4. 小井川遺跡で発見されたもの

小井川遺跡は甲府盆地の南側に広がる氾濫原地域に位置しています。第5次調査では近世と古墳時代後期、第6次調査では中世と古墳時代後期の生活面が確認されました。

近世や中世の生活面では、複数の溝状遺構に素焼きの土器（土師質土器）や青磁などの陶磁器、漆碗や箸などの木製品など多様な遺物が流れ込んでいる様子が確認できました。溝状遺構は複数のものが一か所に集まっている様子も確認できました。



○溝から出土した様々な遺物（第6次・中世）
左上から土師質土器、凹み石、下駄、青磁破片、土瓶

一方、古墳時代後期の生活面では、第5次調査地点の最も東側で、石囲い炉跡が1箇所、多量の土器がまとまって出土した箇所がいくつも確認できました。これは以前調査された東隣の上三條河原遺跡の時代と一致するものです。

土器については上部に積み重なった分厚い洪水層の重みによって、細かい破片になっているものが多く、土器の復元や図化にかなりの時間を費やすこととなってしまいました。



○石囲い炉の様子（第5次・古墳時代後期）

5. 小井川遺跡の発掘調査からわかること

今回発掘調査をした2つのエリアは、おおむね小井川遺跡の東端にあたり、調査では土地を区画するような大きな溝や複数の溝が集まっている箇所が確認されました。また、中世から近世の遺物が東側へいくほど減少し、最東端では出土しないことも確認されました。このことから小井川遺跡の東への広がりの境目を捉えることができたと考えられ、遺跡の範囲を考えるうえで大きな成果といえます。

今後は、同遺跡の北側や南側への広がりの状況や周囲でみついている遺跡の成果を丹念に調査比較することで、布施地域やひいては甲府盆地南部の中世の様子がより具体的に分かるようになるでしょう。

以上が本遺跡のあらましとなります。詳しい内容は本文をご覧ください。

序 文

本書は、中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事業に伴い、2021年度(令和3年度)および2022年度(令和4年度)に実施した小井川遺跡の発掘調査成果をまとめた報告書です。

小井川遺跡は中央市布施にある古墳時代から近世にかけての遺跡です。本遺跡の所在する中央市布施地区は甲府盆地南部、釜無川と笛吹川の合流点に位置し、低地平野部にあたります。過去には新山梨環状道路建設工事に伴い平成15年から平成18年にかけて4度の調査が実施されました。調査では平安時代の竪穴住居跡、中世の大型建物跡や近世・近代の墓地などが発見されました。

本書で報告する令和3・4年度の調査では、古墳時代の石囲い炉や中世の溝跡が発見され、土器や木製品などが出土しました。

本書が、今後の小井川遺跡の保護、地域の歴史学習や研究のために、多くの方に御活用いただければ幸いです。

最後に、今回の発掘調査及び調査報告書の刊行に当たり、御理解と御協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2024年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 北村 徹

例 言

- 1 本書は中央市布施に所在する小井川遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 令和3年度調査を第5次調査、令和4年度調査を第6次調査とした。
- 3 埋蔵文化財調査は中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う事前調査であり、東海旅客鉄道株式会社から山梨県観光文化・スポーツ部が委託を受け、同部埋蔵文化財センターが令和3年度から5年度の期間で発掘調査・整理・報告書作成を実施したものである。
- 4 埋蔵文化財調査にあたった組織は次のとおりである。

調査主体：山梨県観光文化・スポーツ部(令和5年4月1日に山梨県観光文化部から組織変更・改称)
調査機関：埋蔵文化財センター

所長：西川秀之（令和3・4年度）、北村徹（令和5年度）次長：坂坂和博
調査研究課長：宮里学（令和3・4年度）、小林健二（令和5年度）
担当：副主査・文化財主事 數野優、文化財主事 内田祥一 会計年度任用職員 佐藤孝志
発掘作業員：令和3年度 鮎川暦子、牛山栄一、伊藤茂、横川賢一、篠原勝彦、佐野勝英、武田義昭
（いずれも公益財団法人甲府広域シルバー人材センター）
辻伸二、小林周二、芦澤菊雄、小林真次、桜井秀幸、濱田延一、山村二三子、山村洋子、雨宮貞夫、鷹野貴彦、望月里美、田中英範、小林進、望月厚子、関本ひとみ、関本順二、河西山弘、古屋征治、青柳正光、中村倫仁、望月栄子、今井隆、齊藤正紀、鷹野武、小形準一、中村増造
（いずれも公益財団法人峡中広域シルバー人材センター）
高石正雄、依田妙子、中込文次、諏訪正巳、長田孝吉、平澤直樹、堀口孝秋、横内昭憲、渡辺明一、渡辺光、渡辺勲、渡辺雅己、渡辺正雄
（いずれも公益財団法人峡南広域シルバー人材センター）






令和4年度 保坂秋蘭、片田俊一、萩原森詞、新谷博明、中安典子、穴山公、宮城良男、杉本浩二、杉本千恵子、古屋栄、松上健、米山文徳、雨宮貞夫、今井隆、辻伸二、小林周二、関本ひとみ、関本順二、渡辺旺治、齊藤晴彦、鷹野貴彦、山村洋子、鷹野武、望月厚子、田中英範、小林進、倉本吉伸、望月起男、望月里美、青柳正光、望月栄子、長谷川浩三、筒本公幸、小澤和明、齊藤博史、桜井真二、宮澤一郎、小林弘幸、齊藤正紀
（いずれも公益財団法人峡中広域シルバー人材センター）

整理事業員：北野礼子、平川涼子、渡邊麗子（令和4年度）
石坂恵理、長田良二、垣内律子、齋藤律子、渡邊麗子（令和5年度）
（いずれも会計年度任用職員）
- 5 本書の執筆・編集は内田がおこない、発掘調査における遺構等の写真撮影は數野・内田が、報告書掲載出土遺物の写真撮影は内田がおこなった。第4章の自然科学分析についてはパリオ・サーヴェイ株式会社へ委託し、その報告書を内田が一部加筆修正した。
- 6 発掘調査期間および整理事業期間は以下のとおりである。

発掘調査期間：令和3年度 令和3年11月8日（月）～令和4年3月8日（火）
令和4年度 令和4年10月13日（木）～令和5年2月10日（金）
整理事業期間：令和4年度 令和4年5月23日～令和5年3月24日（基礎的整理事業）
令和5年度 令和5年5月9日～令和6年3月22日
- 7 整理事業は山梨県観光文化・スポーツ部埋蔵文化財センターでおこなった。
- 8 本書にかかる記録図面・電子データ、写真、出土遺物等は山梨県立考古博物館で保管している。

- 9 埋蔵文化財発掘調査に係る調整機関は山梨県観光文化部文化振興・文化財課（当時）であり、調整担当者は主任・文化財主事熊谷晋祐である。埋蔵文化財整理作業に係る調整機関は山梨県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課であり、調整担当者は主任・文化財主事熊谷晋祐（令和4年度）文化財主事岩永祐貴（令和5年度）である。
- 10 埋蔵文化財調査における世界測地座標に基づく基準点設置及び写真測量、測量図化はシン技術コンサル株式会社へ委託した。発掘調査に使用した機材は、光波測距儀はLN150(TOPCON)、遺跡測量システムは遺構くん（Cubic）、デジタル一眼レフカメラはD850（Nikon）を株式会社テクノプランニングから借り上げた。
- 11 埋蔵文化財調査にあたり、次の方々・機関よりご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略、順不同）
〔協力者〕 中央市教育委員会生涯学習課、岡野秀典、今村直樹、末木健

凡 例

- 1 遺構・遺物図面の縮尺は、各図中に示した。
- 2 調査区は世界測地座標により設定しており、遺構図版におけるX・Y軸延長線上に付した数値は座標線の数値であり、南北のグリッド線および図中の北印は真北を示す。
- 3 遺構断面図立面図の左側基点に付した数字は標高(m)を表す。
- 4 遺物挿入図中のは炭化している部分を示す。
- 5 遺物観察表中の（ ）付き数字は次のとおりである。〔土器・陶磁器〕口径・底径・器高：推定値
- 6 遺物実測図中の網目は次のとおりである。
〔断面図〕土器 陶器 磁器 須恵器
- 7 土器観察表中及び土層注記の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』2008年版による。
- 8 第1、2図に使用した地形図は、国土地理院発行1/25,000地形図「甲府」を使用している。

目次

巻頭図版
あらまし
序文

例言・凡例
目次

第1章 調査の経緯と経過	1	第1節 発掘調査の方法	8
第1節 調査に至る経緯	1	第2節 基本層序	8
第2節 調査の目的	1	第3節 発見した遺構	13
第3節 発掘調査の経過	1	第4節 出土した遺物	17
第4節 整理作業等の経過	3	第4章 自然科学分析	20
第2章 遺跡の位置と環境	4	第5章 総括	31
第1節 地理的環境	4	写真図版	92
第2節 歴史的環境	4	報告書抄録・奥付	
第3章 調査の方法と成果	8		

図版目次

第1図 遺跡位置図	5	第22図 6次・1面遺構図 (A区SD1)	52
第2図 小井川遺跡周辺遺跡分布図	6	第23図 6次・1面遺構図 (A区SD1・SD3)	53
第3図 基本層序	9	第24図 6次・1面遺構図 (A区SD2・SD4)	54
第4図 調査区位置関係図	34	第25図 6次・1面遺構図 (A区SD5)	55
第5図 5次・1面全体図	35	第26図 6次・1面遺構図 (A区東西ベルト)	56
第6図 5次・1面遺構図 (A区SD1・SD3)	36	第27図 6次・1面全体図 (B区)	57
第7図 5次・1面遺構図 (A区SD1・SD2)	37	第28図 6次・1面断面図 (B区南壁・SD1)	58
第8図 5次・2面全体図	38	第29図 6次・1面遺構図 (B区東西ベルト)	59
第9図 5次・2面全体図 (A区)	39	第30図 6次・1面遺構図 (B区南北ベルト)	60
第10図 5次・2面断面図 (A区東壁)	40	第31図 6次・2面全体図	61
第11図 5次・2面全体図 (B区)	41	第32図 6次・2面遺構図	62
第12図 5次・2面断面図 (B区北・東壁)	42	第33図 5次・遺物平面・垂直分布図 (A区)	63
第13図 5次・2面断面図 (B区南・西壁)	43	第34図 5次・遺物平面・垂直分布図 (B区)	64
第14図 5次・2面遺構図 (B区遺物集中箇所1・SL1)	44	第35図 6次・遺物平面・垂直分布図 (A区)	65
第15図 5次・2面遺構図 (B区SD1)	45	第36図 6次・遺物平面・垂直分布図 (B区)	66
第16図 6次・1面全体図	46		
第17図 6次・1面全体図 (A区)	47		
第18図 6次・1面断面図 (A区東壁)	48		
第19図 6次・1面断面図 (A区南壁)	49		
第20図 6次・1面断面図 (A区西壁)	50		
第21図 6次・1面断面図 (A区北壁)	51		

第37図	5次・遺物分布図 (A区) ……………	67	第49図	5次・1面出土遺物 (B区遺構外) ……	77
第38図	5次・遺物分布図 (B区) ……………	68	第50図	6次・2面出土遺物 (A区遺構外) ……	78
第39図	6次・遺物分布図 (A区1面) ……………	69	第51図	6次・1面出土遺物 (A区SD1) ………	78
第40図	6次・遺物分布図 (B区1面) ……………	70	第52図	6次・1面出土遺物 (A区SD1・SD2) ……………	80
第41図	6次・遺物分布図 (A・B区2面) ………	71	第53図	6次・1面出土遺物 (A区SD2～SD4) ……………	81
第42図	5次・1面出土遺物 (A区SD1・SD3・遺構外) ………	72	第54図	6次・1面出土遺物 (A区SD5・SK1・遺構外) ………	82
第43図	5次・1面出土遺物 (A区遺構外) ……	73	第55図	6次・1面上層出土遺物 ……………	83
第44図	5次・1面上層出土遺物 (A区遺構外) ……………	74	第56図	6次・2面出土遺物 (B区遺構外) ……	83
第45図	5次・2面出土遺物 (B区SL1・遺構外) ……………	74	第57図	6次・1面出土遺物 (B区SD1) ………	84
第46図	5次・2面出土遺物 (B区SL1・SD1・遺構外) ………	75	第58図	6次・1面出土遺物 (B区SD1・遺構外) ……………	86
第47図	5次・2面出土遺物 (B区遺物集中箇所1～3) ……	76	第59図	6次・1面上層出土遺物 (B区遺構外) ……………	86
第48図	5次・2面出土遺物 (B区遺物集中箇所3～4・遺構外) ……	77			

表 目 次

第1表	発掘調査に係る届出等一覧……………	1	第4表	小井川遺跡 (第6次調査) 出土遺物観察表……………	89
第2表	小井川遺跡周辺遺跡一覧表……………	7			
第3表	小井川遺跡 (第5次調査) 出土遺物観察表……………	87			

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事は、東海旅客鉄道株式会社が実施する建設事業である。調査予定地は周知の埋蔵文化財の「小井川遺跡」の包蔵地内であり、近接地点では新山梨環状道路建設工事に際し過去4回調査が実施された。調査では平安時代の堅穴住居跡、中世の大型建物跡や近世・近代の墓地などの遺構や遺物が発見されていることから、工事に先立ち山梨県教育委員会埋蔵文化財センター（平成31年度当時）が試掘調査を実施した。試掘調査は、平成31年2月12日、15日、3月6日と令和3年5月24日から26日にかけて行いその結果、合計2面の遺構面が確認された。1面目は中世以降の水田畦畔遺構が検出され、2面目は炭溜り遺構が発見されたため、全2面の発掘調査を実施することとした。

発掘調査に係る届出等は以下のとおりである。

第1表 発掘調査に係る届出等一覧

年度	日付	文書番号	文書名	発出者	受信者
第5次調査(令和3年度)					
令和3年	令和3年6月21日		「令和3年度中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約書」	東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部 中央新幹線建設部長	山梨県知事
	令和3年9月21日	理文第733号	「土地の一時使用について」	埋蔵文化財センター-所長	東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線山梨工事事務所長
	令和3年9月29日	理文第742号	「一定規模以上の土地の形質の変更届出書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	山梨県知事
	令和3年9月30日	理文第743号	「発掘調査計画書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	文化振興・文化財課長
	令和4年10月25日	理文第853号	「中央市公共物使用許可申請書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	中央市長
	令和3年11月10日	理文第910号	「埋蔵文化財発掘の報告について」	埋蔵文化財センター-所長	山梨県知事
	令和4年3月11日	理文第1280号	「埋蔵文化財の発見について」	埋蔵文化財センター-所長	山梨県知事
	令和4年4月28日	理文第176号	「実績報告の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	文化振興・文化財課長
第6次調査(令和4年度)					
令和4年	令和4年4月1日		「令和4年度中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約書」	東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部 中央新幹線建設部長	山梨県知事
	令和4年9月16日	理文第644号	「中央市公共物使用許可申請書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	中央市長
	令和4年9月16日	理文第645号	「中央市道路占有許可申請書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	中央市長
	令和4年9月16日	理文第747号	「土地の一時使用について」	埋蔵文化財センター-所長	東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部 中央新幹線山梨工事事務所長
	令和4年9月29日	理文第794号	「発掘調査計画書の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	文化振興・文化財課長
	令和4年10月19日	理文第848号	「埋蔵文化財発掘の報告について」	埋蔵文化財センター-所長	山梨県知事
	令和5年2月17日	理文第1367号	「埋蔵文化財の発見について」	埋蔵文化財センター-所長	山梨県知事
	令和5年3月30日	理文第1639号	「埋蔵文化財発掘調査の終了について」	埋蔵文化財センター-所長	文化振興・文化財課長
令和5年6月2日	理文第272号	「実績報告の提出について」	埋蔵文化財センター-所長	文化振興・文化財課長	

第2節 調査の目的

第5次調査地点は、第1次調査で確認された寺院に隣接するV字大溝から東に位置している。この地点は、集落および寺域の縁辺部、つまり小井川遺跡の東側境界付近にあたる想定されたため、遺跡の境界を捉えることを目的とした。第6次調査地点は、同じく第1次調査で確認されたV字大溝の南側に位置しており、この大溝の南側への分布を捉えることを目的とした。また、寺院域の近隣地でもあるため、寺院関係の遺構や墓域の一部が確認されることが想定された。

第3節 発掘調査の経過

調査区域は第5次・第6次調査ともに、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事の本線箇所および付け替え道路を含む部分とし、西をA区、東をB区とした。第5次調査は南北幅約30m、東西長さ

90 mの範囲を対象とした。第6次調査は南北幅約20 m、東西長さ50 mの範囲を対象とし、西をA区、東をB区とした。いずれの年度も調査に先立ち、出水・壁面崩落防止のため調査区の周囲に長さ7 mの鋼矢板（シートパイル）を打ち込み、安全面に配慮した。

第5次調査は、令和3年11月8日から作業ヤードの仮囲い設置、作業員休憩所、現場事務所等の施設設置、砕石敷き均し、発電機等の機材搬入、0.45クラスバックホーを用いてA区表土掘削を開始し、19日の掘削後に重機を搬出して表土掘削を終了した。11月15日には発掘作業員により周辺環境整備後、人力による掘削及び調査作業に着手した。第1面の遺構精査、遺構検出及び記録等作業を随時進め、遺構精査に当たっては人力により約20cmの掘削を行った。遺構の調査、記録等作業は令和4年1月19日までに終了し、同20日には空中写真撮影を行った。その後、2面目の調査を実施したが、遺物・遺構共に検出されなかった。B区の表土掘削は令和3年12月16日より開始し、A区と同様に1面目の遺構精査を実施したが、遺物は僅かしか確認できず、遺構は検出されなかった。しかし、より下層の2面目にあたる深さから古墳時代後期の遺物、遺構が検出され、A区と同様調査を実施、人力により約20cmの掘削を行った。遺構の調査、記録等作業は令和4年2月16日までに終了し、同17日には空中写真撮影を行った。各トレンチの遺構の調査、記録等作業を順次実施し、写真撮影は職員による手持ちのカメラにて対応した。埋め戻しは0.45クラスバックホーを用いて2月21日から開始し、3月7日までに完了した。並行して仮囲いの撤去及び施設、機材等のリース物品、現場の資材、物品等を完全に搬出して3月8日に撤収を完了した。

第6次調査は、令和4年10月11日から作業ヤードの仮囲い設置、作業員休憩所、現場事務所等の施設設置、砕石敷き均し、発電機等の機材搬入を実施、10月13日から0.45クラスバックホーを用いてA・B区の表土掘削を開始し、20日の掘削後に重機を搬出して表土掘削を終了した。10月17日には発掘作業員により周辺環境整備後、人力による掘削及び調査作業に着手した。両調査区の第1面の遺構精査、遺構検出及び記録等作業を随時進め、遺構精査に当たっては人力により約20cmの掘削を行った。遺構の調査、記録等作業は令和4年12月14日までに終了し、同日には空中写真撮影を行った。その後、両区ともに2面目の調査を実施、人力により約20cmの掘削を行った。遺物の調査、記録等作業は令和5年1月30日までに終了し、同31日には空中写真撮影を行った。各トレンチの遺構の調査、記録等作業を順次実施し、写真撮影は職員による手持ちのカメラにて対応した。埋め戻しは0.45クラスバックホーを用いて2月1日から開始し、2月9日までに完了した。並行して仮囲いの撤去及び施設、機材等のリース物品、現場の資材、物品等を完全に搬出して2月10日に撤収を完了した。

両調査区ともに調査区内において地下水の湧出が激しい地点が多数あったため、サンドポンプ、ホース、ろ過タンク（ノッチタンク）を用い、24時間体制で排水を実施した。しかし、大雨による地下水の増加や人的ミスによる発電機の燃料切れ等で調査区が水没する事態に見舞われたこともあった。

発掘調査にかかる稼働日数および人員は、第5次調査は79日間、延べ1,110人、第6次調査は80日間、延べ1,095人である。出土した遺物量はプラスチック収納箱（縦49.5cm、横34cm、高さ16cm）で第5次調査は20箱分、第6次調査は11箱分である。



ろ過タンクを用いて排水している様子(第5次調査)



調査区が水没した様子(第6次調査A区)

第4節 整理作業等の経過

基礎的整理作業は本調査終了後の令和5年1月4日から3月24日まで3名の整理作業員を任用し実施した。報告書刊行に伴う本格的整理作業は令和5年5月9日から9月15日および10月11日から令和6年3月22日まで5名の整理作業員を任用し実施した。基礎的整理は、出土品の洗浄を1月4日から2月10日、出土品の注記、接合、実測・拓本などを2月13日から3月24日まで実施した。本格的整理は、出土品の実測を含め、遺構や遺物、写真のデジタルトレース作業を主に実施した。原稿の執筆や図版のレイアウトを行い、令和6年3月22日に、発掘調査報告書（本書）を刊行した。



基礎的整理作業(遺物接合)作業状況



本格的整理作業(遺物トレース)作業状況

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

山梨県は日本列島のうち本州の中央部に位置している。県の周囲は山地に囲まれており、北部に関東山地、東部に道志山地、東部から南部にかけて御坂山地そして富士山、西部に赤石山脈が連なる。周囲を山々に囲まれた中央に甲府盆地を擁し、その中を笛吹川、日川、荒川、塩川、釜無川などの河川が南西に向かって流れ、盆地南部で合流し富士川となって駿河湾に流れ出していく。遺跡の所在地である中央市は甲府盆地南部に位置し、二大河川の釜無川と笛吹川が合流して富士川となる地点の北東側に位置する。市域は釜無川やそれに属する河川による扇状地が大半を占め、これら河川の堆積によってできた微高地に人口密集地が展開している。市域の笛吹川を挟んで南側では曾根丘陵や御坂山地の北側に集落が展開する。地形的には、釜無川と笛吹川により形成された沖積平野の地域と御坂山系からなる地域との大きく二つに分けることができる。調査区内の標高は252.0mを測る。

第2節 歴史的環境

従来、釜無川と笛吹川という二大河川の合流点に位置する本遺跡付近は、河川氾濫の被害が幾度となく繰り返されてきた地域である。このことから中世以前に属する歴史的建造物が残されていないことや、人々が継続的に生活を営むには環境が厳しいと考えられていたため、遺跡は残存をしていないかあったとしても希薄であり、歴史的にも空白地域であると考えられてきた。しかし、旧玉徳町教育委員会・旧田富町教育委員会それぞれに実施された町内遺跡分布調査によって、複数の埋藏文化財包蔵地が発見されたことや近年になり試掘・発掘調査が多く実施されたことにより、歴史の空白が徐々に埋まりつつある。

旧石器時代や縄文時代の遺跡に関しては、従来これら時代の遺跡が確認されている場所が河岸段丘や山麓地域に多いことや、仮に微高地上に遺跡が存在していたとしても度重なる河川堆積による影響で、地下深くに埋没していることが想定され、安全面や技術面において調査を実施することが困難であると想定される。

先の分布調査の結果（田富町教育委員会：2002）からは、沖村遺跡で表面採集された弥生時代の所産と考えられる高坏の破片が最古段階となっている。微高地と平坦地が入り組んだ立地条件からは居住空間と生産を兼ね備えた、遺跡空間の存在が期待されている。

続いて、古墳時代前半では、上新手新田遺跡、白井河原上河原遺跡、整理地遺跡、延里（14）、西花輪村北・村間遺跡において土器片が採集されている。この時代を象徴とする墳墓群は盆地の東縁西部に集中することが周知となっていて、遺跡の性格としては上記同様な様相を呈するものと考えられる。周辺の遺跡構造のあり方から見て（宮沢：2004）、高塚を有しない小規模な円墳等を取り込んだ集落跡が想定されるところである。またこれら遺跡群の内、白井河原上河原、西花輪村北・村間遺跡の3遺跡では、やはり土器採集結果からではあるが古代までの継続制が指摘され、長期間にわたる土地利用が想定される。

古墳時代後半、特に6世紀末頃では、小井川遺跡東端部において、平成16年の当センターによる試掘調査、及び内藤和久氏の同地点の表面採集からは赤彩の杯が確認されている。これを受けてさらに包含層の確認の為に再調査が行なわれたが、地表下70cm下の箇所10～20cm前後の包含層が認められた。

令和2年度には、当遺跡と小井川駅の間地点において上三條河原遺跡の調査が当センターにより実施され、古墳時代後期から終末期の包含層が確認されている。調査では、堅穴住居2軒や土坑が確認されたほか、環や鏝などの遺物が約4,000点出土し、同時代の集落が存在していることが確実となった。これは後述する今回調査の2面目で出土した包含層と同一と思われ、上三條河原遺跡の西端部を確認することができたと考えられる。

平安時代では小井川遺跡第4次調査において、現地地表下約2.5mの地点（Ⅱ面）において平安時代の堅穴住居跡が3軒確認された。東方約1km付近に上窪、平田宮第2遺跡等が立地し、上窪遺跡においては平安後期から鎌倉時代にかけての水田面の広がりや、平安時代中期の多量の齋串を伴う土坑墓が確認されている。また平田宮第2遺跡では機織り具の部材など確認されている。

中世では、小井川遺跡第3次調査で、鎌倉時代後半の大型五輪塔や戦国時代と想定される寺院跡が確認された。五輪塔には延慶3年(1305)、正和4年(1315)の鎌倉時代後半の県内最古と考えられる紀年銘や布施荘を管轄していたと考えられる人物の銘が確認された。また、戦国時代の寺院跡では主屋や左右附属建物の整然と並んだ礎石とそれに伴う部材の一部が確認された。さらに寺域の東西と南側には塚遺構が確認され、寺院建物と寺域の様子が確認された。

さらに同4次調査では、中世以降の立木列が確認された。木列は南北方向に1列をなし、同一の樹種が使用されていることから人為的に設置されたものであると確認された。木列の地点は江戸後期の文化3年(1806)に作成された「布施村絵図」に布施宿の東側に「信玄堤」なるかすみ堤防の表記があることから、同時代においても釜無川からの水に対する堤防の痕跡の可能性があることが示唆された。

他に当センターで発掘調査を実施している二又第1遺跡では、矩形に配される溝により区画された空間が複数箇所確認されている。空間内部には掘立柱建物や石組み井戸、屋敷藪などの遺構が集中している様子が確認でき、溝により区画された屋敷地と考えられる。中央建物内には土間と考えられる空間があり、建物規模は中央建物は東西3間以上・南北5間程度の建物と想定され、主屋になる可能性がある。これらの溝で区画された屋敷地が集まった村落であると考えられる。その他中世関連遺跡では、本遺跡を中心に1kmの範囲中に布施村北遺跡、神田遺跡、冷久保遺跡、三井右近丞屋敷跡の5遺跡が取まる。

近世・江戸後期に至っては古寺家遺跡、今福遺跡、中道下遺跡、小井川遺跡等が確認されている。小井川遺跡(第1次)では、江戸時代後期に存在したという無住職寺院・慶勝院に付属する墓地跡とその付属施設と考えられる、断面V字の大型溝をはじめとした杭打ち溝が2条、墓が4基確認された。このうち、杭打ち溝の1つは自然溝の上に人工溝が重複しており、溝中からは中世の土師質土器が少量と近世に属する陶磁器など多量の遺物が出土した。この南北溝は江戸時代後期建立の慶昌院の寺域の東側に位置していると考えられ、地域住民や寺院によって様々な利用がなされたものと想定される。

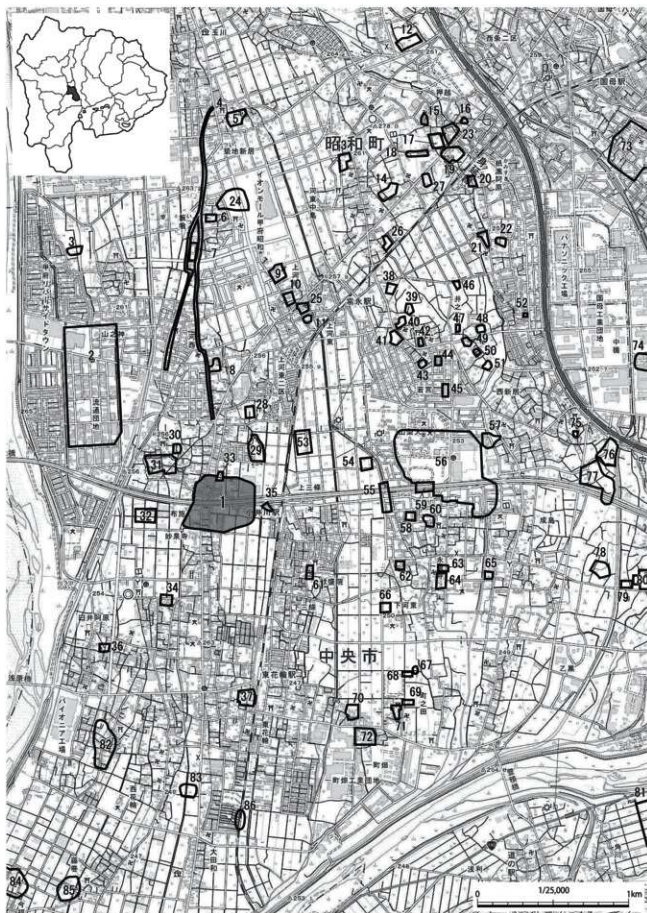
また、1次調査で発掘された杭打ち溝の西側に、慶昌院のものと考えられる墓地が確認された。墓は全部で117基あり、埋葬状況や副葬品から墓の発展過程の検討がなされた。結果、中途段階で墓域が拡大したことが判明した。

同4次調査では、江戸時代以降の溝や土坑、洗い場が確認された。

この他、近世においては、確認されている上記遺跡の他に、古文書、古地図をもとに想定された古代地割、条理制跡が指摘され、今後の調査が期待されている。



第1図 遺跡位置図(国土地理院 1/25000「甲府」)



第2図 小井川遺跡周辺遺跡分布図

第2表 小井川遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時期	番号	遺跡名	種別	時期
1	小井川遺跡	集落	古墳・平安・中世・近世	44	若宮第1遺跡	散布地	中世・近世
2	立川飛行機 甲府製造所跡	その他 (戦跡)	近代・現代	45	若宮第2遺跡	散布地	平安・中世
			46	今川第1遺跡	散布地	近世	
3	上手新田遺跡	散布地	古墳	47	今川第2遺跡	散布地	中世
4	かずみ堤	堤防	中世・近世	48	今川第3遺跡	散布地	平安
5	村内遺跡	散布地	中世・近世	49	今川第4遺跡	散布地	中世・近世
6	屋敷浜遺跡	散布地	中世・近世	50	今川第5遺跡	散布地	近世
7	村前遺跡	散布地	中世・近世	51	今川第6遺跡	散布地	中世・近世
8	大林遺跡	散布地	中世・近世	52	相之田遺跡	散布地	中世
9	熊野神社前遺跡	散布地	中世・近世	53	三宮司遺跡	散布地	弥生・平安
10	田之神田遺跡	散布地	中世・近世	54	中新居遺跡	散布地	平安・中世
11	宝田遺跡	散布地	中世・近世	55	八反田遺跡	散布地	近世・近代
12	穴田遺跡	散布地	中世・近世	56	上窪遺跡	集落跡・水田跡	平安・中世・近世
13	道田遺跡	散布地	中世・近世	57	川久保遺跡	散布地	近世
14	熊之宮遺跡	散布地	中世・近世	58	平田宮遺跡	散布地	中世
15	超乃遺跡	散布地	中世・近世	59	平田宮第2遺跡	水田跡・集落跡・畑跡	平安
16	新田遺跡	散布地	中世・近世	60	天神木遺跡	散布地	平安・中世・近世
17	村前遺跡	散布地	中世・近世	61	竹之花遺跡	散布地	古墳
18	殿屋敷北遺跡	散布地	中世・近世	62	青六遺跡	散布地	中世・近世
19	佐津平遺跡	散布地	中世・近世	63	扇田遺跡	散布地	中世・近世
20	川添遺跡	散布地	中世・近世	64	下河東屋敷	城館跡	中世
21	西村前遺跡	散布地	中世・近世	65	向河原遺跡	散布地	中世
22	前田遺跡	散布地	中世・近世	66	西反南第1遺跡	散布地	中世
23	越乃東遺跡	散布地	中世・近世	67	西反南第2遺跡	散布地	中世
24	金屋敷遺跡	城館跡	中世	68	熊野第2遺跡	散布地	中世
25	玄賀屋敷	城館跡	中世	69	熊野第1遺跡	散布地	中世
26	川代遺跡	散布地	中世・近世	70	田中氏屋敷跡	城館跡	平安・中世
27	殿屋敷遺跡	散布地	中世・近世	71	川久保遺跡	散布地	中世
28	布施村北遺跡	散布地	中世	72	御朱印屋敷	城館跡	中世
29	神田遺跡	散布地	中世・近世	73	大北耕地遺跡	散布地	中世・近世
30	冷久保遺跡	散布地	中世・近世	74	砂間遺跡	散布地	平安・中世
31	三井右近丞屋敷跡	城館跡	中世・近世	75	中橋遺跡	散布地	中世・近世
32	白井河原上河原遺跡	散布地	古墳・古代	76	二又第1遺跡	散布地	平安・中世・近世
33	中澤五郎右衛門屋敷跡	城館跡	中世	77	二又第2遺跡	散布地	平安・中世・近世
34	古寺家遺跡	散布地	近世	78	春丁田遺跡	散布地	平安
35	上三條河原遺跡	集落	古墳	79	下河原第1遺跡	散布地	中世・近世
36	饗場修理亮屋敷跡	城館跡	近世	80	下河原第2遺跡	散布地	中世・近世
37	田中氏屋敷跡	城館跡	中世	81	明治遺跡	散布地	近世
38	中通第1遺跡	散布地	中世・近世	82	西花輪村北・村間遺跡	散布地	古墳・奈良
39	中通第2遺跡	散布地	中世・近世	83	西花輪村東遺跡	散布地	近世
40	中通第3遺跡	散布地	中世・近世	84	今福村東遺跡	散布地	近世
41	村西遺跡	散布地	中世・近世	85	延里遺跡	散布地	古墳
42	中通第4遺跡	散布地	中世・近世	86	整理地遺跡	散布地	古墳
43	中通第5遺跡	散布地	中世・近世				

第3章 調査の方法と成果

第1節 発掘調査の方法

小井川遺跡は、平成15年度から平成18年度にかけて新山梨環状道路建設工事に伴い、計4次の発掘調査が実施されてきた。本書で報告する令和3年度（第5次調査）および令和4年度（第6次調査）の発掘調査は中央幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴うものであり、一連の発掘調査区域の最東端にあたる。（図4）

発掘調査は、第5次第6次調査ともに、試掘調査でのデータを基にして、0.45 m²クラスバックホーにて、表土を遺物包含層上面まで掘削した。発生土は、10tクラスダンプ2台で場外搬出し、調査期間中に仮置きした。表土掘削完了後、調査区内に5m間隔で方眼杭を設置し、グリッドを設定した。グリッドは世界測地系座標に即して設定し、グリッド名は、北西隅を原点として、X軸方向（南北方向）にアルファベット、Y軸方向にアラビア数字を付した。遺構等の測量に使用する基準点は第5次調査では、調査区外に6箇所、水準点は調査区内に2箇所、第6次調査では、調査区外に5箇所、水準点は調査区内に2箇所、それぞれ任意の位置に設置した。

表土掘削後、人力にて遺物包含層を掘削して遺構の精査を行った。確認した遺構については、「発掘調査のてびき-集落遺跡発掘編-」（文化庁文化財部記念物課監修、奈良文化財研究所編集2010同成社）にならい、SL：炉跡、SD：溝状遺構、SK：土坑といった遺構記号を用いて付番した。なお、付番後に調査を進めていく中で遺構ではないと判断したものもあり、通し番号に一部欠番がある（第5次調査SX-1）。確認した遺構は、半截して土層の確認を行い、土層断面図の図化及び写真撮影等の記録を行ったのち完掘した。遺構平面図は、原則としてトータルステーションを用いて測量・図化した。出土遺物は、光波測距儀により三次元位置情報を記録して取り上げたほか、グリッド毎に一括して取り上げた。

ドローン撮影による全景写真は、遺構が完掘した状態で上空から撮影を実施した。そのほか、地理的環境、歴史的景観における立地を表現することを目的として、周辺の俯瞰写真撮影も合わせて実施している。

第2節 基本層序

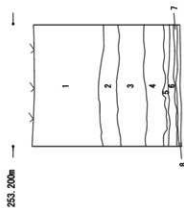
本遺跡は甲府盆地南部の氾濫原に立地することから、堆積の主成分はシルトや微砂粒質が互層とななる水成堆積土である。調査で得られた層序を第3図および写真にまとめた。基本層序を作成したトレンチの地点は第9、11、17、27図に位置を示している。

第5次調査A区の基本層序①は、第3層で近世の遺物を伴う砂利混じり粗砂層があり、下層に近世の遺構および遺物を伴うシルト層がある。このシルト層はA区およびB区西側で安定的に堆積をしている。これより下層については細砂や粗砂の互層がみられ、未分解の植物遺体や乱れたラミナを伴うこともあり、土壌化には至らなかったと考えられる。

B区の基本層序②は、A区およびB区西側で見られた近世のシルト層は調査区東側で消失し、代わって古墳時代後期の遺構および遺物を伴うシルト層がみられる。このシルト層の上層および下層は細砂や粗砂の互層であり、明瞭なラミナを捉えることができる。A区およびB区いずれも複数回の堆積を伴うイベントの間に遺跡を形成した時期があったと考えられる。

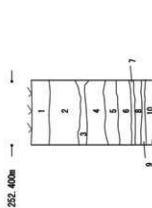
第6次調査A区およびB区の基本層序③④は、2層から7層までは自然の堆積による砂利や粗砂の互層であり、A区第8層およびB区第5層で中世の遺物を伴う細砂シルト層がある。これより下層については細砂や粗砂の互層がみられる。そしてA区第15、16層、B区10、11層は古墳時代後期の遺構および遺物を伴うシルト層がみられる。このシルト層は令和3年度に当センターで調査をした上三條河原遺跡の遺構確認面と同一の時代の包含層である。

令和3年(5次)A区 基本層序①



- 1 2.9765/2 黄褐色細砂、粘性やや強い、締り強い、層代の互層のみ存在
- 2 2.9762/2 黄褐色砂状シルト層砂、粘性弱い、締り強い、1mm程度の白色砂粒多く含む、植物体多く含む
- 3 2.9761/1 黄褐色シルト、粘性やや強い、締りやや強い、1mm～1cm程度の白色砂粒多く含む、近郊の土質真土層を含む、植物体ほとんど
- 4 2.9762/2 黄褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、腐植体多く含む、未分層の植物体混入も多く含む
- 5 2.9761/1 黄褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、腐植体多く含む
- 6 2.9761/1 黄褐色細砂、粘性弱い、締りやや強い、腐植体非常に多く含む、中に散らたまき草あり
- 7 2.9761/1 黄褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い
- 8 2.9761/1 黄褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い

令和3年(5次)B区 基本層序②

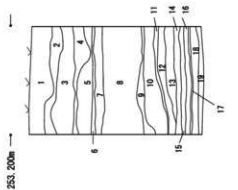


- 1 2.9762/2 黄褐色細砂、粘性強い、締り強い、植物体多く含む、腐土
- 2 2.974/2 黄褐色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物体多く含む、下部に2mm程度の塊状より植物体も多く含む、急傾斜の高低地を含む、2mm程度の高低地を含む
- 3 2.9761/1 黄褐色中粒砂状シルト層砂、粘性やや強い、締りやや強い、締りによる互層が見られる、下部に植物体多く含む
- 4 2.9761/1 黄褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物体多く含む、上部は3層からの植物体混入も多く含む
- 5 976/1 灰色中粒砂状シルト層砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物体多く含む、下部に強いうまき草あり
- 6 976/1 灰色細砂、粘性強い、締りやや強い、植物体多く含む、腐植体多く含む、下部に強いうまき草あり
- 7 976/1 灰色細砂、粘性強い、締りやや強い、強い水草のみあり
- 8 976/1 灰色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、水草のみあり
- 9 972/1 黄褐色中粒砂状シルト層砂、粘性やや強い、締りやや強い、近郊時代の腐植体混入を含む(白土層)
- 10 2.974/1 黄褐色細砂状シルト層砂、粘性強い、締り強い、植物体やや含む、赤紫に強いうまき草あり



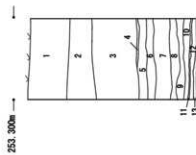
図3 基本層序①②

令和4年(6次)Ⅰ区



- 1 2.5%以下黒色砂岩、粘り強い、硬質
- 2 10%以下に白い黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 3 2.5%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 4 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 5 2.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 6 10%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 7 5%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 8 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 9 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 10 7.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 11 7.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 12 7.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 13 10%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 14 7.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 15 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 16 2.5%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 17 2.5%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 18 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 19 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質

令和4年(6次)Ⅱ区



- 1 2.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 2 2.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 3 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 4 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 5 2.5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 6 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 7 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 8 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 9 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 10 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 11 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質
- 12 2.5%以下黄褐色砂岩、粘り強い、硬質
- 13 5%以下白色砂岩、粘り強い、硬質

図3 基本層序④



基本層序写真 1



5次調査 A区 基本層序①



5次調査 B区 基本層序②



6次調査 A区 基本層序③



6次調査 B区 基本層序④

小井川遺跡 令和3年度調査(第5次) B区 北壁壁面

W



5次A区1面 包含層(近世)と同一の層



5次A区1面 包含層(近世)と同一の層

E



B区2面 包含層(古墳時代後期)

基本層序写真2

第3節 発見した遺構

第5次調査（令和3年度）

第5次調査において発見した遺構は、1面目では溝状遺構(SD)3条である。2面目では溝状遺構(SD)1条、炉遺構1基、遺物集中箇所4基である。遺構内から明確に出土した遺物は1面目および2面目において数多く認められた。各面の遺物やその出土状況からそれぞれ1面目は近世、2面目は古墳時代後期であると判断した。

(1) 1面目（近世）（A区）（B区は1面目遺構なし）

溝状遺構

① SD1（第6、7図）

【位置】 B-4～H-4 グリッド

【規模】 長さ：南北約27m、幅：約7.0m、深さ：最大約35cm

【検出状況】 調査区を南北に走り、さらに調査区外に延びている。中央西側および北側部分は攪乱により消失している。北側でSD2、南側でSD3と接続している。

ただし、SD2との接続部分は攪乱により失われているため、遺構の切り合い関係等は不明瞭であることに留意したい。底部は逆力マボコ状であり、ほぼ平坦である。

なお、遺構北側中央に東西方向の立板列を伴う。板は砂利混じり粗砂層に一部刺さるようにして検出されたが、総じて根入れが浅いため、上流から流されてきたものか、元あったものが洪水によって浮いてしまった可能性が考えられる。水利施設の可能性も考えられる。

【出土遺物】 皿や掻鉢などの土師質土器、青磁、燃えさしや碗など木製品が出土した。一部の遺物については斜め下方向に刺さるようにして出土したことから、水流がかなり強かったものと思われる。（図版番号1～9）

② SD2（第7図）

【位置】 D-1～D-3 グリッド

【規模】 長さ：東西約7.0m、幅：約2.3m、深さ：最大約36cm

【検出状況】 調査区を西方向から東方向に走り、SD1と接続している。ただし、SD1との接続部分は攪乱により失われているため、遺構の切り合い関係等は不明瞭であることに留意したい。底部は碗状である。

【出土遺物】 土師質土器や陶磁器などの小破片が出土した。

③ SD3（第6図）

【位置】 G-4～G-5 グリッド

【規模】 長さ：東西約4.0m、幅：約4.5m、深さ：最大約28cm

【検出状況】 調査区を東方向から西方向に走り、SD1と接続している。底部は逆力マボコ状であり、ほぼ平坦である。

【出土遺物】 土師質土器の小破片および木製品（燃えさし）が出土した。（図版番号10）

(2) 2面目（古墳時代後期）（B区）（A区は2面目遺構なし）

溝状遺構

① SD1（第15図）

【位置】 C-12～E-13 グリッド

【規模】 長さ：南北約12m、幅：約1.7m、深さ：最大約48cm

【検出状況】 調査区を北西方向から南東方向に走る。底部は碗状である。

【出土遺物】 高環などの土師質土器や木片が出土した。一部の遺物については斜め下方向に刺さるようにして出土したことから、水流がかなり強かったものと思われる。（図版番号

炉遺構

① SL1 (第14図)

【位置】 B-18グリッド

【規模】 幅約1.0m

【検出状況】 石囲い炉跡。10個の石材で構成され、馬蹄状をしている。一部の石材に被熱の痕跡が見られるが、ほかの石材にはあまり見られず、床面には炭を伴った焼土が広がる。

【出土遺物】 石材の間隙や焼土中から坏や壺、甕、甎などの土師器、木炭が出土した。(図版番号39～47)

遺物集中箇所

①遺物集中箇所1 (第14図)

【位置】 B-18～C-18グリッド

【規模】 幅約1.2m

【検出状況】 炭化物が混ざるシルト中に、複数の器種が混在しており、土圧によりひどく押しつぶされた状態で検出された。

【出土遺物】 坏や甕、多量の土師質土器の小破片が出土した。(図版番号51～54)

②遺物集中箇所2 (第11図)

【位置】 C-15グリッド

【規模】 幅約0.5m

【検出状況】 やや炭化物が混ざるシルト中に、複数の器種が比較的纏まったまま、土圧により押しつぶされた状態で検出された。

【出土遺物】 土師質土器と須恵器がそれぞれ1点ずつ、甕の小破片が出土した。(図版番号55～56)

③遺物集中箇所3 (第11図)

【位置】 B-16グリッド

【規模】 幅約0.5m

【検出状況】 やや炭化物が混ざるシルト中に、複数の器種が混在しており、土圧によりひどく押しつぶされた状態で検出された。

【出土遺物】 坏や甕などのほか、多量の土師質土器の小破片が出土した。(図版番号58～60)

④遺物集中箇所4 (第11・14図)

【位置】 C-15～C-16グリッド

【規模】 幅約0.4m

【検出状況】 やや炭化物が混ざるシルト中に、複数の器種が混在しており、土圧によりひどく押しつぶされた状態で検出された。

【出土遺物】 坏や甕、多量の土師質土器の小破片が出土した。(図版番号43、47、61)

木片集中箇所

①木片集中箇所1 (第11図)

【位置】 C-15グリッド

【規模】 幅約1.5m

【検出状況】 シルト中に、土圧によって崩れかけた木片やフシの部分が残った木片が検出された。木片集中箇所2に比べ、木材の残りがよく、大きい。

【出土遺物】 少量の坏や甕の破片が確認された。

②木片集中箇所2（第11図）

【位置】C-16グリッド

【規模】幅約0.6m

【検出状況】シルト中に、土圧によって崩れかけた木片やフシの部分が残った木片が検出された。

【出土遺物】遺物は伴わなかった。

第6次調査（令和4年度）

第6次調査において発見した遺構は、1面目では溝状遺構（SD）6条土坑（SK）1基である。2面目では地下水の出水が激しいこともあり、5次調査で確認できたような竪や遺物集中箇所は確認できなかった。遺構内から明確に出土した遺物は1面目にて数多く認められた。各面の遺物やその出土状況からそれぞれ1面目は中世、2面目は古墳時代後期であると判断した。

(1) 1面目（中世）(A区)

溝状遺構

①SD1（第22、23図）

【位置】F-5～J-5グリッド

【規模】長さ：南北約13m、幅：約3.5m、深さ：最大約88cm

【検出状況】調査区を南北に走り、さらに調査区外に延びている。左岸法肩に木杭列を伴うが、打ち込みの深さが浅いことから、1次調査のV字大溝の時期である近世に打ち込まれたものと考えられる。さらに杭列に重なるように切り株の一部が南北方向に複数箇所確認された。中央部にてSD3と、下部においてSD2と接続している。溝底部の堆積状況から、SD1にSD2が流れ込み、その後SD3が流れ込んだと考えられる。底部は碗状であり、やや平坦である。

【出土遺物】かわらけや甕、播鉢などの土師質土器のほか、曲げものや漆碗などの木製品、五輪塔の部材や茶臼などの石製品、古銭が出土した。溝底部付近の一部の遺物については斜め下方向に刺さるようにして出土したことから、水流がかなり強いものであったと想定される。溝の底部下10cmでは礫層があり、手前方向へ礫が倒れる様子（インプリケーション）が認められた。（図版番号77～88）

②SD2（第24図）

【位置】H-5～H-7グリッド

【規模】長さ：東西約10m、幅：約1.8m、深さ：最大約66cm

【検出状況】調査区を東西に走り、西側でSD1と接続している。東側は調査区外に延びている。底部は碗状である。

【出土遺物】かわらけや甕などの土師質土器のほか、曲げもの・漆碗・箸・下駄などの木製品が出土した。SD1との接続付近で出土した一部の遺物については溝の底部へ斜め下方向に刺さるようにして出土したことから、遺物を運搬してきた水流がかなり強かったものと思われる。（図版番号89～109）

③SD3（第23図）

【位置】G-3～G-5グリッド

【規模】長さ：東西約7m、幅：約2.1m、深さ：最大約62cm

【検出状況】調査区を東西に走り、東側でSD1と接続している。西側は調査区外に延びている。底部は平坦である。

【出土遺物】甕などの土師質土器のほか、陶磁器の小破片が出土した。（図版番号110）

④SD4（第24図）

【位置】J-5～J-7グリッド

【規模】東西約8m、幅：約1.1m、深さ：最大約35cm

〔検出状況〕 調査区を東西に走り、東側は調査区外に延びており、西側についてはSD1手前で南流する。SD2と並行している。ただし、溝の左岸側が調査区南壁内に延びているため、正確な規模、形状は不明である。底部は碗状である。

〔出土遺物〕 かわらけなどの土師質土器のほか、土瓶などの陶器が出土した。(図版番号 111～116)

⑤ SD5 (第25図)

〔位置〕 G-6～G-7グリッド

〔規模〕 東西約3m、幅：約0.45m、深さ：最大約20cm

〔検出状況〕 調査区を東西に走り、東側は調査区外に延びている。西側へ延びる部分については、攪乱により消失しており不明。U字型で底部はほぼ平坦である。

〔出土遺物〕 かわらけなどの土師質土器が出土した。(図版番号 117)

土坑

① SK1 (第16図)

〔位置〕 J-4グリッド

〔規模〕 幅約2.0m、深さ：最大約30cm

〔検出状況〕 南側は調査区外に延びている。底部は平坦に広がる。

〔出土遺物〕 かわらけなどの土師質土器や陶磁器破片が出土した。(図版番号 118～120)

(2) 1 面目 (中世) (B 区)

溝状遺構

① SD1 (第28図)

〔位置〕 F-5～J-5グリッド

〔規模〕 長さ：南北約13m、幅：約2.5m、深さ：最大約93cm

〔検出状況〕 南側は調査区外に延びている。底部はやや狭いが、遺構南部は調査範囲外となるため、規模や形状は不明である。左岸法肩に木杭列を伴う。杭の打ち込み時期は検出高さから、A区SD1と同じく、近世に打ち込まれた可能性が考えられる。底部は碗状であるが、右岸部分が調査区外に延びるため、正確な形状は不明である。

〔出土遺物〕 かわらけなどの土師質土器のほか、漆椀・下駄などの木製品、凹み石が出土した。(図版番号 150～159)。

(3) 2 面目 (古墳時代後期)

A区およびB区では調査区平面が地下水により泥化していたことにより、遺構の検出は困難を極めた。そのなかにおいても、第5次調査B区で確認されたような石囲い炉や炭化物の広がりを想定して調査を実施したが、調査区壁面を含め遺構の検出には至らなかった。

第4節 出土した遺物

本発掘調査で出土した遺物には、古墳時代後期の土師質土器、須恵器のほか、中世～近世までの土器、陶磁器、金属遺物、木製品、古銭がある。

第5次調査1面目（A区・B区）

近世に属する土師質土器、陶磁器、木製品が出土した。遺物の残存率は全体として悪く、完形の遺物は土師器皿2つのみであり、残りは小破片が多くを占めた。第5次調査全体での遺物出土量は、プラスチック収納箱（縦49.5cm、横34cm、高さ16cm）で20箱を数える。

土師質土器

3～4・11～12・70は土師質土器皿（かわらけ）である。やや粗い胎土に白色砂が目立ち、焼成は良好である。3～4の完形のものについては、いずれも口径6cm程度と小さいものであり、その他破片についても口径10cm程度が想定される。形状は、底部から斜めに体部が立ち上がり口縁部は玉状である。器壁は全体を通して厚みがある。底部は回転糸切り痕がみられる。5・13～15は摺鉢である。金雲母を含むやや粗い胎土で、いずれも焼成は良好である。摺り目の条数は9条、8条、3条である。いずれも使用による摩耗が認められる。16は内耳鍋である。耳部分のみが出土し、全体の形状は不明である。

陶磁器

1・6は青磁の破片である。17・30～32・35・72は碗である。35は染付により松葉を描く。18・29・33は皿である。18には染付文様33は志野焼の皿であり、近世初頭と考えられる。19は天目茶碗である。黒色の鉄釉葉がかかる。34は須須の蓋である。71は灯明皿である。外面及び内面に釉葉がかかる。

木製品

2・20は木製の椀である。共に外面に黒漆であり、20は後朱塗りの文様を施す。7～10・25～28は燃えさしである。いずれも自然木をそのまま使用したと考えられる。片側が炭化しているものが多いが、8は両側に炭化が認められる。9・28は片端部に切り込みが認められる。21～23・36は曲げものである。21・22は同一の製品であり、底板と側板である。底板には被熱跡が、側板には桜の樹皮での綴じ合わせが認められる。24・37は箸である。共に片端を削った片口箸である。

第5次調査2面目（B区）

古墳時代後期に属する土師質土器、須恵器、木片が出土した。遺物の残存率はまちまちではあるが、完形に近い土師器皿が複数確認され、残りは小破片が多くを占めた。また、わずかではあるが調査区西側および表探で近世の遺物が確認された。

土師質土器

38～40・43・45・48・54～55・61～64は坏である。全体の傾向として底部から胴部にかけて緩やかに立ち上がり、胴部中央で肩を張ったのち、口縁部にかけてやや外反する。うち、43・48・54・55・61については外面内面両方に赤彩が認められた。45は外面内面ともに黒彩である。隣接する上三條河原遺跡の坏と類似性が認められ、同様の古墳時代後期と考えられる。41～42・44・47・51～52・67は甕である。甕は器形が大きい傾向があるため、今回調査では土圧により細かい破片となったものが多く、復元率50パーセントを超えたものは認められなかった。いずれも外面内面でハケ目やへら削りの痕が顕著に認められた。46・53・57～60・69は甕である。46・53については、底部まで残存しており、蒸気を通す孔が中央に穿たれている。49は台付甕、50・65～66は高坏である。いずれも脚部のみの出土であり、全容はつかむことができないが、坏と同じく古墳時代後期と考えられる。68は小甕としたが、形状から製塩土器の可能性も考えられる。

須恵器

56 は坏である。成形段階で不具合があったと想定され、口縁部がかなり斜めに落ち込んだ形状となっており、底部についても水平ではなく、やや波打った形状が認められる。土師質土器の坏とは異なり、口縁部の外反は認められない。今回調査で須恵器は形状が認識できるものは本品以外にはなく、破片についても小破片がわずかに認められるに留まった。

第6次調査1 面目（A区・B区）

中世に属する土師質土器、陶磁器、木製品、石製品、鉄製品、古銭が出土した。遺物の残存率はおおむね良く、完形の遺物は土師質土器9つを数えたほか、漆椀や下駄についても遺物の残存率は50パーセントを超えたものが多かった。残りは小破片が多くを占めた。第6次調査全体での遺物出土量は、プラスチック収納箱（縦49.5cm、横34cm、高さ16cm）で11箱を数える。

土師質土器

80～82・90・96～97・99～102・104～108・111・113～115・117～118・121・123～125・150～151・167は土師質土器皿（かわらけ）である。ややきめ細やかな胎土に金雲母が目立ち、焼成は良好である。食器としての機能が想定される。全体の傾向としては底部から斜め上に体部が立ち上がりやや肩を張った後、口縁部はやや外反する。器壁は厚く、底部には回転系切り痕がみられる。内面中央付近は指抑えの痕がありやや凹み、外面にはナデ調整の痕跡がみられる。完形のものについては、口径13cm程度のもの、10cm程度のもの、7cm程度のものとおおむね3種類に分けられる。形状から小井川遺跡3次調査で出土したかわらけIV類と似た特徴が認められ、時期は15世紀後半頃と考えられる。なお、墨書等が施されたかわらけは認められなかった。また、151については内面および外面の全体が黒くなっており、底面に溶融した付着物が認められることから、食器以外の鍛冶など使用方法が想定される。83・89・95・126・168は播鉢である。摺り目の条数は9条、8条、7条ものがある。いずれも使用による摩耗が認められる。86・110・122・160は常滑甕である。112は香炉である。三つ足である。134は器種不明である。169は焙烙である。

陶磁器

84・119・129・170は碗である。116は土瓶である。外面に鉄軸葉がかり、底部は回転系切り痕、三つ足である。120・127は青磁である。120は内面に陰刻があるが文様は不明。135は皿である。染付による文様が認められる。

木製品

77・91・94・155は漆椀である。77・94・155は外面に黒漆後朱塗りの文様を施す。79は曲げものである。蓋と思われ、桜の樹皮が編み込んである。93・109・128・137は箸である。128は両端を削った両口箸、それ以外は片口箸である。109は燃えさしとして2次利用されている。98・103・130・152～153は下駄である。130・152は1本の木から削り出した連歯下駄であり、歯の部分が大きく摩耗している。98・103は高下駄、153は田下駄と考えられる。131・136・161・164～166は燃えさしである。いずれも自然木をそのまま使用したと考えられる。165は片端部に切り込みが認められる。片側が炭化しているものが多いが、131は両側に炭化が認められる。154は鋤である。中央部に穿孔が2か所認められる。157は底板である。規模からして桶か。一部炭化している。158は木杭である。先端部の尖状加工が認められる。163は棒である。中央部に加工痕があるが用途不明。

石製品

78・87は五輪塔である。78は水輪で上下の平面はやや平行を欠く。87は火輪であり、隅角部が欠損しており残存状況は良くない。85は茶臼である。上臼と思われ、9条の摺り目が認められる。胴部には把手を入れ込むほぞ穴が認められる。92はすり石と思われる。132・156・159は凹み石である。いずれも石中央が大きく凹み、内底部に摩耗痕が認められる。

金属製品

133は煙管である。162は釘である。断面は四角形となり、先端部は折れ曲がっている。
88・138は古銭である。88は摩滅のため銭種不明。138は寛永通宝である。

第6次調査2面目（A区・B区）

古墳時代後期に属する土師器が出土した。残存率は悪く、もっともよいもので30パーセント程度であり、完形の遺物は確認されなかった。残りは小破片が多くを占めた。

土師質土器

73・76・140～141は坏である。74～75・142～146は甕である。139は高坏である。147は甕である。いずれも小破片であるが、140については30パーセントほどの残存率であり、底部から胴部にかけて緩やかに立ち上がり、胴部中央から口縁部にかけてやや外反する。5次調査B区2面で出土した坏と共通の形が認められるため、古墳時代後期と考えられる。

石製品

148はすり石と思われる。149は用途不明であるが、湾曲部の中央付近に切り欠きがある。

第4章 自然科学分析

本遺跡の古環境・植物利用について、各種自然化学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。以下は、その内容を一部加筆修正したものである。

小井川遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

小井川遺跡（山梨県中央市布施地内）は、令和3年度および令和4年度の発掘調査の結果、古墳時代後期～終末期、中世および江戸時代の遺物や遺構が検出されている。

本報告では、発掘調査時に確認された堆積層の年代、古植生および土地利用の変遷の検討を目的として、放射性炭素年代測定、花粉分析を実施した。

1. 試料

試料は、令和3年度および令和4年度の発掘調査で確認された堆積層より採取された土壌19点である。試料の詳細（調査年度、地区名、確認面、地点名および調査所見等）は一覧として表1に示す。また、後述する放射性炭素年代測定に供した土壌や植物遺体の性状も並記したので参照されたい。

本分析では、土壌試料18点を対象に花粉分析を、土壌試料2点と木材や小径木、地下茎*等の植物遺体を主体とする有機質試料16点を対象に放射性炭素年代測定を実施する。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定に供した試料のうち、泥炭質の土壌および植物遺体は試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸（HCl）により炭酸塩等可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理：AAA）。濃度はHCl、NaOH共に最大1Mである。なお、アルカリ処理は、0.0001M～1Mまで濃度を上げ、試料の状況をみながら処理を進める。1Mの水酸化ナトリウムで処理が可能であった場合はAAAと記す。一方、試料が脆弱で1Mの水酸化ナトリウムでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度の水酸化ナトリウムの状態で処理を終える。その場合はAaAと記す。

土壌（暗灰色シルト～粘土）は、根等の混入物をピンセットで除去した後、1Mの塩酸を加えて含まれる炭酸塩を溶かし、中性になるまで水洗を繰り返す。試料をすりつぶして乾燥させ、試料とする（HClと記す）。

表1. 分析試料および分析項目一覧

調査年度	調査区	確認面	地点名	調査所見	分析項目*		放射性炭素年代測定試料
					P	14C	
R3	A区	1面目	北壁A-A'第5層		●	●	● 植物片（地下茎?）
R3	A区	1面目	北壁A-A'第4層	近世遺構確認	●	●	● 土壌（暗灰色シルト～粘土）
R3	B区	2面目	北壁第9層		●	—	—
R3	B区	2面目	北壁第9層	古墳後期～終末期の遺物・遺構検出	●	●	● 土壌（黒色シルト質砂～砂質シルト）
R3	B区	2面目	木地盤定		●	●	● 木材
R4	A区	1面目	東西ベルト西側第9層	中世、漆器検出	●	●	● 小径木（百年枝）
R4	A区	1面目	東西ベルト西側第11層		●	●	● 小径木（百年枝）
R4	A区	1面目	サブソ3第13層		●	●	● 炭化材（コナ糖?）
R4	A区	1面目	サブソ3第14層		●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	A区	1面目	SD1中世北壁第20層		●	●	● 木材
R4	B区	1面目	SD1（東西ベルト）第1層（上部）	中～近世	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	B区	1面目	SD1(A-A')第12層	中世	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	B区	1面目	SD1(A-A')第14層	中世	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	B区	1面目	SD1(A-A')第15層	中世	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	A区	2面目	西壁第27層	古墳時代の遺物を含む	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	A区	2面目	西壁第28層	古墳時代の遺物を含む	●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	B区	2面目	南壁第12層		●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	B区	2面目	南壁第13層		●	●	● 植物片（地下茎?）
R4	A区	1面目	小井川6次SD2上層サブソ3層	4層より中世かわらげ出土	—	●	● 小径木（百年枝）

* P：花粉分析、14C：放射性炭素年代測定（AMS法）

精製された試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elemental 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定を行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver and Polach, 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4 (Bronk, 2009)、較正曲線は IntCal20 (Reimer et al., 2020) である。なお、暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5,730 \pm 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

(2) 花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重 2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉 (1973)、中村 (1980a)、藤木・小澤 (2007)、三好ほか (2011) 等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類を - (ハイフォン) で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が 100 個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を + (プラス) で表示するに留めている。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表 2、図 1 に示す。各試料の同位体補正を行った測定結果は、A 区北壁 A-A' 第 5 層が 1190 \pm 20BP、A 区北壁 A-A' 第 4 層が 1120 \pm 20BP、B 区北壁 第 9 層が 1515 \pm 20BP、B 区木密集② が 1575 \pm 20BP、A 区東西ベルト西側 第 8 層が 810 \pm 20BP、A 区東西ベルト西側 第 11 層が 385 \pm 15BP、A 区サブトレ 3 第 13 層が 620 \pm 15BP、A 区サブトレ 3 第 14 層が 370 \pm 15BP、A 区 SD1 左岸北壁 第 20 層が 300 \pm 15BP、B 区 SD1 (東西ベルト) 第 1 層 (上部) が 340 \pm 15BP、B 区 SD1 (A-A') 第 12 層が 1120 \pm 20BP、B 区 SD1 (A-A') 第 14 層が 985 \pm 20BP、B 区 SD1 (A-A') 第 15 層が 1355 \pm 20BP、A 区西壁 第 27 層が 1510 \pm 20BP、A 区西壁 第 28 層が 1540 \pm 20BP、B 区南壁 第 12 層が 1515 \pm 20BP、B 区南壁 第 13 層が 1540 \pm 15BP、A 区 SD2 土層サンプル 1 層③ が 300 \pm 15BP である。

また、暦年較正結果 (2 σ) は、A 区北壁 A-A' 第 5 層が calAD 773 ~ calAD 889、A 区北壁 A-A' 第 4 層が calAD 890 ~ calAD 988、B 区北壁 第 9 層が calAD 540 ~ calAD 602、B 区密集② 木 5 が calAD 430 ~ calAD 549、A 区東西ベルト西側 第 8 層が calAD 1,218 ~ calAD 1,268、A 区東西ベルト西側 第 11 層が calAD 1,450 ~ calAD 1,620、A 区サブトレ 3 第 13 層が calAD 1,301 ~ calAD 1,398、A 区サブトレ 3 第 14 層が calAD 1,457 ~ calAD 1,625、A 区 SD1 左岸北壁 第 20 層が calAD 1,516 ~ calAD 1,647、B 区 SD1 (東西ベルト) 第 1 層 (上部) が calAD 1,484 ~ calAD 1,635、B 区 SD1 (A-A') 第 12 層が calAD 889 ~ 990、B 区 SD1 (A-A') 第 14 層が calAD 997 ~ calAD 1,153、B 区 SD1 (A-A') 第 15 層が calAD 646 ~ calAD 759、A 区西壁 第 27 層が calAD 544 ~ calAD 600、A 区西壁 第 28 層 6 が calAD 437 ~ calAD 595、B 区南壁 第 12 層が calAD 542 ~ calAD 601、B 区南壁 第 13 層が calAD 438 ~ calAD 591、A 区 SD2 土層サンプル 3 層が calAD 1,516 ~ calAD 1,648 である。

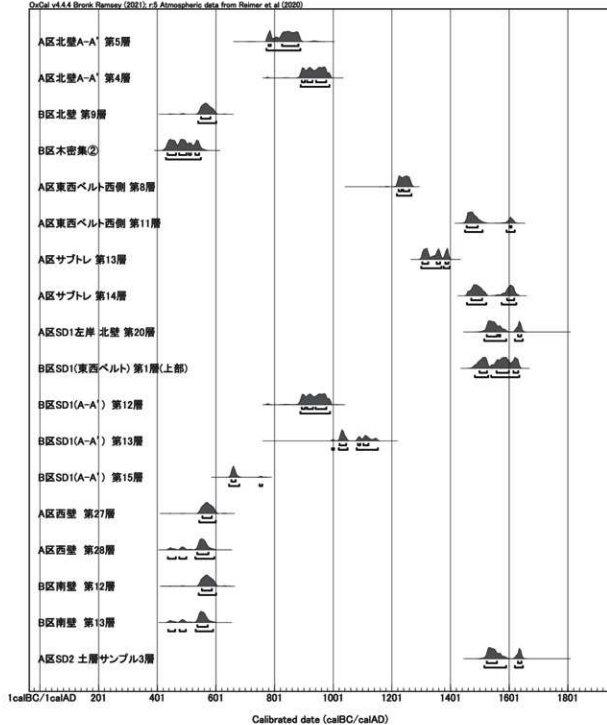


図1. 暦年校正結果

(2) 花粉分析

結果を表3、図2に示す。花粉化石の産状は試料により異なるが、保存状態は花粉外膜が破損・溶解しているものが多く、全体的に悪い。以下、調査年度、調査区および確認面毎に産状を記す。

1) R3年度 A区1面目

北壁A-A'の第5層・第4層は、いずれも花粉化石が豊富に産出し、群集組成も類似する。木本花粉では、モミ属、ツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属が多く、トウヒ属、マツ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属などを伴う。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科が多産し、ミクリ属、ミズアオイ属などの水湿地生植物も認められる。多産したイネ科には栽培種のイネ属も含まれており、イネ科100個体以上産出した試料におけるイネ科全体に占めるイネ属の割合は、A区北壁A-A'第4層が68.9%であった。イネ属以外の栽培の可能性のあるものでは、ソバ属も確認された。

2) R3年度 B区2面目

北壁の第8層・第9層および木密集②の3試料は、花粉化石の産出が少なく、いずれも定量解析を行えるだけの個体数が得られなかった。検出された花粉は、木本花粉のモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、コナラ亜属など、草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節などである。

3) R4年度 A区およびB区1面目

A区東西ベルト第11層、A区SD1左岸北壁第20層、B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)、B区SD1 A-A'第12層・第13層の5試料は花粉化石が豊富に産出するが、A区東西ベルト第8層、A区サブトレ3第13層・第14層およびB区SD1 A-A'第15層の4試料は産出が少ない。

花粉化石が豊富に産出した試料について見ると、B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)を除く4試料は群集組成が類似し、木本花粉ではモミ属、ツガ属、スギ属、コナラ亜属が多く、トウヒ属、マツ属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)はマツ属が最も多く産出し、モミ属、コナラ亜属などを伴う。草本花粉は、5試料のいずれもイネ科、カヤツリグサ科が多産し、ミクリ属、ミズアオイ属、アブラナ科、ヨモギ属などを伴う。イネ科が100個体以上産出した試料のイネ属の割合は、A区東西ベルト第11層が49.5%、A区SD1左岸北壁第20層が34.9%、B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)が71.7%、B区SD1 A-A'第12層が50.0%であった。花粉化石の産出が少ない4試料は、木本花粉のモミ属、ツガ属、マツ属、草本花粉のイネ科、ヨモギ属などがわずかに認められる程度である。

4) R4年度 A区およびB区2面目

A区西壁第27層・第28層は花粉化石の産出が少ないが、B区南壁第12層・第13層は花粉化石が豊富に産出する。B区南壁第12層・第13層は群集組成が類似しており、木本花粉ではモミ属、ツガ属、コナラ亜属が多く、トウヒ属、スギ属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が多く、キク亜科などを伴う。A区西壁第27層・第28層では、木本花粉のモミ属、ツガ属、トウヒ属、マツ属、スギ属など、草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科などが認められる。

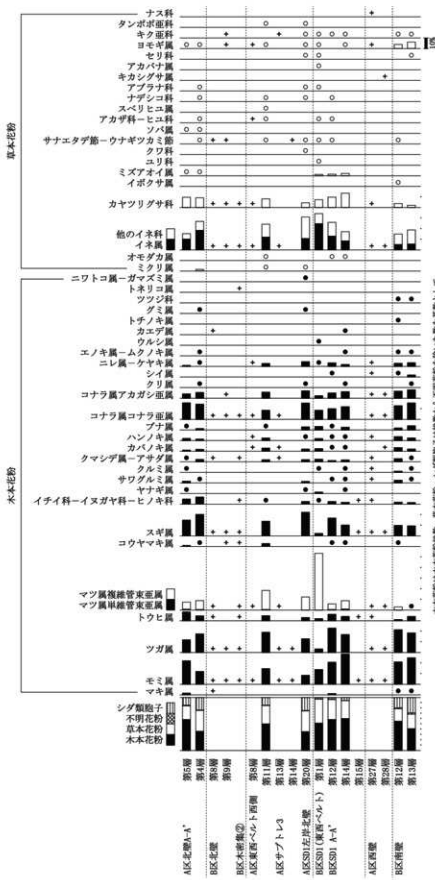
4. 考察

(1) 堆積層の年代観

各堆積層を対象とした放射性炭素年代測定結果に基づき暦年較正結果(2σ)は、およそ古墳時代、古代および中世以降の暦年代範囲を示す試料のまとまりが確認された。ここでは、各試料の暦年較正結果および調査所見等を参考として、考察を行う。

1) 古墳時代

古墳時代頃の暦年代範囲を示した試料は、B区北壁第9層、B区木密集②、A区西壁第27層・第28層、B区南壁第12層・第13層の6試料である。B区北壁第9層は古墳時代後期〜終末期の遺物や遺構が検出された層とされており、B区木密集②は第9層と同じレベルからの検出とされている。前者は6世紀中頃から7世紀初頭の暦年代範囲を示しており、調査所見と調和する結果と言える。後者は、今回の測定対象とした試料中では最も古い暦年代範囲(5世紀前半〜6世紀中頃)を示しており、



木本花粉は本郷南郷、草本花粉は緑園から不明花粉を除いた調査地域として
1) 分析で表した。●は11%未満、*は木本花粉10%未満の層において検出された種数を示す。

図2. 花粉化石群集

表3. 花粉分析結果(1)

種 類	R3		R3		R4					
	A区		B区		A区					
	1面目		2面目		1面目					
	北壁A-A'		北壁		木密集②	東西ベルト 西側		サブトレ3		SD1 左岸 北壁
	第5層	第4層	第8層	第9層		第8層	第11層	第13層	第14層	
木本花粉										
マキ属	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	65	27	5	16	7	3	31	6	10	17
ツグ属	35	39	7	2	8	-	40	6	16	26
トウヒ属	24	10	1	-	1	-	10	-	-	6
マツ属早總管束亜属	2	1	-	-	-	-	1	1	-	-
マツ属後總管束亜属	20	19	4	-	2	1	38	4	-	25
コヤマキ属	3	1	-	1	1	-	6	-	-	-
スギ属	44	45	1	2	3	-	29	-	-	45
イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	14	15	-	-	2	-	2	-	-	5
ヤナギ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サワグルミ属	5	2	-	-	-	-	-	-	-	3
クルミ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマツグ属—アサダ属	1	5	1	-	1	-	4	1	-	4
カバノキ属	3	4	-	-	-	1	6	1	-	4
ハンノキ属	6	3	-	-	-	1	5	-	-	2
ブナ属	2	3	-	-	-	-	2	-	-	6
コナラ属コナラ亜属	46	32	4	4	4	2	18	1	-	31
コナラ属アカガシ亜属	12	12	-	1	-	-	12	-	-	14
クリ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
シイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属—ケヤキ属	3	1	-	-	-	1	6	-	-	9
エノキ属—ムクノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダミ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ニワトコ属—ガマズミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本花粉										
ミクリ属	-	9	-	-	-	-	2	-	-	5
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イネ属	50	113	1	2	2	1	50	2	-	61
他のイネ科	26	51	1	1	-	4	51	-	-	114
カヤツリグサ科	48	56	3	1	15	1	34	-	-	25
イボクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
ユリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サナエタデ節—ウナギツカミ節	-	1	1	2	-	-	2	-	1	3
ソバ属	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科—ヒユ科	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-
スベリヒユ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ナデシコ科	-	2	-	-	-	-	1	-	-	1
アブラナ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
キカンダクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカバナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヨモギ属	2	3	-	1	-	4	2	-	-	4
キク亜科	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2
タンポポ科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ナス科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉										
不明花粉	5	6	-	-	1	-	3	-	-	5
シダ類胞子										
シダ類胞子	74	145	20	1	19	1	61	9	5	140
合 計										
木本花粉	293	222	25	26	30	9	210	20	26	201
草本花粉	129	244	6	8	17	11	146	3	1	223
不明花粉	5	6	0	0	1	0	3	0	0	5
シダ類胞子	74	145	20	1	19	1	61	9	5	140
合計(不明を除く)	496	611	51	35	66	21	417	32	32	564

表3. 花粉分析結果(2)

種 類	B1			B4			B4			
	B1区			B4区			B4区			
	1面片			2面片			2面片			
	SD1 (実数 ×10 ⁻¹)	SD1(A-A')			西壁			南壁		
第1層	第12層	第14層	第15層	第27層	第28層	第12層	第13層			
木本花粉										
マキ属	-	4	-	-	-	-	-	-	1	1
モミ属	29	68	64	2	40	6	57	50		
ツグ属	7	75	38	-	21	1	58	37		
トウヒ属	4	20	9	2	5	-	3	8		
マツ属甲種管束虫属	-	2	2	-	-	-	-	1		
マツ属液線管束虫属	112	17	18	-	13	1	8	-		
コウヤマキ属	-	1	1	-	-	-	-	1		
スギ属	5	55	23	1	4	1	27	19		
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2	8	4	1	1	-	5	3		
ヤナギ属	3	-	1	-	-	-	-	-		
ツグ属	-	1	2	-	1	-	7	1		
クルミ属	1	-	1	-	1	-	3	1		
クサシブ属-アサダ属	5	4	4	-	1	-	8	1		
カバノキ属	5	3	1	-	-	1	9	4		
ハンノキ属	4	2	2	-	1	-	10	5		
ブナ属	7	3	6	-	-	-	5	8		
コナラ属コナラ虫属	18	53	27	-	1	1	35	31		
コナラ属アカガシ虫属	5	16	14	-	2	1	18	16		
クリ属	-	-	1	-	-	-	-	1		
シイ属	-	3	-	-	2	-	2	4		
ヒメ属-ケヤキ属	1	11	4	-	1	-	8	7		
エノキ属-ムクノキ属	-	-	1	-	-	-	2	1		
ウルシ属	1	-	-	-	-	-	-	-		
カエデ属	-	-	1	-	-	-	-	-		
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-		
グミ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	2	1		
トネリコ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
ヒワトコ属-ガマズミ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
草本花粉										
ミタケ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
オモダカ属	-	1	1	-	-	-	-	-		
イネ属	99	72	31	-	1	1	24	26		
他のイネ科	39	72	33	-	6	-	48	63		
カタツリグサ科	30	54	59	-	6	-	18	16		
イネコサ属	-	-	-	-	-	-	1	-		
ミズアオイ属	5	8	8	-	-	-	-	-		
ユリ科	1	-	-	-	-	-	-	-		
クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-		
サナエタデ属-ウナギツカミ節	1	1	-	-	-	-	2	-		
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
アカザ科-ヒユ科	1	1	-	-	-	-	-	-		
スメリヒユ属	-	-	-	-	-	-	-	-		
サデシコ科	-	3	-	-	-	-	-	-		
アザミ科	1	-	-	-	-	-	-	-		
キクシダ科	-	-	-	-	-	1	-	-		
アカバナ属	1	-	-	-	-	-	-	-		
セリ科	1	-	-	-	-	-	-	1		
ヨモギ属	3	-	1	-	1	-	19	29		
キタキク科	2	1	2	-	-	-	3	2		
タンポポ科	-	-	-	-	-	-	-	-		
オスロ科	-	-	-	-	1	-	-	-		
不明花粉										
不明花粉	3	5	1	-	3	1	9	11		
シダ類胞子										
シダ類胞子	10	16	21	1	264	26	96	142		
合 計										
木本花粉	209	306	224	6	94	12	270	200		
草本花粉	184	213	126	0	15	2	115	131		
不明花粉	3	5	1	0	3	1	9	11		
シダ類胞子	10	16	21	1	264	26	96	142		
合計(不明を除く)	403	555	371	7	373	40	481	473		

堆積層の新旧関係を踏まえた評価が期待される。

A区西壁第27層・第28層とB区南壁第12層・第13層は、暦年代範囲が重なる部分があるものの、それぞれ若干の新旧関係が認められる。今回の結果を参考とすると、これらの堆積層は5世紀前半～7世紀初頭頃の年代が推定される。

2) 古代

古代頃の暦年代範囲を示した試料は、A区北壁A-A'第5層・第4層およびB区SD1(A-A')第12層～第15層の5試料である。A区北壁A-A'第5層・第4層の2試料は層間の新旧関係は整合するものの、調査所見では第4層は近世の遺物や遺構の検出面とされている。今回の結果は堆積層の形成年代を示している可能性があるが、この点については検討を要する。

B区SD1(A-A')試料は、調査所見によれば、同一地点の最も上位の堆積層に相当するB区SD1(東西ベルト)第1層(上部)が中・近世、第12層～第15層が中世という年代観が推定されている。第1層(上部)および第12層～第15層の暦年代範囲は、堆積層の新旧関係と調和的と言える。ただし、第12層～第15層について詳細にみると、第12層が9世紀後半～10世紀後半、第14層が10世紀末～12世紀中頃、第15層が7世紀半ば～8世紀半ば頃という暦年代範囲を示す。いずれも中世という年代観よりも古く、堆積層の新旧と暦年代範囲との間にばらつきが認められるが、暦年代範囲のまとまりとして古代観を主体とする堆積層の可能性が指摘される。

3) 中世以降

中世以降の暦年代範囲を示した試料は、A区東西ベルト西側第8層・第11層、A区サブトレ3第13層・第14層、A区SD1左岸北壁第20層、B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)、A区SD2土層サンプル3層の7試料である。

A区東西ベルト西側の2試料は、第8層が13世紀前半～後半、第11層が15世紀半ば～17世紀前半に相当する暦年代範囲を示した。調査所見によれば、第8層からは漆器碗が出土しており、中世という年代観が推定されていることから、第11層は堆積層の新旧関係から中世以前と推定される。ただし、第11層の暦年代範囲は、第8層よりも新しく、その評価については課題が残る。

A区サブトレ3の2試料は、第13層が14世紀初頭～末、第14層が15世紀半ば～17世紀前半に相当する暦年代範囲を示した。今回の結果から中世(～近世初頭)頃の年代観が推定されるが、上記のA区東西ベルト西側試料と同様に暦年代範囲が堆積層の新旧と異なっており、その評価については課題が残る。

A区SD1左岸北壁第20層、B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)、A区SD2土層サンプル3層の3試料は、いずれも中世～近世初頭頃の暦年代範囲を示した。B区SD1(東西ベルト)第1層(上部)は得られた暦年代範囲や堆積層の新旧関係ともに調査所見と調和する傾向が確認されている。A区SD2については、試料が採取された堆積層の4層より中世のかわらけの出土が確認されている。土層サンプル3層は3層に相当する試料であることから中世以降の年代観が推定され、本試料から得られた暦年代範囲は、堆積層の新旧と概ね調和する結果と言える。

(2) 古植生と土地利用

今回の分析に供した試料の花粉化石の産出状況は、全体的に花粉化石の保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが多かった。また、産出状況が悪い試料も多く認められた。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。検出された花粉化石の保存状態を踏まえると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けており、分解に強い花粉が選択的に多く残されている可能性がある。以下の考察では、定量解析に耐える花粉化石が産出した試料および放射性炭素年代測定結果や調査所見から堆積層の年代と調和的な試料を参考として、古植生について検討する。

古墳時代から近世初頭までの各試料を通じて、針葉樹のモミ属、ツガ属、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属が多く、針葉樹のトウヒ属やスギ属、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属、落葉広葉樹のニレ属-ケヤキ属等が産出した。このうちコナラ亜属は、ブナ属等とともに冷温帯性落葉広葉樹林の構成し、アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林の構成要素である。モミ属、ツガ属などはその両者の中間に当たる温帯性針葉樹である。これらは、遺跡周辺や集水域に分布する山地や丘陵等の森林植生に

由来すると考えられ、標高の低い部分にはアカガシ亜属なども生育していたと考えられる。また、スギ属は沢沿いなどに、ニレ属-ケヤキ属はサワグルミ属、クルミ属、ハンノキ属等とともに河畔などに生育する。これらは周辺の河川沿い等に林分を形成していた可能性がある。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属等の開けた明るい場所に生育する種類が検出された。これらは調査地周辺の草地植生を反映していると考えられる。

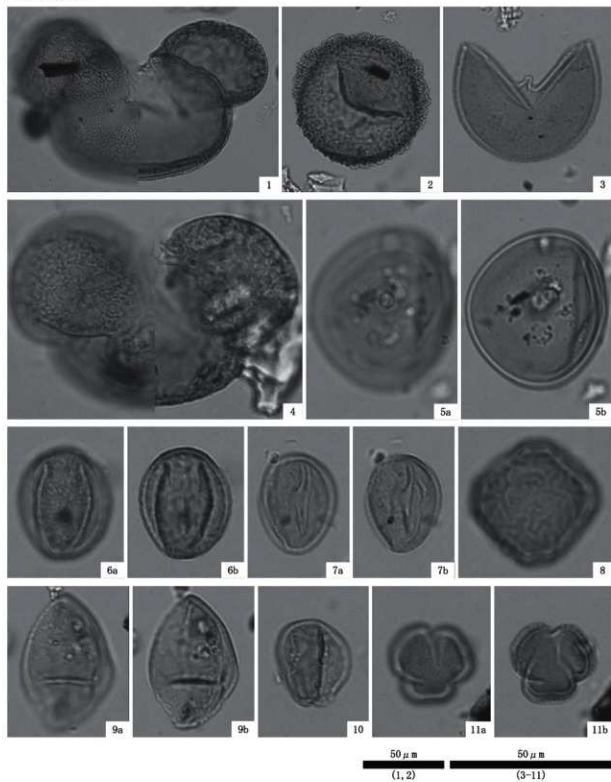
なお、マツ属複雑管束亜属についてみると、古墳時代～古代の試料と比較して、中世～近世初頭の試料で増加する傾向を示す。とくに、A区SD1（東西ベルト）第1層では高率となり、木本花粉に占める割合は約54%を示した。マツ属複雑管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、また、極端な陽樹であることから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類である。この結果から、中世～近世初頭の間に二次林等としてのマツ属複雑管束亜属が増加した可能性がある。

次に、栽培植物について見ると、古墳時代～近世初頭頃の各試料を通じてイネ属が検出された。中村（1980b）は、現在の水田耕土に含まれるイネ属花粉の割合は30%以上の比率であることから、イネ属の割合が30%以上を示す場合、少なくともその付近で現在に近い集約度の稲作が行われていたとみなせると述べている。イネ属の割合は、古墳時代の暦年代範囲を示す試料ではイネ属を含めたイネ科が100個未満のため参考値となるものの30%前後である。古代～近世初頭まで暦年代範囲を示す試料は35～72%という割合を示すとともに、水田雑草となりうるオモダカ属やミズアオイ属などの水湿地生草本も検出されている。この結果から、古代以降において周辺域で稲作が行われていたと考えられ、古墳時代頃についても稲作が行われていた可能性が考えられる。また、イネ属以外の栽培種では、ソバ属の花粉がA区北壁A-A'第5層・第4層よりソバ属が検出されたことから、ソバ栽培の可能性も考えられる。

<引用文献>

- Bronk, R. C., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.
- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 三宅 尚・中越信和, 1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態. *植生史研究*, 6, 15-30.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子, 2011, 日本産花粉図鑑. 北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.
- 中村 純, 1980a, 日本産花粉の標徴 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 中村 純, 1980b, 花粉分析による稲作史の研究. 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究-総括報告 書一, 文部省科研費特定研究「古文化財」総括班, 187-204.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buengen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62, 1-33.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然史博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- Stuiver, M., and Polach, H. A., 1977, Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- 徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・胞子. 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

図版1 花粉化石



1. モミ属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)
3. スギ属 (BESD1 (A-A') 第12層)
5. イネ属 (BESD1 (A-A') 第12層)
7. コナラ属アカガシ亜属 (BESD1 (A-A') 第12層)
9. イネ科 (BESD1 (A-A') 第12層)
11. ヨモギ属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)

2. ツガ属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)
4. マツ属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)
6. コナラ属コナラ亜属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)
8. ニレ属-ケヤキ属 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)
10. カヤツリグサ科 (BESD1 (東西ベルト) 第1層)

第5章 総括

小井川遺跡の発掘調査の成果を以下に述べる。

・第5次調査の成果（1面目）

A区では、近世の遺構確認面が検出され、南北方向を流れる溝状遺構1条（SD1）および、これに接続する東西方向を流れる溝状遺構2条（SD2・3）が確認された。特に南北溝については幅7mを数え、過去の小井川遺跡の調査で検出された溝状遺構に比べ規模が大きいといえる。これら3本の溝は周辺地域の水を当地点に集約し、南側へ排水をする役割を担っていたものと考えられる。ただし、溝に伴う木杭列や立木列は認められなかった。SD1では溝北側にて立板列が検出されたが、根入れ部分が浮いてしまっているため、元来当該地点にあった施設化は不明である。

いずれの溝からもかわらけなど土師質土器片や碗などの陶器、箸や漆椀などの木製品が出土した。特に木製品については、未炭化分を入れると漆椀が破片を含め3点、木箸が3点、燃えさしが20数点出土し、計44点を数え、土師器類の倍の出土量となった。これは小井川遺跡の出土量が多く、土中において木が分解されずに残り易いことが要因と考えられる。

B区ではA区で近世の遺構確認面が検出された地層が認められたものの遺構は伴わず、遺物についても調査区西側地点において3点の出土にとどまった。この地層は調査区中央付近にかけて徐々に厚さを失い、調査区東側地点では完全に消滅した。これによって調査区中央から東側地点では近世にかかる遺物の出土は皆無となり、代わって古墳時代後期の遺物包含層が検出された。これによって、近世の遺跡範囲はA区およびB区の西側のみということが判明した。

なお、自然科学分析の花粉分析の結果によると、A区においてはイネ属およびソバ属の花粉が検出された。今回調査では、水田遺構や畑の畝遺構など関連する遺構は検出されなかったが、今後周辺の古植生を理解するうえで参考となるであろう。

また調査初期では、近世の遺物が出土する第3層を一部掘りこむ形で、土管が格子状に敷設された様子を検出した。周辺住民への聞き取りによれば昭和30年代頃に畑の排水用に当地域一帯に埋められたもので、現代においても近世と変わることなく、水と密接に関わる生活の痕跡を見ることができた。



排水用土管の検出状況

・第5次調査の成果（2面目）

A区では、B区で確認された古墳時代後期の遺物包含層に該当するものは確認できず、地表下約2mまで水成堆積による粗砂とシルトの互層が続いており、土壌化した層は認められなかった。遺物の流れ込み等も確認できず、当時において流路等の水の付く地点であったと考えられる。

B区では古墳時代後期の遺物包含層および遺構確認面が検出された。遺構は調査区の北東隅に石囲い炉（SL1）が1か所、ほぼ同列のラインに遺物集中箇所が4か所、木片集中箇所が2か所、調査区を南北斜め方向に走る溝状遺構（SD1）が検出された。石囲い炉やその他の遺構はSD1から東側かつ調査区北側に集中をしていた。

遺物の出土は遺構と同様の範囲である、調査区東側に集中して分布をしていた。遺物は古墳時代後期の坏や高坏、甕、甕などの土師質土器が多数を占め、ごく少数ではあるが須恵器も出土した。いずれの遺物も長年の水成堆積による土圧により、押しつぶされ広がった状態で出土した。

遺構と遺物の検出位置から古墳時代後期の生活域は自然流路と考えられるSD1より東側に存在し、隣接する上三條河原遺跡と連続していることが判明した。

なお、自然科学分析の花粉分析の結果によると、5次調査2面目の土壌サンプルについてイネ属の花粉が検出された。周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

以上の結果から、第5次調査では土層の堆積関係や遺構遺物の分布から、小井川遺跡の東側境界かつ、上三條河原遺跡の西側境界を捉えることができたといえ、小井川遺跡の範囲を考えるうえで成果を残せたと言えるだろう。

・第6次調査の成果（1面目）

A区では南北方向を流れる溝状遺構1条（SD1）および、これに接続する東西方向を流れる溝状遺構2条（SD2・3）、SD2に並行するSD4、調査区東側でSD5の5条の溝状遺構などを検出した。南流するSD1は、小井川遺跡第1次調査で検出された近世のV字大溝の直下に位置しており、中世から近世を通しての土地利用の連続性を伺わせる。SD2は溝底部の砂利の堆積状況から、SD1から分岐して東流するのではなく、西流してSD1へ合流することが確認された。SD3との合流部においても同様の傾向がみられ、SD1へ溝が集約している状況が認められた。

B区においても南北方向を流れる溝状遺構1条（SD1）が検出されたが、右岸部分が調査区外へ延びていることから、A区との遺構の切り合い関係については不明である。

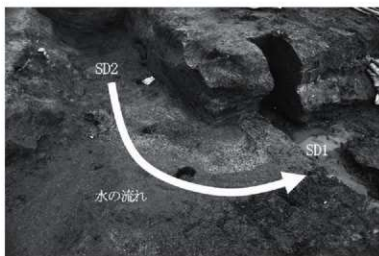
溝中からはかわらけや摺鉢などの土師質土器、漆椀や下駄、木杭などの木製品、五輪塔や茶臼、凹み石などの石製品が出土した。かわらけについては、完形品かほぼ同等のものが12枚を数えたほか、成形や器壁厚などにも一定の傾向が見られ、昨年度に比べ7倍の出土量であった。B区では、南北方向を流れる溝が1本検出された。

なお、自然科学分析の花粉分析の結果によると、イネ属の花粉が検出された。周辺で水田が耕作されていた可能性がある。さらに、A区SD1の左岸に部分的に残っていた木根を分析したところ、中世から近世初頭頃の年代観が示され、第4次調査の堤体上にあった立木列と同時代の結果となった。

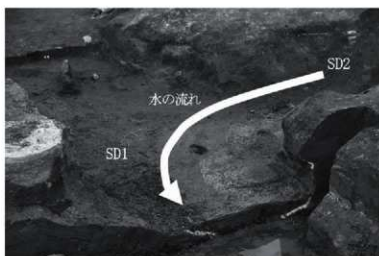
今回調査のSD1においても、木根の残存状況がよくなかったことから、堤防上にある立木とは言えないまでも、SD1右岸の切り株とあわせて、溝の脇に並木が並列する景観があった可能性も考えられる。

・第6次調査の成果（2面目）

A区およびB区において古墳時代後期の遺物包含層が検出された。環や甕などの土師質土器が出



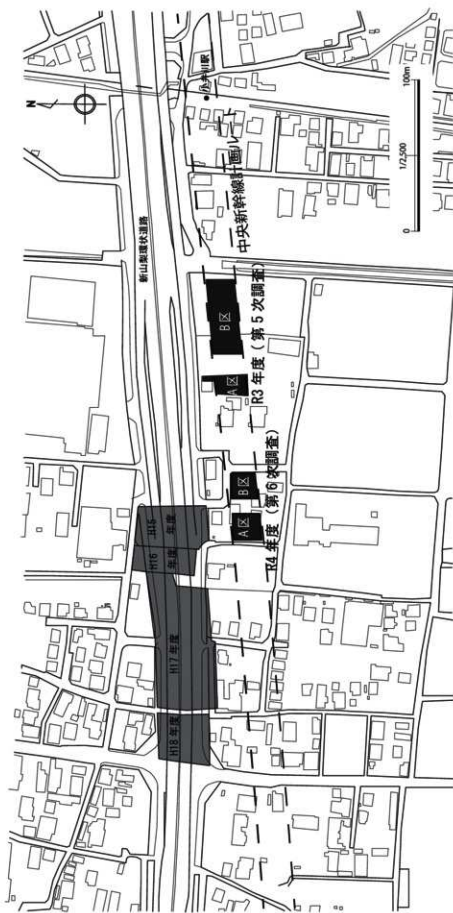
6次A区 SD1・SD2合流地点の状況（西から）



6次A区 SD1・SD2合流地点の状況（南から）

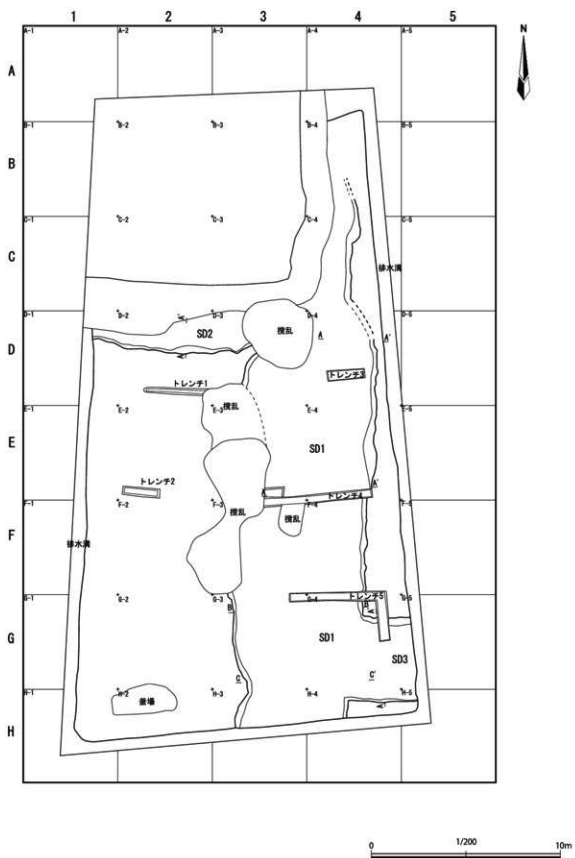
土したが、いずれも小破片であり、完形品は出土しなかった。第5次調査地点と比較すると、遺物出土量が大幅に減少したと言える。なお、調査区下面からの出水が激しかったこともあり、遺構の検出は認められなかった。これは令和2年度調査の上三條河原遺跡や第5次調査の生活面が緩やかに西へつづいた端部付近であると考えられる。

以上の結果から、第6次調査では第1次調査などで検出された寺域の南東端で複数の溝が集約し、南側へ排水をしている様子が確認できた。中世の遺物や遺構については西側に進むにつれ密度が濃い傾向がみられ、第3次で大型建物遺構が検出された地点へ近づいていることがわかる。今後の調査でより西側地点を調査することで小井川遺跡の中心部、大型建物遺構の南側の様子が判明し、遺跡の様子がより明確に見えてくると考えられる。

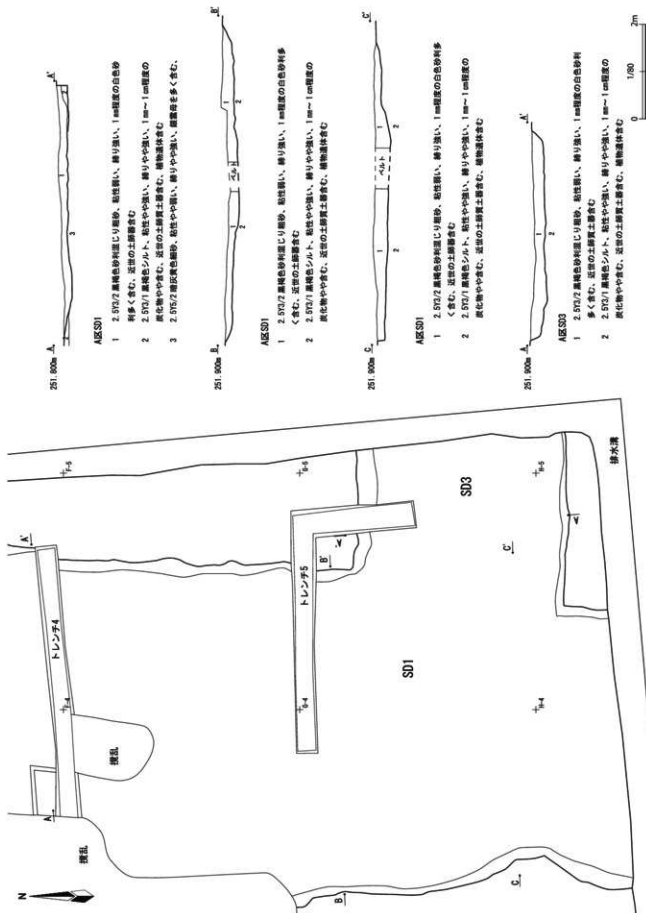


第4図 調査区位置関係図

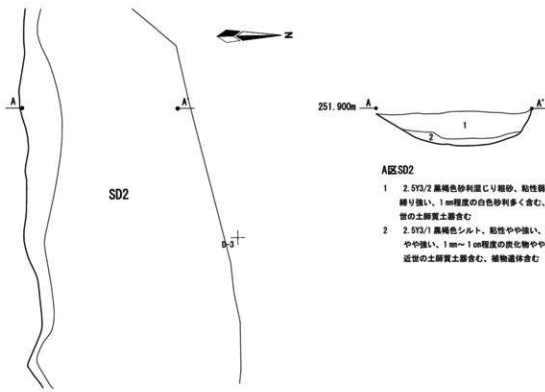
令和3年(5次)A区1面



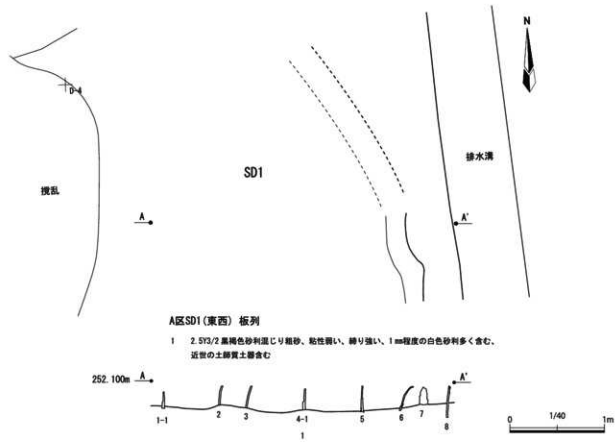
第5図 5次・1面全体図



第6図 5次・1面遺構図 (A区SD1・SD3)



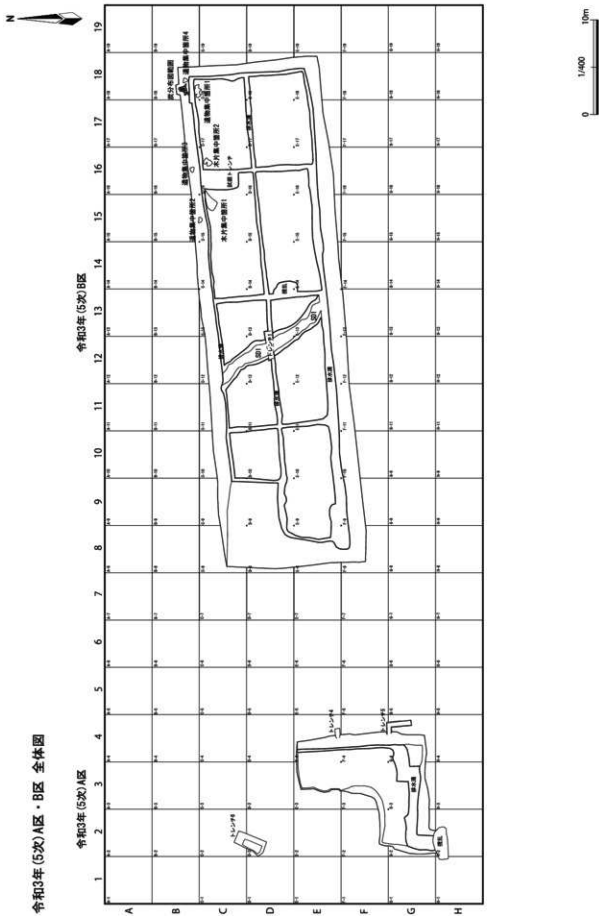
- A区SD2**
- 1 2.5%/2 黒褐色砂利混じり粗砂、粘性弱い、締り強い、1m程度の白色砂利多く含む、近世の土層質土層含む
 - 2 2.5%/1 黒褐色シルト、粘性やや強い、締りやや強い、1m～1cm程度の炭化物やや含む、近世の土層質土層含む、植物遺体含む



- A区SD1 (東西) 板列**
- 1 2.5%/2 黒褐色砂利混じり粗砂、粘性弱い、締り強い、1m程度の白色砂利多く含む、近世の土層質土層含む

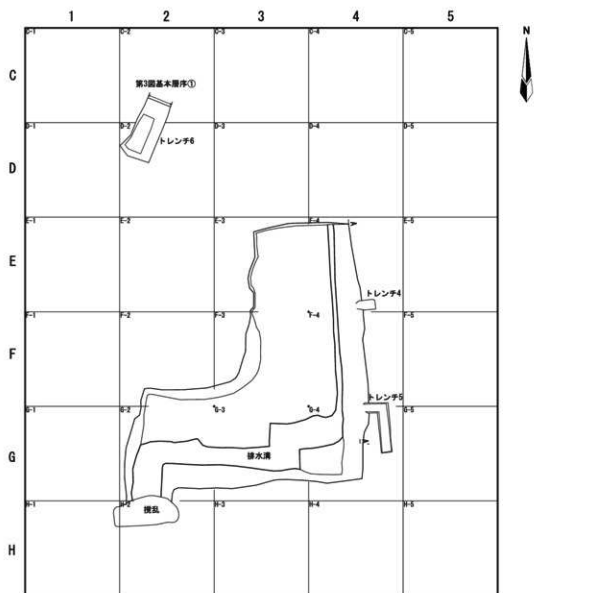
第7図 5次・1面遺構図 (A区SD1・SD2)

令和3年(5次)A区・B区 全体図

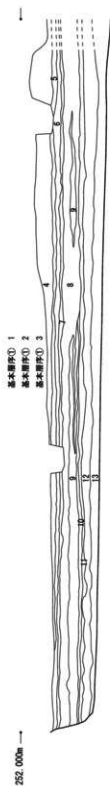


第8図 5次・2面全体図

令和3年(5次)A区 2面



第9図 5次・2面全体図 (A区)



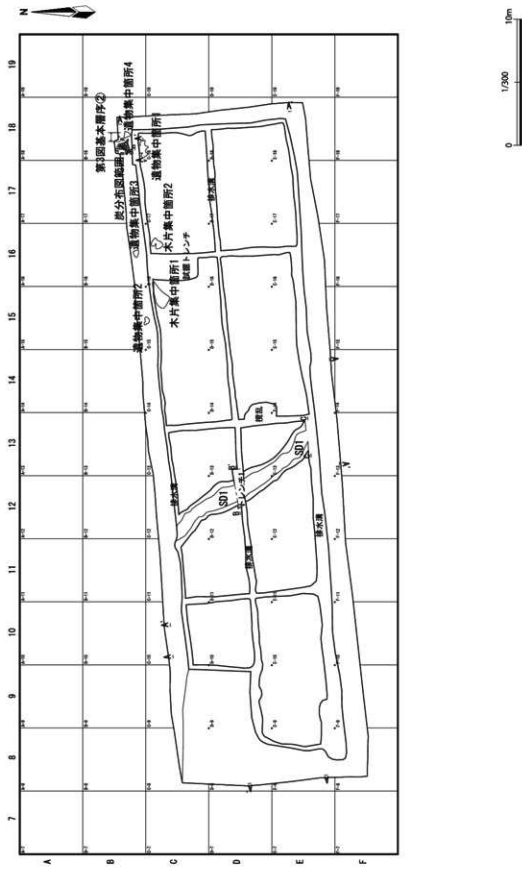
A区 東壁

- 1 基本層序① 1層
- 2 基本層序① 2層
- 3 基本層序① 3層
- 4 2.53/1 黒褐色シルト、粘性やや強い、1mm-1cm程度の炭化植物や赤心、互層の土層割土層を含む、植物遺体を含む
- 5 2.53/2 黒褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い、腐植層を多く含む、水分分の植物遺体を含む
- 6 2.53/3 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い、腐植層を多く含む
- 7 2.53/4 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い、腐植層非常に多く含む、やや乱れた層となりあり
- 8 2.53/5 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い
- 9 2.53/6 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い、水平の割れ目となりあり
- 10 2.53/7 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い
- 11 2.53/8 黄褐色細砂、粘性やや強い、細りやや強い
- 12 7.53/1 灰色シルトに赤心砂、粘性やや強い、細りやや強い、砂利を含む層となりあり
- 13 10/6/2 黒褐色細砂にシリンド、粘性やや強い、細りやや強い、植物遺体を含む

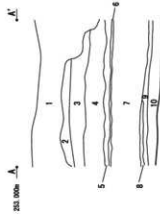


第10図 5次・2面断面図 (A区東壁)

令和3年(5次)B区1面

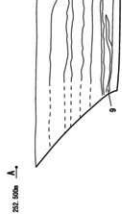


第 11 図 5 次・2 面全体図 (B 区)



8区北壁西側

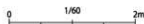
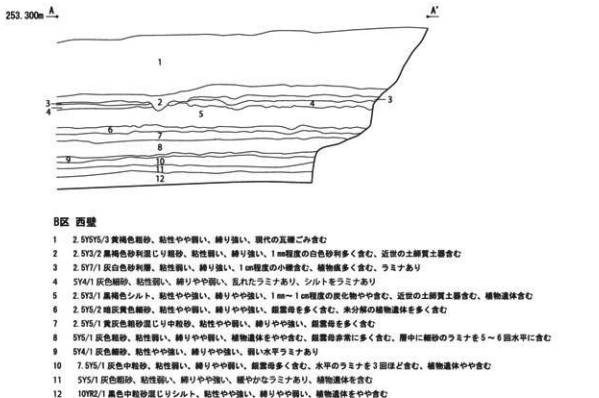
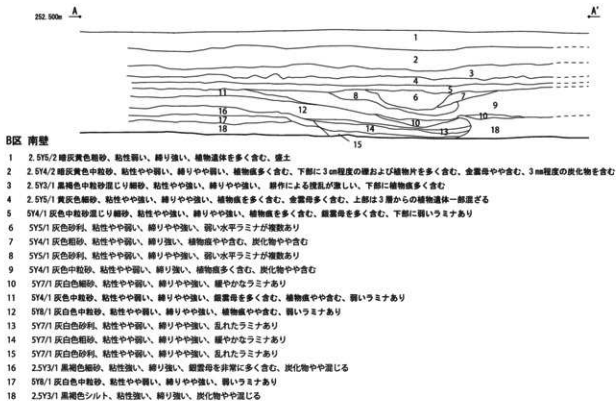
- 1 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締り強い、湿度の高い土質である。
- 2 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締り強い、1cm程度の白色砂粒を多く含む、湿度の高い土質である。
- 3 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締り強い、1cm程度の白色砂粒を多く含む、湿度の高い土質である。
- 4 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締り強い、1cm程度の白色砂粒を多く含む、湿度の高い土質である。
- 5 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 6 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 7 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 8 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 9 7.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 10 10%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。



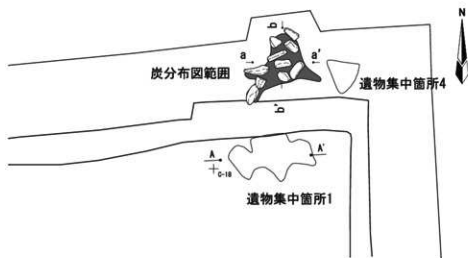
8区東壁

- 1 2.5%の黄褐色砂砂、粘性弱い、締り強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 2 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 3 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 4 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 5 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 6 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 7 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 8 5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 9 7.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締りやや強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。
- 10 2.5%の黄褐色砂砂、粘性やや強い、締り強い、締り強い、湿度を多く含む、湿度の高い土質である。

第12図 5次・2面断面図 (B区北・東壁)



第13図 5次・2断面図 (B区南・西壁)

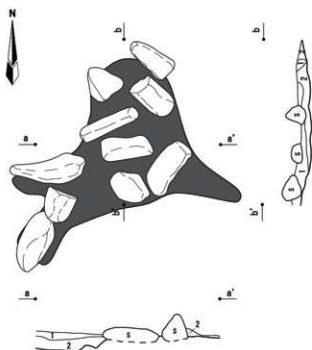


251,000m

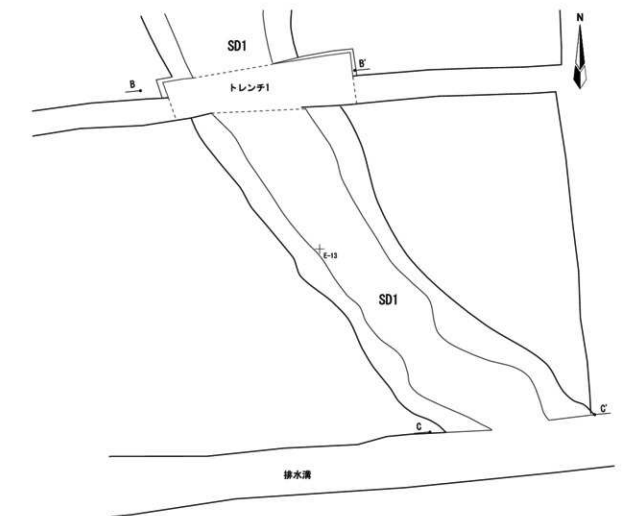
B区遺物集中箇所1

- 1 5Y2/1 黒色中粒砂混じりシルト、粘性やや強い、締りやや弱い、遺物含む(包含層)
- 2 2.5Y4/1 黄灰色細砂混じりシルト、粘性強い、締り強い、植物遺体やや含む

0 1/60 2m



第14図 5次・2面遺構図(B区遺物集中箇所1・SL1)



B区SD1

- 1 2.577/1 灰白色中粒砂、粘性弱い、締りやや弱い、植物遺体を多く含む、最大 20 cm 程度の木片を含む乱れたラミナあり
- 2 2.576/1 灰白色砂粒、粘性弱い、締りやや弱い、基層物遺体を多く含む、シルトをラミナ状に含む
- 3 2.577/1 灰白色砂粒、粘性弱い、締りやや強い、植物遺体をやや含む、弱いラミナあり、1.5cm 程度の小礫多く含む、古墳時代後期遺物含む
- 4 2.576/1 黄灰白色中粒砂混じりシルト、粘性やや強い、締りやや強い、炭化物をやや含む



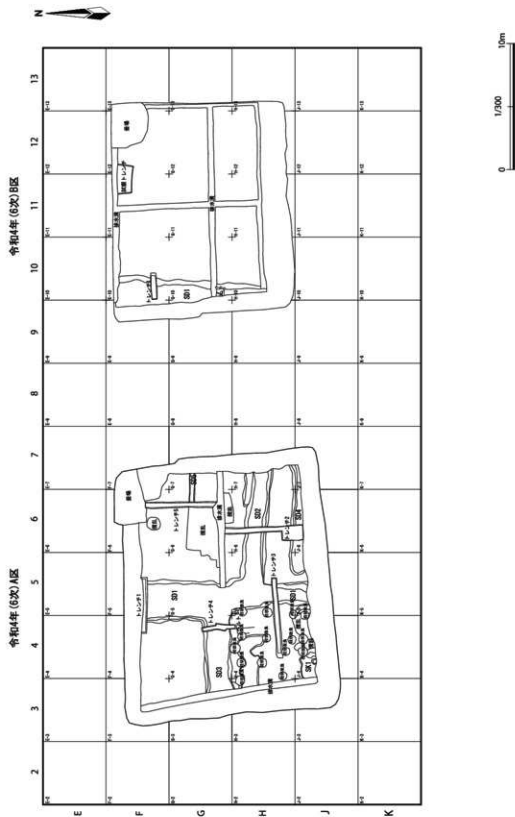
B区SD1

- 1 2.577/1 灰白色砂粒、粘性弱い、締りやや弱い、ラミナあり
- 2 2.577/1 灰白色中粒砂、粘性弱い、締りやや弱い、植物遺体を多く含む、最大 20 cm 程度の木片を含む乱れたラミナあり
- 3 2.576/1 灰白色砂粒、粘性弱い、締りやや弱い、基層物遺体を多く含む、シルトをラミナ状に含む
- 4 2.577/1 灰白色砂粒、粘性弱い、締りやや強い、植物遺体をやや含む、弱いラミナあり、1～1.5cm 程度の小礫多く含む
- 5 2.576/1 黄灰白色中粒砂混じりシルト、粘性やや強い、締りやや強い、炭化物をやや含む



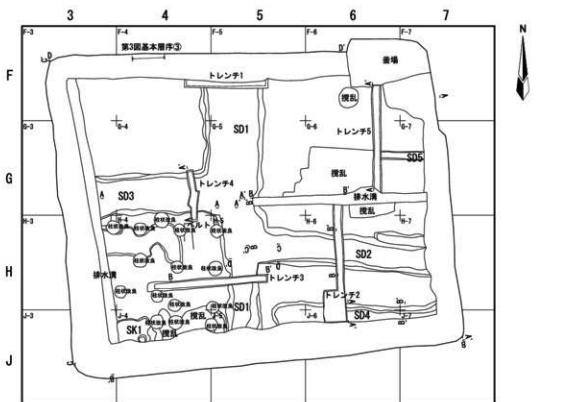
第 15 図 5 次・2 面遺構図 (B 区 SD1)

令和4年(6次)A区・B区 1面

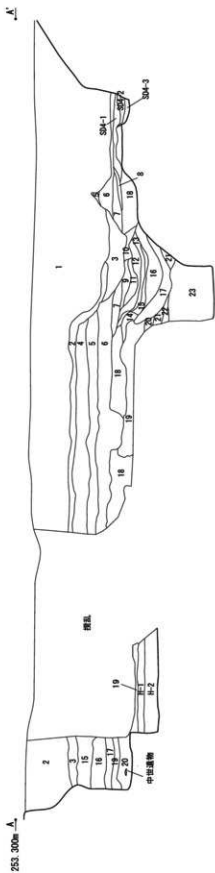


第16図 6次・1面全体図

令和4年(6次)A区1面



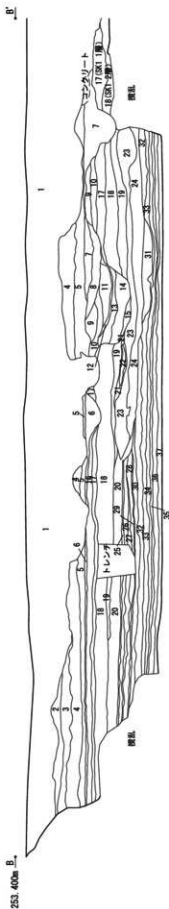
第17図 6次・1面全体図(A区)



A区東壁

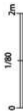
- 1 2.975/2黄褐色細砂じり厚土、粘土を多く含む、近代のごみを含む
- 2 3.971/1オリーブ褐色砂、粘性弱い、崩りやすい、近代のごみを含む
- 3 3.974/2オリーブ褐色砂、粘性弱い、崩りやすい、1.0m程度の硬さ
- 4 2.974/2埋込真土砂、粘性強い、崩りやすい、1.0m程度の硬さ、中央部硬化する
- 5 10.974/2灰褐色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、乱れたクマリアを含む
- 6 3.974/2オリーブ褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、1.0m程度の硬さ、近位の遺物を含む
- 7 3.974/1灰色細砂、粘性弱い、崩りや中強い、乱れたクマリアあり
- 8 2.972/2黄褐色細砂じり中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、植物遺体を多く含む
- 9 3.974/1灰色細砂、粘性弱い、崩りや中強い、乱れたクマリアあり
- 10 3.974/2オリーブ褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、ブロック状に細砂が入る、1.0m程度の白色砂粒を含む
- 11 3.974/1灰色細砂、粘性弱い、崩りや中強い、乱れたクマリアあり
- 12 10.972/2黄褐色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、層やクマリアあり
- 13 3.974/1灰色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、やや乱れたクマリアあり
- 14 2.972/1黄褐色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、灰化層をやや含む、細砂をブロック状に含む
- 15 3.974/1灰色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、層やクマリアあり
- 16 2.974/1灰色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、層やクマリアあり
- 17 3.974/1オリーブ褐色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、層やクマリアあり
- 18 2.975/2埋込真土中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、層やクマリアあり、植物遺体をやや含む
- 19 3.974/1灰色シルト、泥じり厚土、粘性や中強い、崩りや中強い、乱れたクマリアを形成、シルトや細砂をブロック状に多く含む
- 20 2.975/1灰色細砂、粘性や中強い、崩りや中強い、植物遺体と灰化層を多く含む、中央の遺物を含む
- 21 10.974/1灰色中砂、粘性や中強い、崩りや中強い、やや乱れたクマリアあり
- 22 2.974/1灰色細砂、粘性弱い、崩りや中強い
- 23 2.974/1灰色細砂、粘性や中強い、崩りや中強い
- 19-1 2.974/1灰色シルト、やや強い、崩り強い、植物遺体をやや含む
- 19-2 2.974/1灰色砂粒、粘性弱い、崩りや中強い

第18図 6次・1断面面図 (A区東壁)

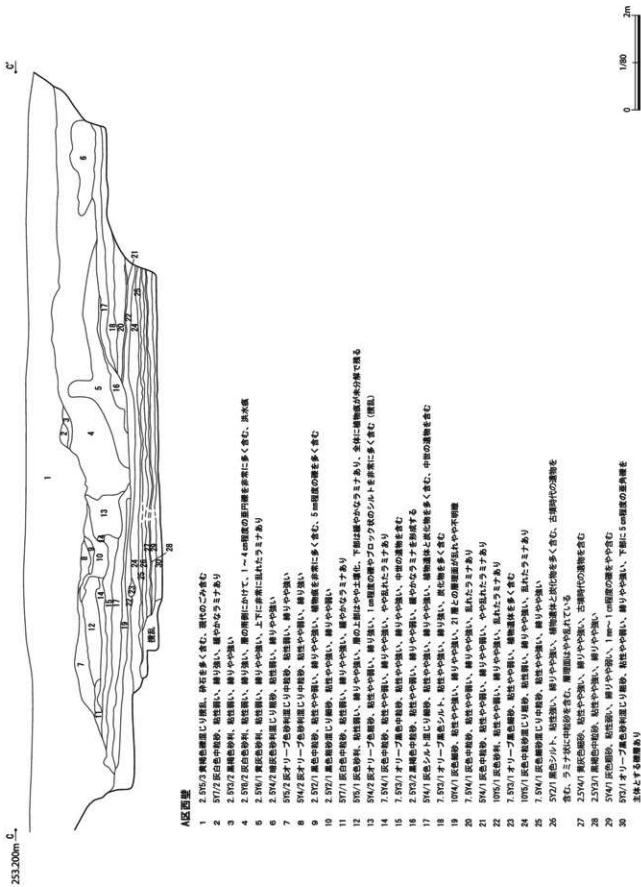


A区雨量

- 1 2,950/1 黄褐色細砂層じり砂岩、砂岩多量を含む、層状のつらつきあり
- 2 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 3 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、オレンジ色の鉄質層を含む
- 4 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 5 2,950/1 オリーブ褐色砂岩じり砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 6 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、上部は層状としている
- 7 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、中位はつらつきあり
- 8 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、下部には細砂層を含む
- 9 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、砂岩多量を含む、上部は層状としている
- 10 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、砂岩多量を含む
- 11 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 12 2,950/1 オリーブ褐色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 13 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 14 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 15 2,950/1 オリーブ褐色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 16 2,950/1 オリーブ褐色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 17 2,950/1 オリーブ褐色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり、上部は層状としている
- 18 2,950/1 オリーブ褐色砂岩じり砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 19 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 20 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 21 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 22 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 23 2,950/1 オリーブ褐色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 24 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 25 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 26 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 27 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 28 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 29 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 30 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 31 2,950/1 灰色砂岩じり砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 32 2,950/1 灰色砂岩じり砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 33 2,950/1 灰色シルト、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 34 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 35 2,950/1 黒色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 36 2,950/1 灰色砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり
- 37 2,950/1 オリーブ褐色砂岩じり砂岩、粘りや強い、層状のつらつきあり



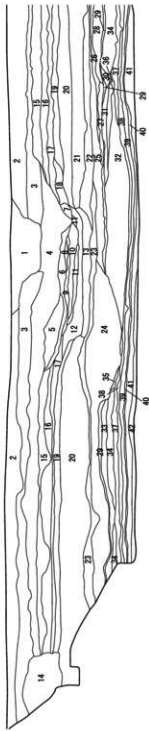
第19図 6次・1面断面図(A区南壁)



第 20 図 6 次・1 面断面図 (A 区西壁)

253.200m 0

北

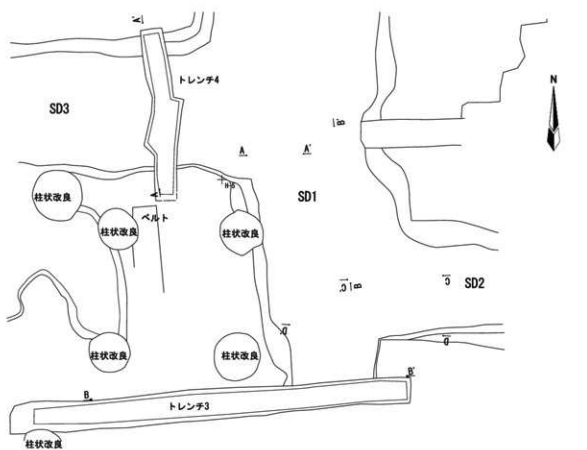


第21図 6次・1面断面図(A区北壁)

A区北壁

- | | |
|---|---|
| <p>1 2.5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、ビニール片含む</p> <p>2 2.5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、礫石を多く含む、直下の2か所含む</p> <p>3 10M/5/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い</p> <p>4 2.5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、1cm程度の小礫、灰化層を多く含む、小川遺跡跡1区調査のV字溝と同一</p> <p>5 2.5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、0.1~1cm程度の小礫、乱れたラミナあり</p> <p>6 2.5M/1層黄褐色砂、崩れより強い、粘性強い、崩り強い、中や乱れたラミナあり</p> <p>7 2.5M/2層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、0.5~1cm程度の礫を非常に多く含む</p> <p>8 2.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩りや中強い、水平のラミナあり</p> <p>9 5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩りや中強い、崩りや中強い、礫物混入を多く含む</p> <p>10 10M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、右下方面にラミナあり</p> <p>11 10M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、崩りや中強い、非常に乱れたラミナあり、11層にくんぐん入って強い</p> <p>12 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、中や乱れたラミナあり、11層にくんぐん入って強い</p> <p>13 5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、崩りや中強い、非常に乱れたラミナを含むブロック状に崩砂を含む、礫物混入を多く含む</p> <p>14 2.5M/2層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い</p> <p>15 5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、乱れたラミナを形成する、上層との相違は不明</p> <p>16 2.5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、灰化層を多く含む、乱れたラミナの中心にブロック状の崩砂を含む</p> <p>17 10M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、非常に乱れたラミナあり、周囲面には白色砂利が多く混入</p> <p>18 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、礫物混入を灰化層を多く含む、崩砂をブロック状に含む</p> <p>19 5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、灰化層を多く含む、ブロック状の砂利を多く含む</p> <p>20 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、礫物混入を多く含む、中位の遺構を含む</p> <p>21 10M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩り強い、灰化層を多く含む</p> <p>22 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、2層との相違は不明</p> <p>23 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、中や砂シルトを含む</p> <p>24 2.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い</p> <p>25 2.5M/2層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い</p> <p>26 2.5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、ラミナあり</p> <p>27 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、灰化層を多く含む、乱れたラミナあり</p> <p>28 2.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、乱れたラミナあり</p> | <p>29 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、崩りや中強い、礫物混入を多く含む</p> <p>30 7.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、礫物混入を多く含む</p> <p>31 7.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、礫物混入を多く含む</p> <p>32 10M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、灰化層、中央に5cm程度の灰化層を多く含む</p> <p>33 7.5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩りや中強い、中や乱れたラミナあり</p> <p>34 10M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩りや中強い、崩りや中強い、礫物混入を多く含む、中や乱れたラミナあり</p> <p>35 10M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩り強い、5cm程度の礫を多く含む</p> <p>36 10M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、崩りや中強い</p> <p>37 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、崩りや中強い</p> <p>38 5M/1層黄褐色砂、粘性強い、崩りや中強い、礫物混入を灰化層を多く含む、崩砂は中や崩れている</p> <p>39 2.5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、礫物混入を多く含む</p> <p>40 2.5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い</p> <p>41 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、1m~1.5cm程度の礫を多く含む</p> <p>42 5M/1層黄褐色砂、粘性や中強い、崩りや中強い、崩りや中強い、下部に5cm程度の礫物混入を多く含む</p> |
|---|---|





A区SD1

- 1 7.5Y4/2 灰オリーブ色細砂置じり中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、細砂や細砂をラミナ状に含む
- 2 7.5Y4/1 灰色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、褐色の中粒砂をやや乱れたラミナ状に含む、中世の漆喰を含む
- 3 7.5Y2/1 オリーブ黒色細シルト、SD1 底部、粘性強い、締りやや強い、炭化物および植物遺体やや含む



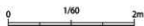
A区SD1

- 1 7.5Y5/1 灰色中粒砂置じり砂利、粘性弱い、締り強い
- 2 7.5Y4/1 灰色砂利、5cm程度の厚角礫非常に多く含む、1cm程度の礫を非常に多く含む、未分級の植物遺体を非常に多く含む、河床礫のインプリケーションが北から南へ流れる（礫が南下がり手前上がり）



A区SD1

- 1 7.5Y5/1 灰色中粒砂置じり砂利、粘性弱い、締り強い



A区SD1

- 1 10Y4/1 灰色シルト、粘性強い、締りやや強い、炭化物をやや含む、植物の破片をやや含む
- 2 5Y2/1 オリーブ黒色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い
- 3 5Y2/1 オリーブ黒色細シルト、粘性非常に強い、締りやや強い、炭化物を部分的かつ層状に含む
- 4 7.5Y5/1 灰色細砂、粘性弱い、締りやや強い、乱れたラミナあり
- 5 7.5Y4/1 灰色砂利、5cm程度の厚角礫非常に多く含む、1cm程度の礫を非常に多く含む、未分級の植物遺体を非常に多く含む、河床礫のインプリケーションが北から南へ流れる（礫が南下がり手前上がり）
- 6 5Y6/1 灰色砂利、細やかなラミナあり、粘性弱い、締りやや強い
- 7 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い

第22図 6次・1面遺構図 (A区SD1)

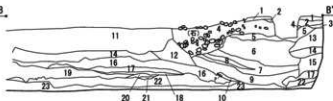
251.900m A.



A区SD3

- 1 7.5Y8/1 灰白色砂利層、粘性弱い、締り強い、近世の遺物を含む
- 2 7.5Y8/1 灰白色砂利、粘性弱い、締りやや強い、1cm程度の礫を含む、水平に近いやや乱れたラミナあり
- 3 7.5Y8/1 灰白色中粒砂混じり砂利、粘性やや弱い、締りやや強い、水平の乱れたラミナあり
- 4 5Y4/2 灰オリーブ色細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、植物遺体を含む
- 5 7.5Y4/2 灰オリーブ色細砂混じり中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、細砂や細砂をラミナ状に含む
- 6 10Y9/1 灰白色細砂混じり砂利、粘性弱い、締りやや強い、上下りのラミナを含む
- 7 7.5Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、褐色の中粒砂をやや乱れたラミナ状に含む、中世の遺物を含む
- 8 2.5Y4/1 黄灰白色細砂混じり中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、植物遺体を多く含む、やや乱れたラミナを含む
- 9 5Y4/1 灰白色細砂、粘性やや弱い、締りやや強い
- 10 5Y5/1 灰白色細砂混じりシルト、粘性弱い、締りやや強い、植物遺体を含む
- 11 10Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い
- 12 7.5Y4/1 灰白色細砂、粘性弱い、締りやや強い、木屑物を含む

251.800m B.

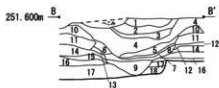
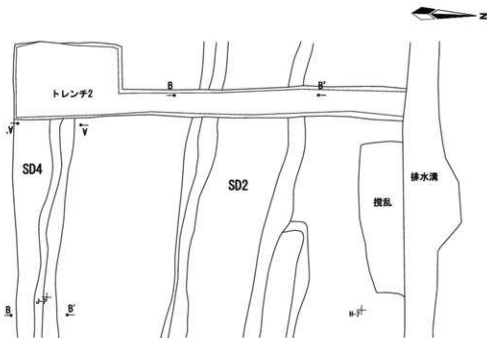


A区トレンチ3

- 1 2.5Y4/2 緑灰黄色砂利混じり細砂、粘性やや弱い、締り強い、2~3mmの小礫多く含む、植物片をやや含む、近世の遺物を含む
- 2 2.5Y3/1 黒褐色中粒砂混じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物の根多く含む
- 3 5Y5/2 灰オリーブ色細砂混じり中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、上下りのやや乱れたラミナあり
- 4 2.5Y8/1 灰白色小粒混じり砂利、粘性弱い、締り強い、こぶし状の礫を多量に含む(黒石)、近世の遺物を含む
- 5 5Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、瓦状植物遺体および炭化物をやや含む、全体に細砂と細砂をラミナ状に含む
- 6 5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、細砂や細砂をブロック状に含む、非常に乱れたラミナあり
- 7 7.5Y8/1 灰白色砂利(花崗岩)、粘性弱い、締り強い、右下に下がるラミナあり
- 8 5Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遺体を乱れた状態を含む、白色細砂を含む
- 9 7.5Y5/1 灰白色細砂、7層に比べより明確に右下りのラミナあり
- 10 5Y4/1 灰白色砂利混じり細砂、粘性弱い、締り強い、16層との層厚間に中世の土層質土層出土
- 11 2.5Y4/2 緑灰黄色細砂、粘性やや弱い、締り強い、2~3mmの小礫多く含む
- 12 7.5Y4/1 灰白色中粒砂、粘性弱い、締り強い、全体的に乱れたラミナあり
- 13 10Y4/1 灰白色シルト、粘性強い、締りやや強い、炭化物をやや含む、植物の根片をやや含む
- 14 10Y5/1 灰白色シルト、13層のシルトに比べてやや中粒多し、粘性13層より弱い、締り強い、炭化物を僅かに含む
- 15 5Y3/1 オリーブ黒色中粒砂、粘性やや強い、締り14層より弱い
- 16 7.5Y4/1 灰白色細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、植物遺体わずかに含む
- 17 5Y3/1 オリーブ黒色細シルト、粘性非常に強い、締りやや強い、炭化物を部分的かつ層状に含む
- 18 7.5Y4/1 灰白色細砂混じり細砂、粘性やや強い、締り強い
- 19 10Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、部分的に細砂を挟む右下りの緩やかなラミナあり
- 20 7.5Y4/1 灰白色細砂、粘性弱い、締り強い
- 21 10Y3/1 オリーブ黒色 20層より細かい細砂、粘性やや弱い、締り強い
- 22 7.5Y5/1 灰白色中粒砂混じり砂利、粘性弱い、締り強い
- 23 7.5Y4/1 灰白色砂利、5cm程度の黒角礫非常に多く含む、1cm程度の礫を非常に多く含む、未分解の植物遺体を非常に多く含む
河床礫のインプリケーションが左から右へ流れる(礫が真下がり手前上り)

0 1/50 2m

第 23 図 6次・1面遺構図 (A区SD1・SD3)



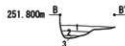
A区SD2

- 1 5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、緩やかなラミナあり、下部に粗砂を含む
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、緩やかなラミナあり、約2mの礫物片を含む
- 3 10Y4/2 灰黄褐色細砂、粘性やや強い、締り弱い、非常に細かい緩やかなラミナあり
- 4 5Y3/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、細かな物片多く含む、緩やかなラミナあり、細砂をブロック状に含む、中世の土層質土層出土
- 5 2.5Y4/2 緑灰黄色中粒砂、粘性やや強い、締りやや弱い、緩やかなラミナあり、礫物遺体やや含む
- 6 2.5Y4/1 黄灰色細砂より中粒砂、粘性やや強い、締りやや弱い、やや乱れたラミナあり、灰化物を含む
- 7 2.5Y4/2 緑灰黄色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、礫物遺体多く含む
- 8 5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや強い、細砂をブロック状に含む、やや乱れたラミナあり
- 9 5Y2/1 オリーブ黒色中粒砂じりシルト、粘性強い、締りやや強い、部分的に粗砂を含む、礫物少し入る
- 10 10Y4/1 灰色シルト、粘性強い、締りやや強い、灰化物をやや含む、礫物の破片をやや含む
- 11 10Y5/1 灰色シルト、10層のシルトに比べてやや砂分多い、粘性やや強い、締り強い、灰化物を僅かに含む
- 12 5Y4/1 灰色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い
- 13 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂、粘性やや強い、締りやや弱い
- 14 7.5Y4/1 灰色細砂、粘性弱い、締り強い、緩やかなラミナあり
- 15 7.5Y4/1 灰色中粒砂じり細砂、粘性やや強い、締り強い、細砂を含む水平のラミナを形成
- 16 7.5Y4/1 灰色細砂、粘性弱い、締りやや弱い
- 17 10Y4/1 灰色中粒砂、粘性強い、締りやや強い、緩やかな水平ラミナあり
- 18 7.5Y3/1 オリーブ黒色中粒砂じりの細砂、粘性やや強い、締りやや強い、灰化物やや含む



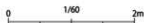
A区SD4

- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂じり中粒砂、やや細砂とシルト含む、5029-B'の1層と同じ
- 2 10Y3/1 黒褐色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、礫物遺体を含む
- 3 5Y4/1 灰色細砂、粘性弱い、締りやや強い、0.5mm程度の小礫含む、緩やかなラミナあり
- 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色中粒砂じり中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、礫物遺体やや含む

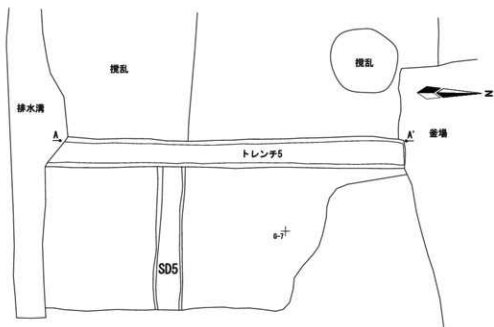


A区SD4

- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂じり中粒砂、やや細砂とシルト含む、5029-B'の1層と同じ
- 2 10Y3/1 黒褐色中粒砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、礫物遺体を含む
- 3 5Y4/1 灰色細砂、粘性弱い、締りやや強い、0.5mm程度の小礫含む、緩やかなラミナあり

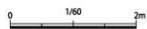


第24図 6次・1面遺構図 (A区SD2・SD4)

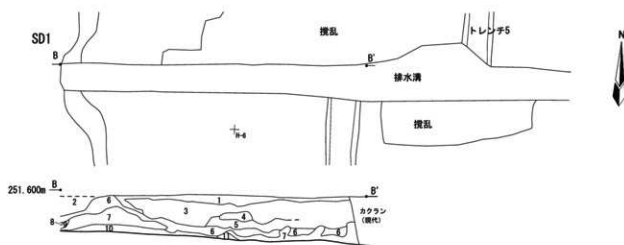


A区トレンチ5

- 1 7.5T5/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性弱い、締り強い、非常に乱れたラミナあり
- 2 7.5T4/1 灰色細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、炭化物含む、上部がやや乱れる、6層と7層の層理面で中世の土師瓦土層出土
- 3 5T4/2 灰オリーブ色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、緩やかなラミナ含む、やや炭化物含む
- 4 5T4/1 灰色中粒砂混じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遺体やや含む
- 6 2.5T4/1 黄灰色細砂、粘性強い、締りやや強い、植物遺体多く含む

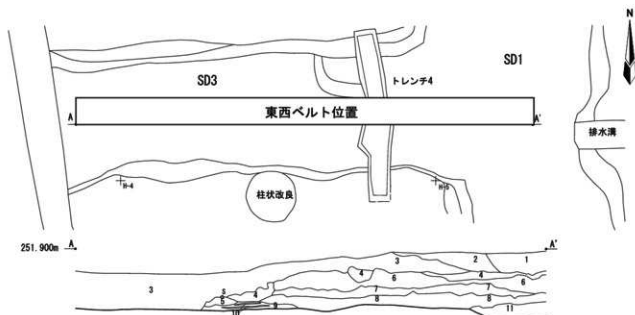


第25図 6次・1面遺構図 (A区SD5)



A区東西ベルト東側 B-B'

- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂利混じり細砂、粘性やや弱い、締り強い、炭化物および近世の遺物を含む、乱れた砂状のラミナあり
- 2 2.5Y8/1 灰白色礫混じり砂利、粘性弱い、締り強い、洪水層、3cm程度の垂直礫を含む
- 3 5Y5/2 灰オレンジ色細砂混じりシルト、粘性強い、締りやや強い、ブロック状の細砂を塊状に含む
- 4 5Y4/2 灰オレンジ色細砂混じり中細砂、粘性やや弱い、締りやや弱い、3層とよく似ている、乱れたラミナあり
- 5 7.5Y5/2 灰オレンジ色中細砂、粘性弱い、締り強い、非常に乱れたラミナ、3層と似ている
- 6 7.5Y4/2 灰オレンジ色細砂混じり中細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、細砂や細砂をラミナ状に含む
- 7 7.5Y4/1 灰白色中細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、炭化物を含む、上部がやや乱れる(5層の影響)、6層と7層の層理面で中世の土師瓦土器出土
- 8 7.5Y4/1 灰白色中細砂、粘性やや弱い、締りやや弱い
- 9 10Y8/1 灰白色細砂混じり砂利、粘性弱い、締りやや弱い、上下りのラミナを含む
- 10 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト、粘性強い、締り強い、やや礫物混在を含む
- 11 5Y4/2 灰オレンジ色細砂混じり中細砂、粘性やや強い、締り強い、白色の小礫混じる



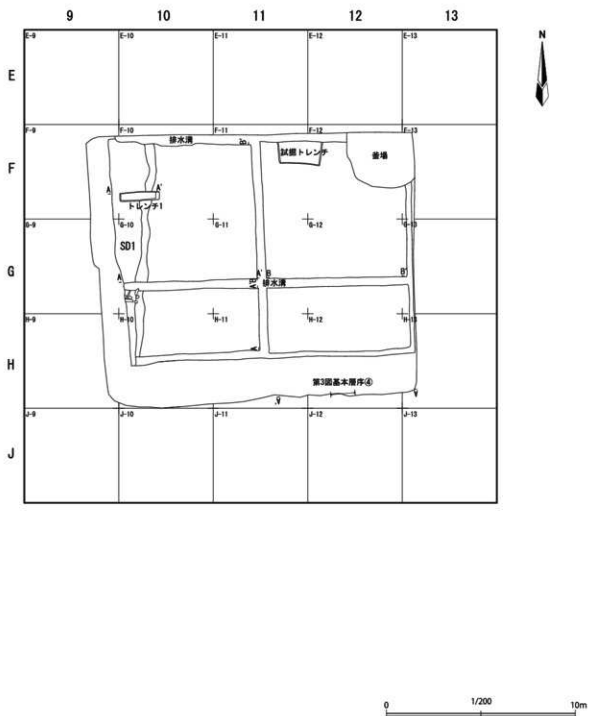
A区東西ベルト西側 A-A'

- 1 2.5Y3/2 黒褐色砂利混じり細砂、粘性やや弱い、締り強い、炭化物および近世の遺物を含む、乱れた砂状のラミナあり
- 2 7.5Y4/1 灰白色砂利層、粘性弱い、締り強い、近世の遺物を含む
- 3 7.8Y2/1 灰白色砂利、粘性弱い、締りやや強い、1cm程度の礫を含む、水平に近いやや乱れたラミナあり
- 4 7.5Y4/1 灰白色中細砂混じり砂利、粘性やや弱い、締りやや強い、水平の乱れたラミナあり
- 5 10Y5/1 灰白色中細砂混じり砂利、粘性やや弱い、締りやや弱い
- 6 7.5Y4/2 灰オレンジ色細砂混じり中細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、細砂や細砂をラミナ状に含む
- 7 10Y8/1 灰白色細砂混じり砂利、粘性弱い、締りやや弱い、上下りのラミナを含む
- 8 7.5Y4/1 灰白色中細砂、粘性やや弱い、締りやや強い、褐色の中細砂をやや乱れたラミナ状に含む、中世の遺物を含む
- 9 5Y3/1 オリーブ黒色中細砂、粘性やや弱い、締りやや弱い
- 10 7.5Y4/1 灰白色砂利、粘性弱い、締り強い
- 11 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト、SD1 底部、粘性強い、締りやや強い、炭化物および礫物混在を含む

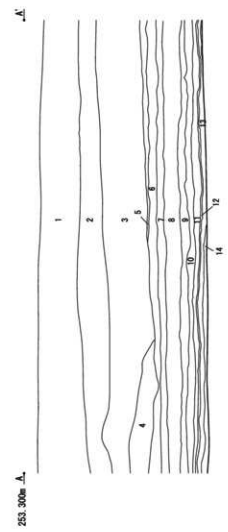
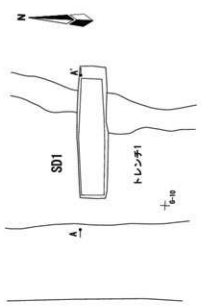
0 1/60 2m

第26図 6次・1面遺構図 (A区東西ベルト)

令和4年(6次)B区1面



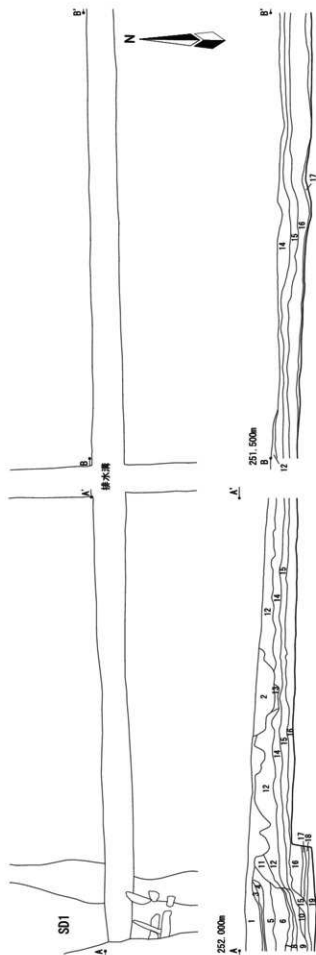
第 27 図 6 次・1 面全体図 (B 区)



- B区南壁**
- 2.5Y6/3 オリーブ褐色砂状土じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、層内のこみ食む
 - 2.5Y2/2 黒褐色砂状土じり細砂、粘性強い、締り強い、7cmのこみ食む
 - 5Y6/1 灰白色砂状土、粘性強い、締り強い、川原、やぶれたラミナあり
 - 2.5Y2/2 黒褐色砂状土じり細砂、粘性やや強い、締り強い、1～5cm程度の塊を多く含む
 - 5Y2/1 黒色シルト、粘性強い、締り強い、植物遗体を多く含む
 - 7.5Y1/1 オリーブ黒色シルト、粘性強い、締り強い、植物遗体を多く含む、1層目遺構確認
 - 5Y6/1 灰白色砂状土じり中粒砂、粘性強い、締り強い、植物遗体を多く含む、第8層との層理面不連続
 - 7.5Y4/1 灰白色細砂、粘性やや強い、締り弱、ややゆれたラミナを含む、シルトをラミナ状に含む、植物片を細かく含む
 - 5Y6/1 オリーブ黒色細砂、粘性やや強い、締り強、粘土むすびを含む、9層上の層理面は明確
 - 5Y2/1 灰白色中粒砂、粘性強い、締り強、植物遗体と炭化物を多く含む、古墳時代の遺物を含む
 - ラミナ中に中粒砂を含む、層理面は存在している
 - 2.5Y4/1 黒灰色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、古墳時代の遺物を11層より多く含む、P-100以下の遺物出土
 - 2.5Y2/1 黒灰色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、
 - 5Y6/1 灰白色シルト、粘性強い、締りやや強い、1mm～1cm程度の塊をやや含む

- 252.00m A₁
-
- B区SD1**
- 5Y4/1 灰白色砂状土じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、底をやや含む、砂利を含む層内にラミナあり、底面の遺物を含む、白色の1cm程度の砂利を含む
 - 2.5Y6/3 黒褐色砂状土、粘性強い、締り強い
 - 5Y6/1 灰白色細砂、粘性強い、締りやや強い、底の中央部分に硬やかみかた下ろすラミナあり
 - 5Y4/1 灰白色中粒砂土じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、炭化物を含む、砂利混じりシルトをブロック状に含む
 - 5Y1/1 灰白色細砂、粘性強い、締りやや強い、下面の層理面弱、層のこみ食むラミナあり
 - 10Y4/1 灰白色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遗体を多く含む、ラミナあり
 - 2.5Y4/1 灰白色中粒砂土じり細砂、粘性普通、締りやや強い、植物遗体を含む、高中多方向に層やかみかた下ろすラミナあり
 - 2.5Y2/1 オリーブ黒色中粒砂土じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遗体を含む、ラミナあり
 - 10Y4/1 灰白色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遗体および底
 - 5Y2/1 黒色細砂、粘性やや強い、締りやや強い
 - 5Y2/1 黒色細砂、粘性やや強い、締り強い、炭化物を含む
 - 5Y4/1 灰白色シルト、粘性強い、締り強い、植物遗体を含む
 - 2.5Y4/1 オリーブ黒色細砂、粘性強い、締り強い、12層と14層の層理面は中粒の遺物を含む
 - 5Y4/1 灰白色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い、植物遗体を含む
 - 5Y4/1 灰白色シルト、粘性強い、締りやや強い、シルトをブロック状に含む

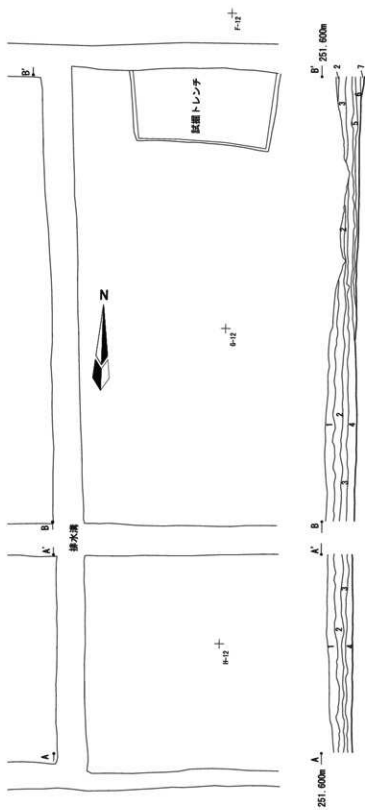
第28図 6次・1面断面図 (B区南壁・SD1)



第29図 6次・1面遺構図 (B区東西ベルト)

B区東西ベルト-A' およびB-B'

- 1 594/1 灰色砂状土じり層砂、粘質やや強い、練りやや強い、灰まやや含む、砂利を含む可成りなラミナあり、底部の遺物を含む、白色の1mm程度粒の砂利を含む
- 2 595/6 黒褐色粘砂、粘質強い、練り強い、ブロック状の中粒砂を含む
- 3 595/6 黒褐色粘砂、粘質強い、練り強い
- 4 596/1 灰色粘砂、粘質強い、練りやや強い、黒の中夾層中に練りか下に広がるラミナあり
- 5 594/1 灰色中粒砂土じり層砂、粘質やや強い、練りやや強い、灰化物や含む、砂利層砂シルトをブロック状に含む
- 6 595/1 灰色粘砂、粘質強い、練りやや強い、下部の粘質が細かい、黒や小ラミナあり
- 7 594/1 灰色中粒砂土じり層砂、粘質やや強い、練りやや強い、塊状遺物を含む、黒の中夾層中に練りか下に広がるラミナあり
- 8 592/1 オリーブ褐色中粒砂土じり層砂、粘質やや強い、練りやや強い、塊状遺物を含む、ラミナあり
- 9 1074/1 灰色粘砂、粘質やや強い、練りやや強い、塊状遺物を含む、ラミナあり
- 10 1075/1 灰色粘砂、粘質やや強い、練りやや強い、塊状遺物を含む、練りかまやや含む
- 11 592/1 オリーブ褐色粘砂、粘質やや強い、練り強い、灰化物および灰を含む
- 12 592/1 黒色粘砂、粘質やや強い、練り強い、灰化物を含む
- 13 2.592/1 黒褐色砂状土じり中粒砂、粘質やや強い、練りやや強い
- 14 594/1 灰色シルト、粘質強い、練り強い、塊状遺物や含む、17層と14層の層間部に中部の遺物を含む
- 15 7.592/1 オリーブ褐色粘砂、粘質やや強い、練りやや強い、塊状遺物や含む
- 16 594/1 灰色中粒砂、粘質やや強い、練りやや強い
- 17 594/2 オリーブ色砂状土じり層砂、粘質やや強い、練りやや強い
- 18 1074/1 灰色粘砂、粘質強い、練りやや強い、ラミナ状の粘砂あり
- 19 594/1 灰色粘砂、粘質やや強い、練り層状や強い、シルトをブロック状に含む



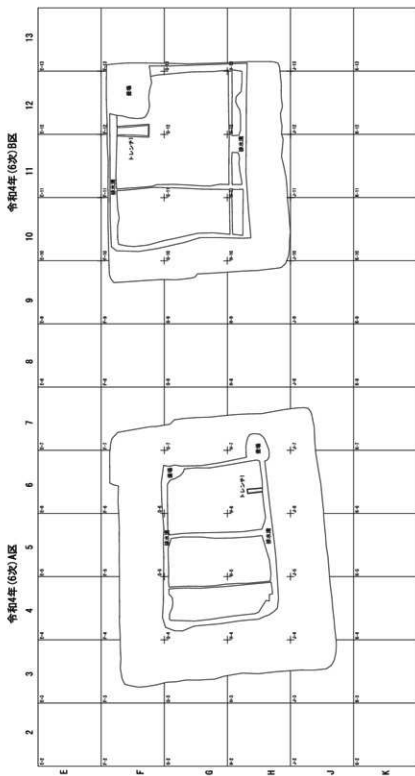
B区南北ベルトA'およびB-B'

- 1 512/1 褐色細砂、粘性やや強い、締り強い、炭化腐葉や草む
- 2 514/1 灰色シルト、粘性強い、締り強い、腐植体や草む
- 3 7.512/1 オリーブ褐色細砂、粘性やや強い、締りやや強い、腐植体や草む
- 4 514/1 灰色中粒砂、粘性やや強い、締りやや強い
- 5 514/2 灰オリーブ色細砂混じり細砂、粘性やや強い、締りやや強い
- 6 1074/1 灰色細砂、粘性強い、締りやや強い、ラミナ状の腐植体あり
- 7 514/1 灰色細砂、粘性やや強い、締り普通やや強い、シルトをブロック状に含む



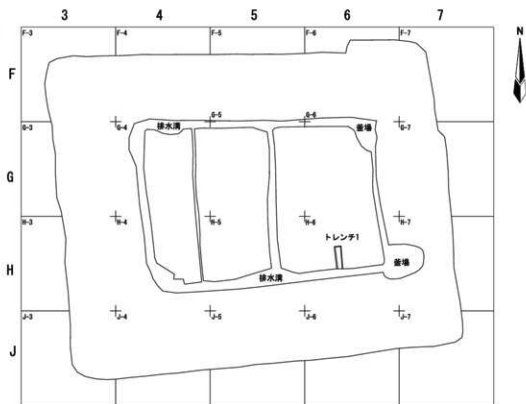
第30図 6次・1面遺構図 (B区南北ベルト)

令和4年(6次)A区・B区2面全体図

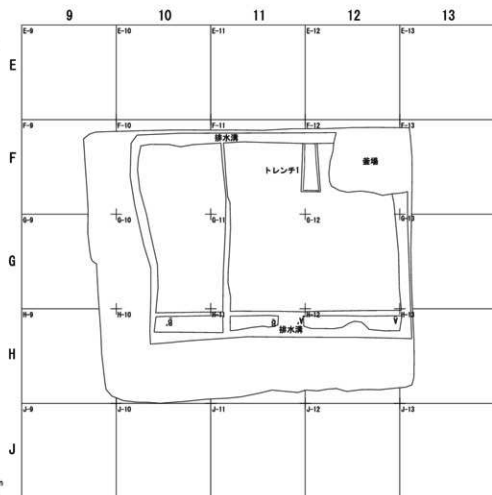


第31図 6次・2面全体図

令和4年(6次)
A区2面

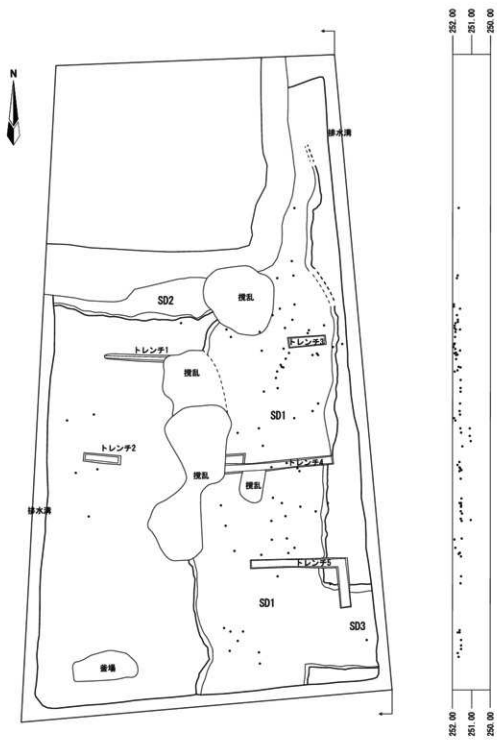


令和4年(6次)
B区2面



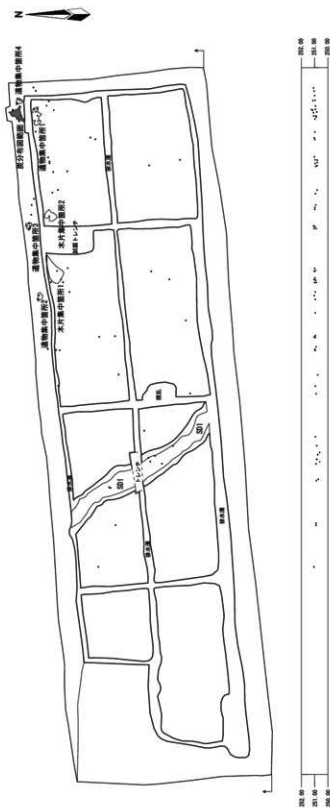
第32図 6次・2面遺構図

令和3年(5次)A区1面 遺物平面・垂直分布図



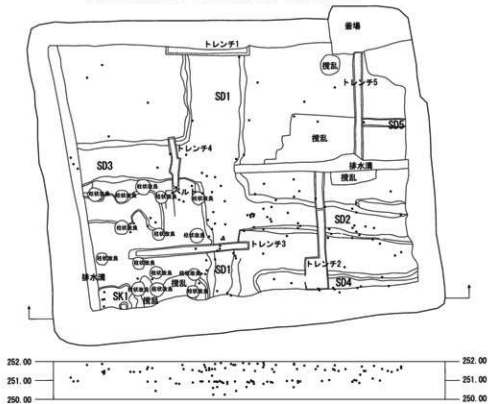
第33図 5次・遺物平面・垂直分布図 (A区)

令和3年(5次)B区1面 遺物平面・垂直分布図

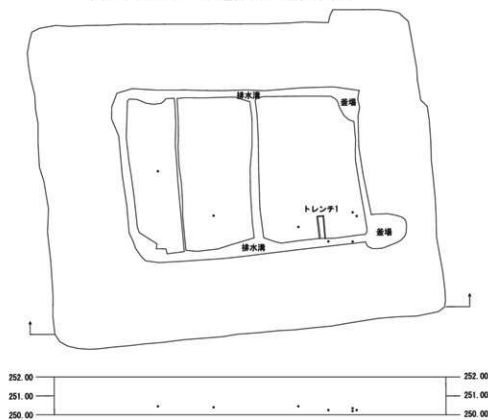


第 34 図 5 次・遺物平面・垂直分布図 (B 区)

令和4年(6次)A区 1面 遺物平面・垂直分布図

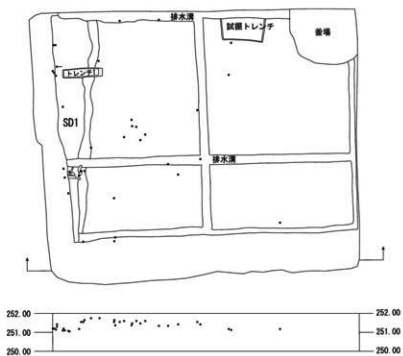


令和4年(6次)A区 2面遺物平面・垂直分布図

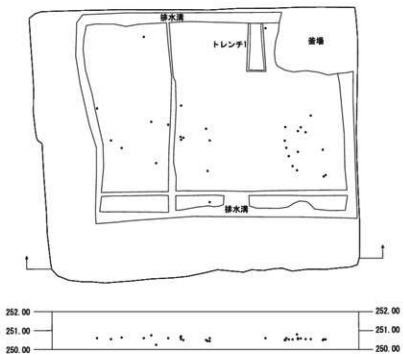


第 35 図 6次・遺物平面・垂直分布図 (A区)

令和4年(6次)B区 1面遺物平面・垂直分布図

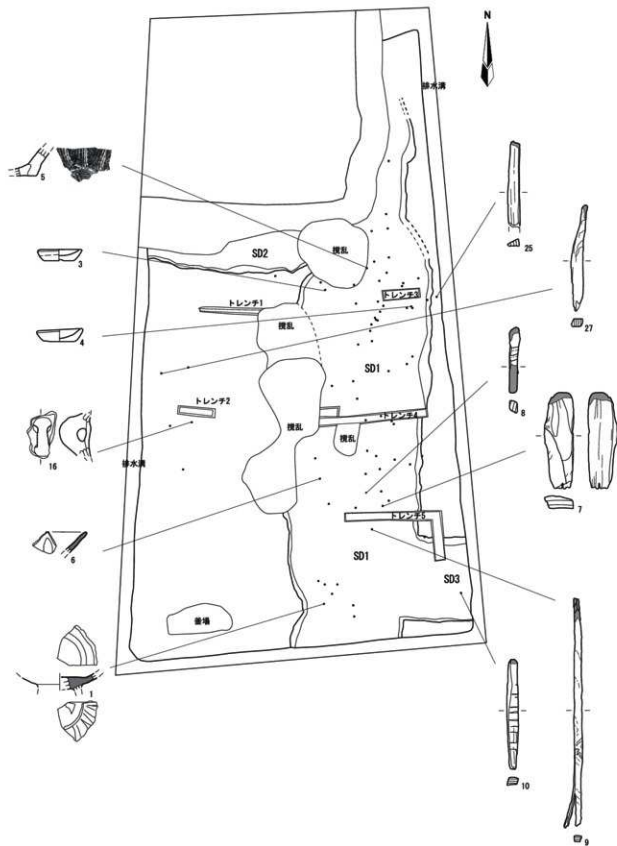


令和4年(6次B区) 2面遺物平面・垂直分布図



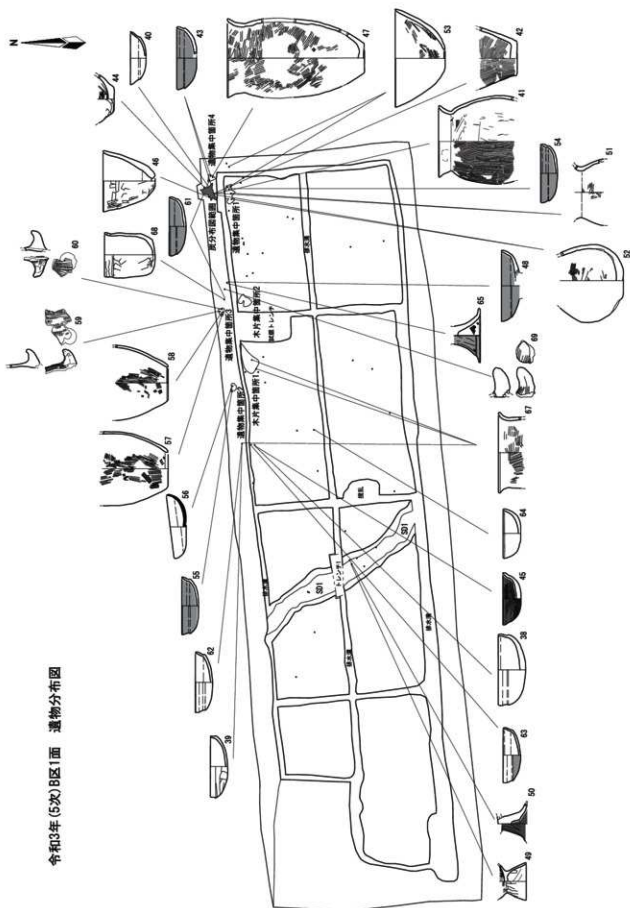
第36図 6次・遺物平面・垂直分布図(B区)

令和3年(5次)A区1面 遺物分布図

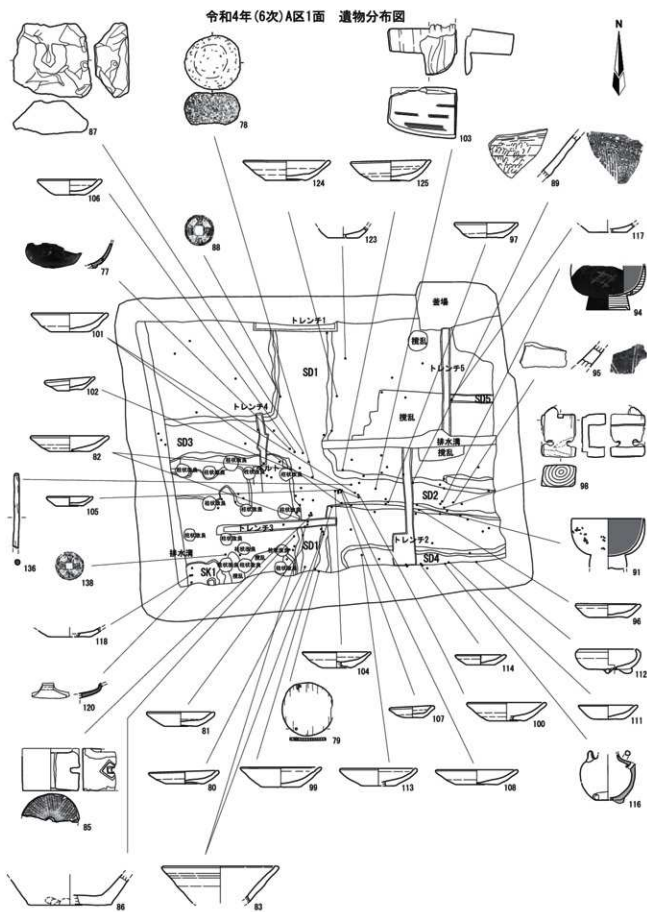


第37図 5次・遺物分布図(A区)

令和13年(5次)B区1面 遺物分布図

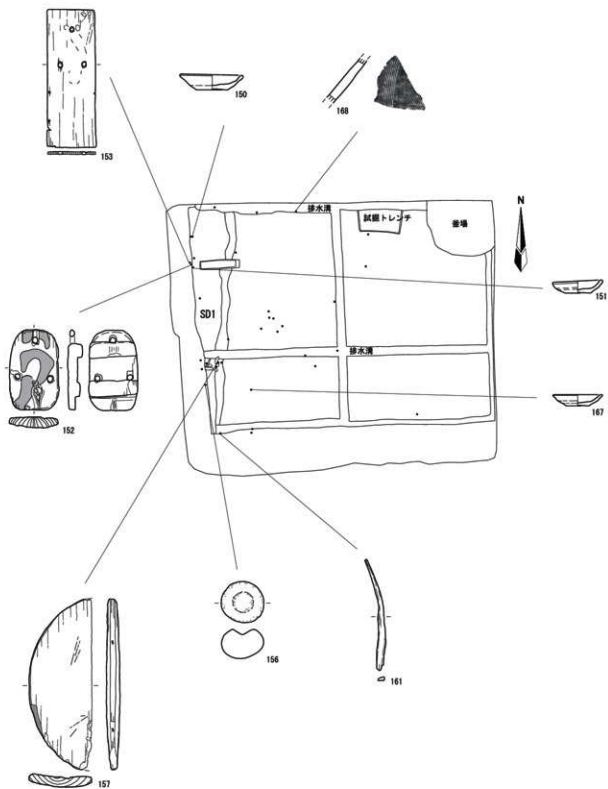


第38図 5次・遺物分布図(B区)



第39図 6次・遺物分布図 (A区1面)

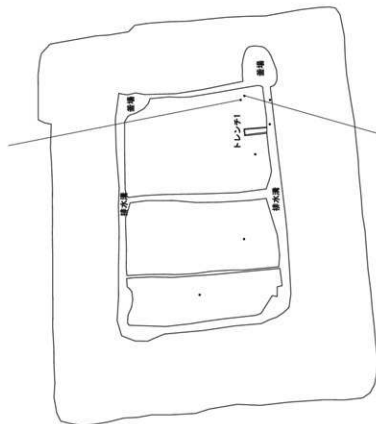
令和4年(6次)B区1面 遺物分布図



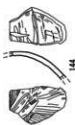
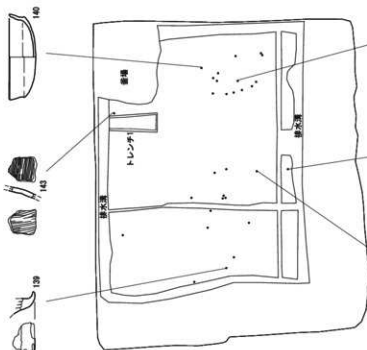
第40図 6次・遺物分布図 (B区1面)

令和4年(6次)A区・B区2面 遺物分布図

令和4年(6次)A区2面

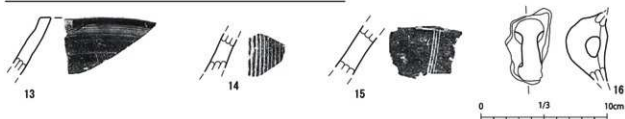
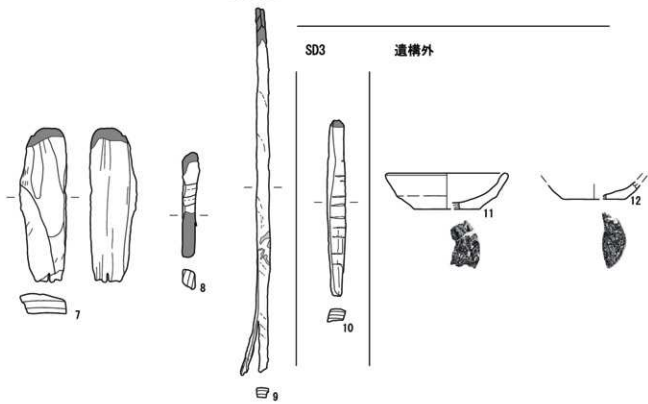
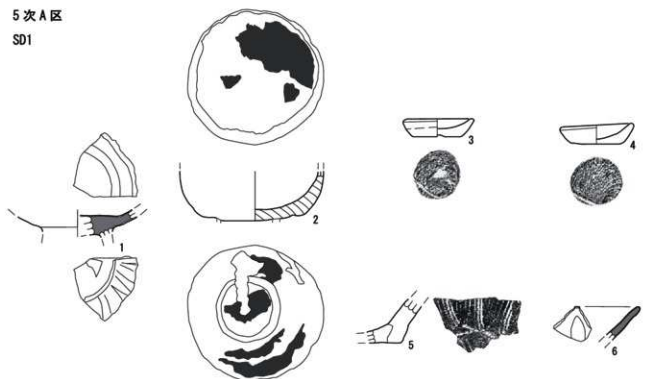


令和4年(6次)B区2面

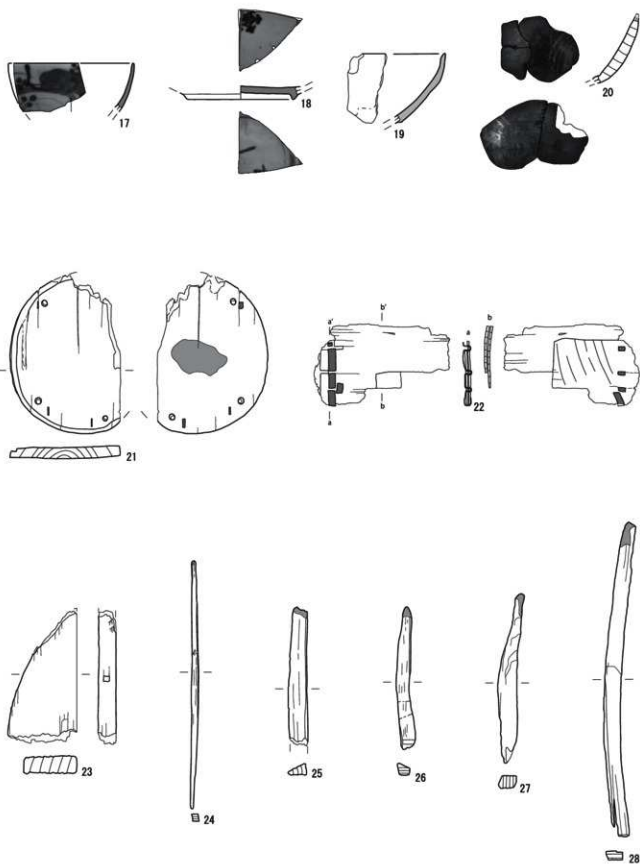


第41図 6次・遺物分布図(A・B区2面)

5次A区
SD1

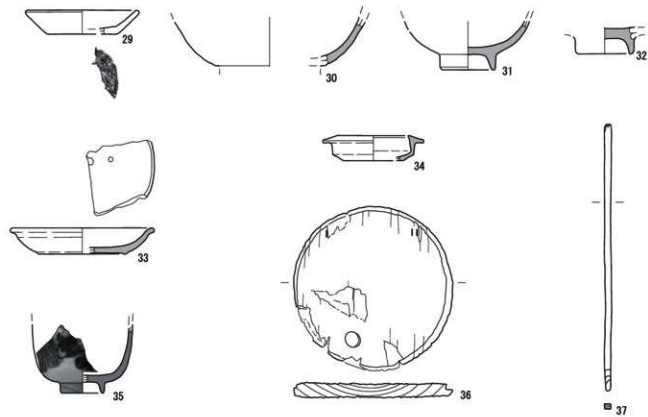


第42図 5次・1面出土遺物 (A区SD1・SD3・遺構外)

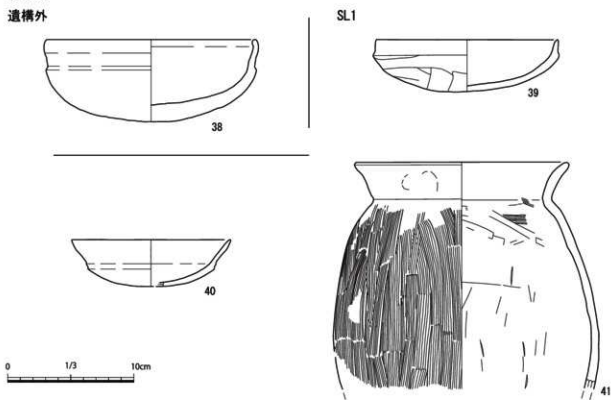


第43図 5次・1面出土遺物 (A区遺構外)

遺構外



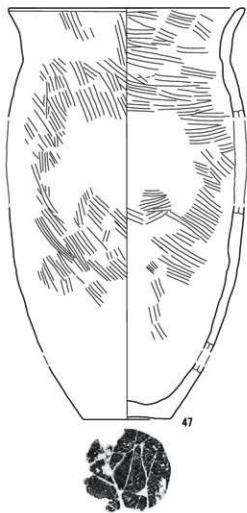
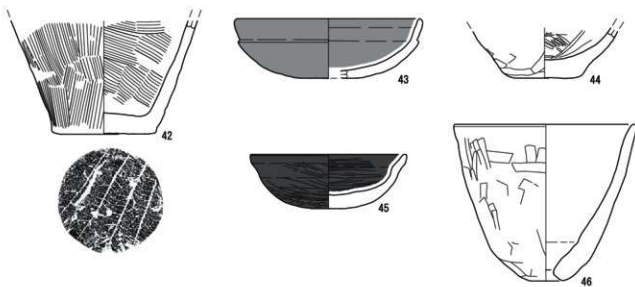
5次B区
遺構外



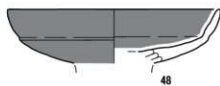
第44図 5次・1面上層出土遺物 (A区遺構外)

第45図 5次・2面出土遺物 (B区SL1・遺構外)

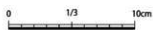
SL1



遺構外

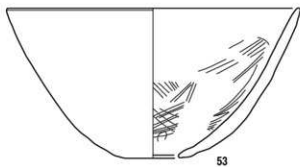
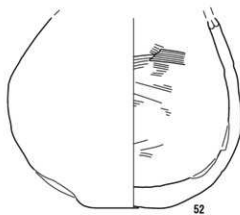
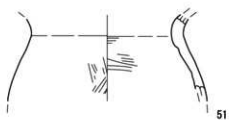


SD1

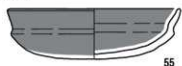


第46図 5次・2面出土遺物 (B区 SL1・SD1・遺構外)

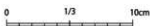
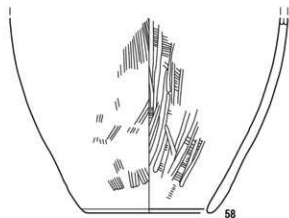
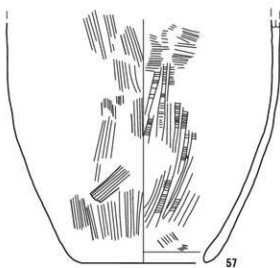
遺物集中箇所 1



遺物集中箇所 2

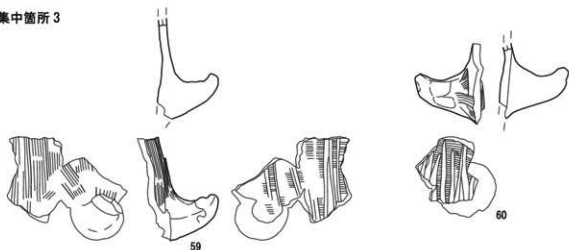


遺物集中箇所 3



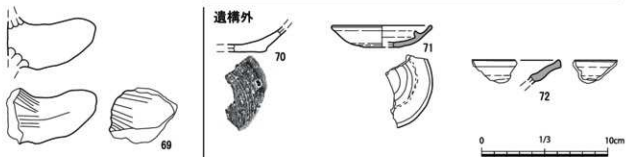
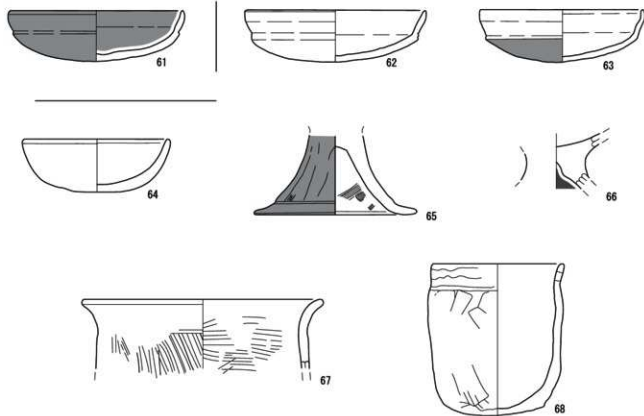
第 47 図 5 次・2 面出土遺物 (B 区遺物集中箇所 1 ~ 3)

遺物集中箇所 3



遺物集中箇所 4

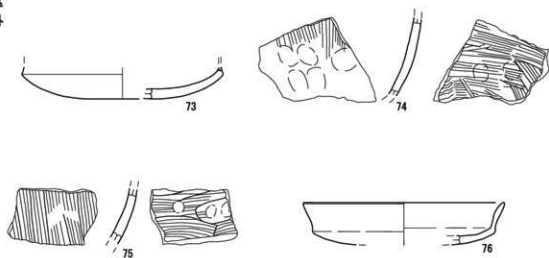
遺構外



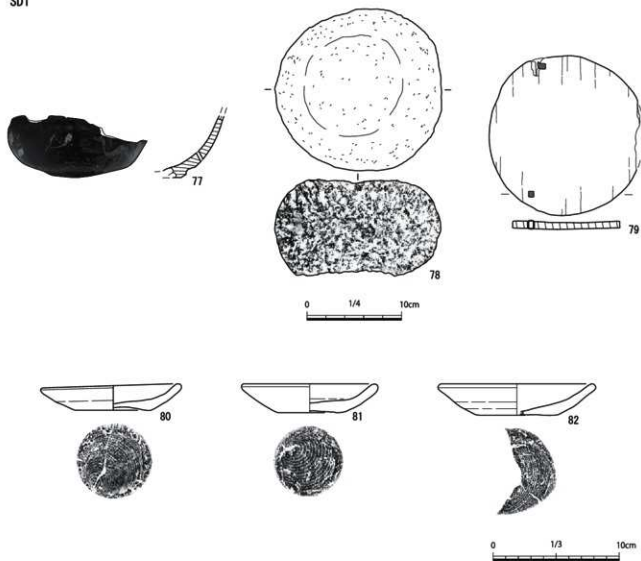
第48図 5次・2面出土遺物 (B区遺物集中箇所3~4・遺構外)

第49図 5次・1面出土遺物 (B区遺構外)

6次A区
遺構外

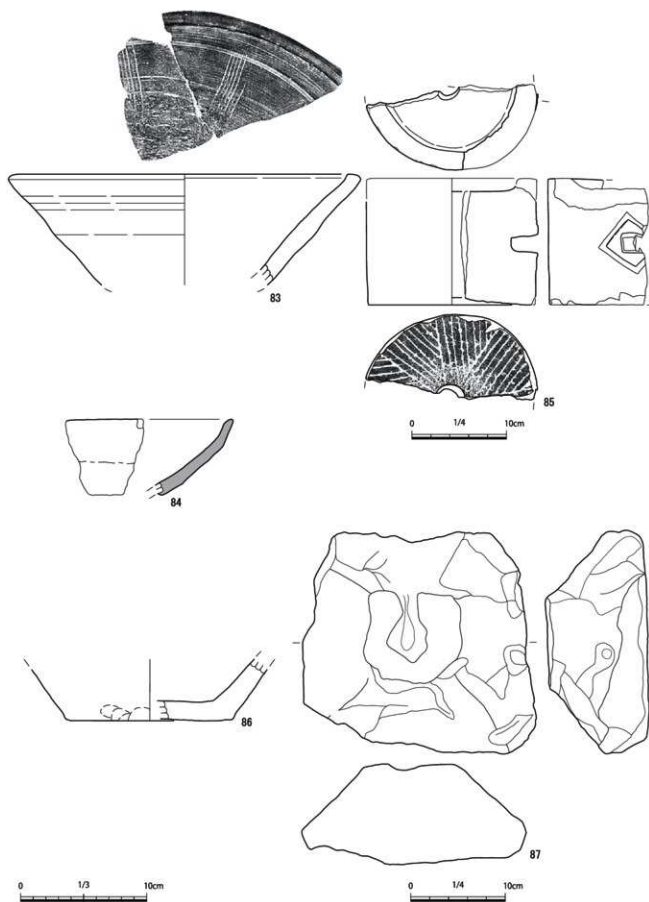


SD1



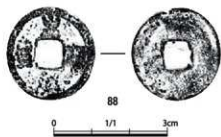
第50図 6次・2面出土遺物 (A区遺構外)

第51図 6次・1面出土遺物 (A区SD1)

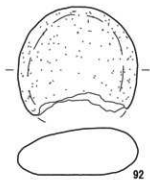
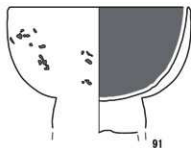
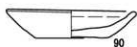


第51-2图 6次·1面出土遗物(A区SD1)

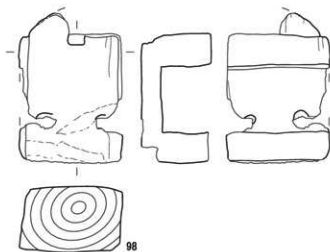
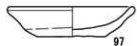
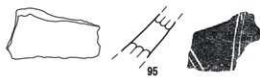
SD1



SD2



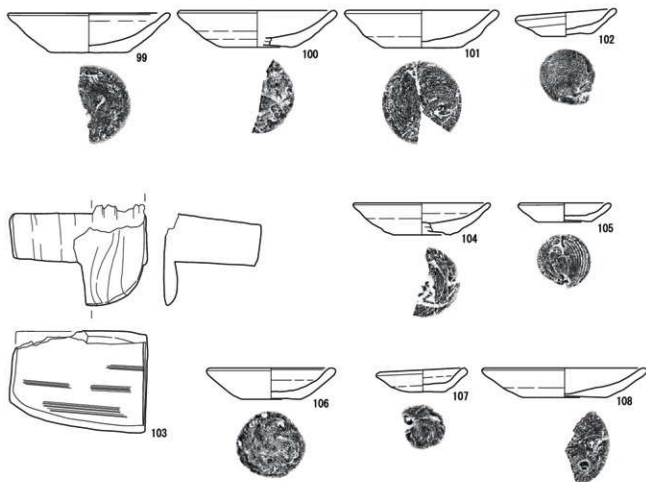
93



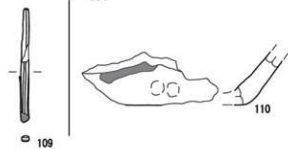
0 1/3 10cm

第52图 6次・1面出土遺物 (A区SD1・SD2)

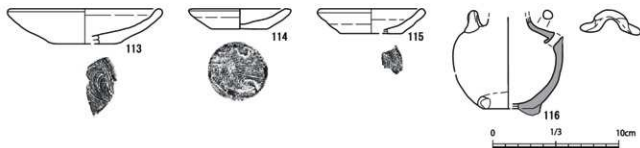
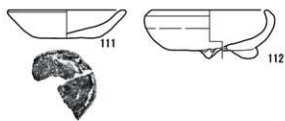
SD2



SD3



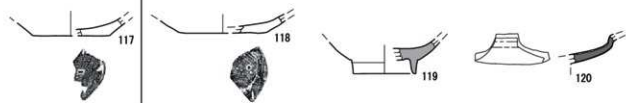
SD4



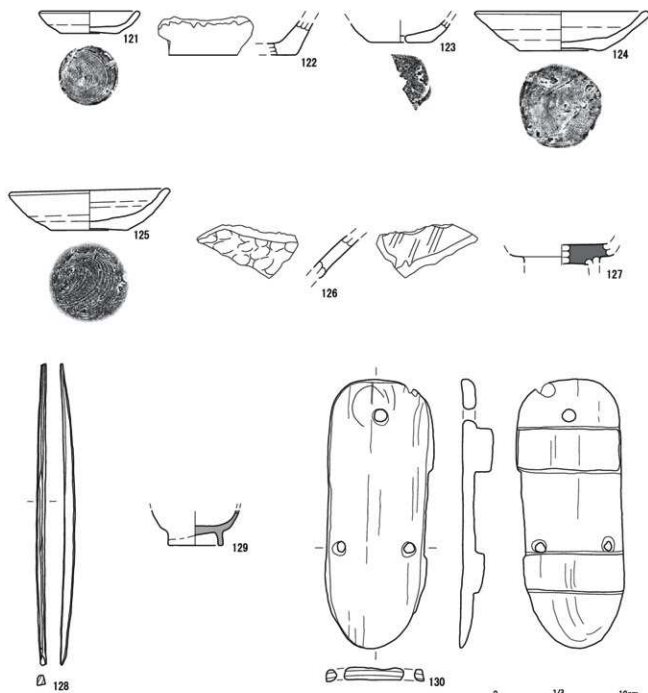
第53図 6次・1面出土遺物 (A区SD2~SD4)

SD5

SK1

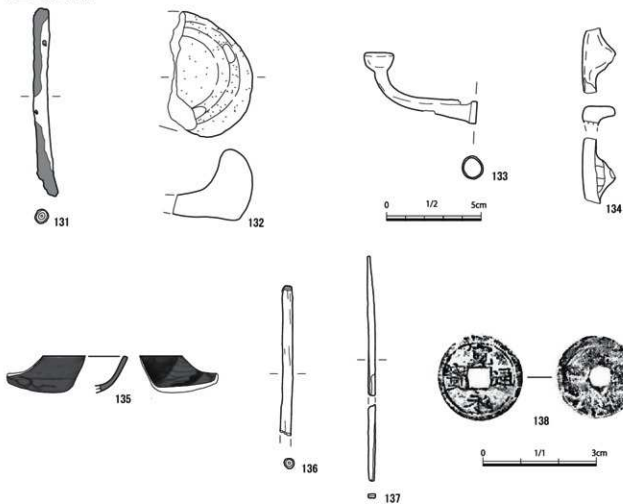


1 面上層遺構外

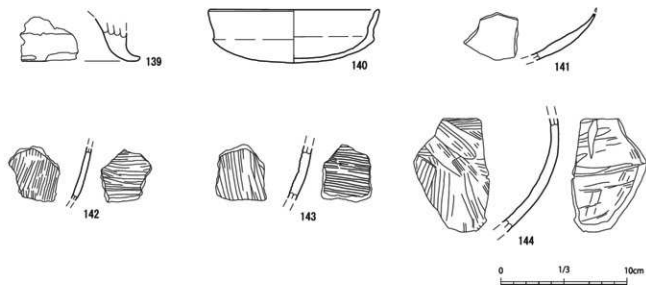


第54図 6次・1面出土遺物 (A区SD5・SK1・遺構外)

1 面上層遺構外



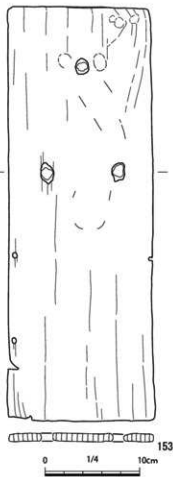
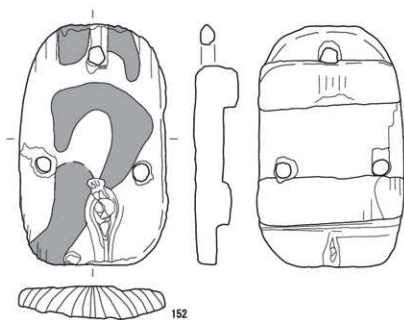
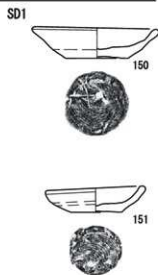
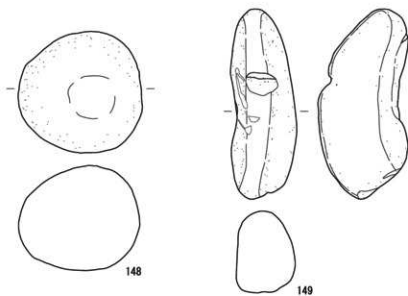
6次B区
遺構外



第 55 図 6 次・1 面上層出土遺物

第 56 図 6 次・2 面出土遺物 (B 区遺構外)

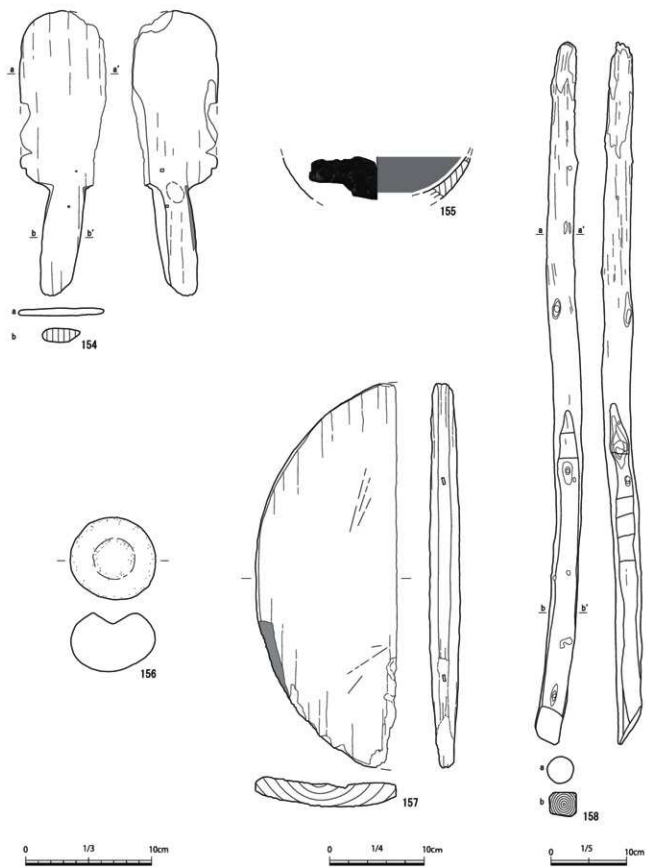
遺構外



0 1/3 10cm

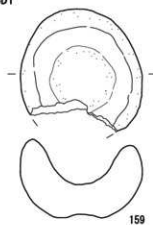
0 1/4 10cm

第56図 6次・2面出土遺物(B区遺構外)
第57図 6次・1面出土遺物(B区SD1)



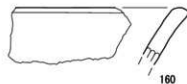
第 57-2 图 6 次・1 面出土遺物 (B 区 SD1)

SD1



159

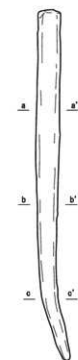
遺構外



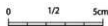
160



161



162



163



164



165



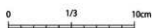
166



167



168



169



170

第 58 図 6 次・1 面出土遺物 (B 区 SD1・遺構外)

第 59 図 6 次・1 面上層出土遺物 (B 区遺構外)

第3表 小井川瀧越（第5次調査）出土遺物調査表

調査年度 (西暦/西暦) 調査号	調査 区画	遺物 No.	分類	材質 (単位: 0.1mm未満) 口径 重量 (%) (g)	重量 (g)	保存率 (%)	形状	土質	時代	備考
1	A	1	S01	骨製	骨	(2.2)	破片	2.5076/1 オリーブ片	近世	骨片文様
2	A	1	S01	木製品	板	(3.9)	40		近世	黒染まり
3	A	1	S01	土製品	皿	5.1 1.45 3.9	95	底:黒染まり、口1.5mm位の溝 白、赤色、黒色粒子	近世	黒染まりの裏
4	A	1	S01	土製品	皿	5.6 1.65 4.1	100	白口 黒、赤染まり、白色、赤色、黒色粒子	近世	黒染まりの裏
5	A	1	S01	土製品	鉢鉢	- (3.5)	破片	白、赤色、白色、黒色粒子	近世	内底、根本
6	A	1	S01	土製品	鉢鉢	- (2.7)	破片	黒、赤染まり、赤色、黒色粒子	近世	内底、裏片不備
7	A	1	S01	木製品	黒染まり	12.2 3.6 1.1	破片	7.5977/1 灰白	近世	一部酸化
8	A	1	S01	木製品	黒染まり	(0.3) (1.4) 1.6			近世	一部酸化、口みあり
9	A	1	S01	木製品	黒染まり	29.1 1.00 0.8			近世	一部酸化
10	A	1	S03	木製品	黒染まり	13.9 1.45 1.0			近世	一部酸化
11	A	1	D-2区	土製品	皿	(9.3) 2.85 (5.2)	30	白口口 石、黒、赤染まり、 白、赤色、黒色粒子	近世	黒染まりの裏
12	A	1	S01	土製品	皿	- (5.0)	30	10707/2 七土丸溝 白口 白、赤色、黒色粒子、赤染まり	近世	黒染まりの裏
13	A	1	S01	土製品	鉢鉢	- 4.5	破片	赤染まり	近世	内底根本
14	A	1	F-1区	土製品	鉢鉢	- (3.6)	破片	赤色粒子	近世	内底、根本
15	A	1	G-3区	土製品	鉢鉢	- 2.9	破片	赤、10763/2 黒溝 赤、10762/1 黒溝	近世	内底、根本
16	A	1	S01	土製品	作付皿	- (6.0)	破片	1.1947/1 緑灰	近世	
17	A	1	S01	磁器	皿	(9.9) (3.85)	10	灰白	近世	内底片 (底文様)
18	A	1	S01	磁器	皿	- (1.0) (0.4)	10	1.460577/1 灰白	近世	近世陶 茶付
19	A	1	S01	陶器	灰白片	- 5.5	10	577/1 灰白	近世	内底、裏輪
20	A	1	S01	木製品	皿	(5.3)	10		近世	内底片
21	A	1	S01	木製品	筒筒	12.5 8.85 1.0	40		近世	底3-2の範囲と同一と思われる
22	A	1	S01	木製品	筒筒	6.35 10.8 0.5	30		近世	底3-1の範囲と同一と思われる
23	A	1	S01	木製品	筒筒	(10.5) (5.5) 1.5	破片		近世	
24	A	1	S01	木製品	筒筒	19.6 0.6 0.55	100		近世	
25	A	1	S01	木製品	黒染まり	(11.0) (1.6) 0.9			近世	一部酸化
26	A	1	S01	木製品	黒染まり	11.3 1.00 (0.6)			近世	一部酸化
27	A	1	S01	木製品	黒染まり	(13.5) (2.1) 1.0			近世	一部酸化
28	A	1	S01	木製品	黒染まり	24.95 1.35 0.7	30	黒、50762/4 七土丸溝 赤、5.0256/5 赤	近世	一部酸化
29	A	1	S01	土製品	皿	(6.6) 1.9 (5.6)			近世	一部酸化
30	A	1	S01	陶器	皿	- 3.9	10	576/3 オリーブ	近世	黒染まりの裏
31	A	1	S01	陶器	皿	- (3.85) 4.2	30	2.5706/3 七土丸溝	近世	黒染まり、裏片みあり、裏片不備
32	A	1	S01	陶器	茶碗	- (2.1) (5.0)	20	2.5706/2 赤溝 白土小溝	近世	内、外底 赤染まり
33	A	1	S01	陶器	台皿	(11.0) 2.1 (7.0)	40	10707/1 灰白	近世	内底、外底、黒染まり、赤染まり
34	A	1	S01	陶器	皿	(5.6) 2.0 (4.7)	10	576/1 灰白	近世	内底、黒染まり
35	A	1	S01	陶器	皿	- (5.4) (3.2)	20	576/1 灰白	近世	外底文様のみ、破片不備
36	A	1	S01	木製品	筒筒	12.5 12.6 1.2	90		近世	筒筒
37	A	1	S01	木製品	筒筒	21.2 0.6 0.4	100		近世	筒筒のみ
38	B	2	S01	土製品	鉢	(6.6) 0.5	80	10706/3 七土丸溝 赤、黒染まり、赤色、黒色粒子	近世	底に黒染まり
39	B	2	S01	土製品	鉢	14.3 4.15	70	赤、黒染まり、赤色、黒色粒子	近世	底に黒染まり、外底へみあり

図面番号 番号 (1/2頁)	図数	機構	部位	材質	寸法 (mm) (以下は標準寸法)	質量 (kg)	色別	成色	組立	組込	種代	備考
40	2個	右側ハブ (S&1)	P-1	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	20	7.59H6/4 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	
41	2個	右側ハブ (S&1)	P-1	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	40	有孔7.59H6/4 七色(黄)	白色、赤色、黒色(黒)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目
42	2個	右側ハブ (S&1)	P-1	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	30	有孔7.59H7/2 七色(黄)	白色、赤色、黒色(黒)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目
43	2個	右側ハブ (S&1)	P-1	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	30	有孔7.59H7/2 七色(黄)	白色、赤色、黒色(黒)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目
44	2個	右側ハブ (S&1)	P-2	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	30	2.59H5/6 有孔(黄)	赤色(赤)	赤色(赤)	中空部	活物換装	黒色
45	2個	右側ハブ (S&1)	P-3	上硬鋼	外径 12.6 長さ 18.65	40	10.97H6/3 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
46	2個	右側ハブ (S&1)	P-4	上硬鋼	外径 14.0 長さ 17.24	70	10.97H6/3 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径八分目、内径八分目
47	2個	右側ハブ (S&1)	P-4	上硬鋼	外径 14.0 長さ 17.24	40	10.97H4/3 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径八分目、内径八分目
48	2個	右側ハブ (S&1)	P-25	上硬鋼	外径 17.0 長さ 17.0	30	有孔7.59H5/4 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径八分目、内径八分目
49	2個	S-D1	P-21	上硬鋼	外径 17.0 長さ 17.0	20	10.97H6/3 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径八分目、内径八分目
50	2個	S-D1 3翼	P-22	上硬鋼	外径 17.0 長さ 17.0	40	2.59H2/1 黒	白色、赤色、赤色(赤)	白色、赤色、赤色(赤)	中空部	活物換装	黒色
51	2個	溝物軸中間部 1	P-1	上硬鋼	外径 15.1 長さ 15.1	40	2.59H5/6 有孔(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
52	2個	溝物軸中間部 1	P-1	上硬鋼	外径 15.1 長さ 15.1	60	2.59H5/6 有孔(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
53	2個	溝物軸中間部 1	P-32	上硬鋼	外径 23.4 長さ 11.9	4.4	10.97H7/2 七色(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径八分目
54	2個	溝物軸中間部 1	P-32	上硬鋼	外径 23.4 長さ 11.9	4.4	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径八分目
55	2個	溝物軸中間部 2	P-1	上硬鋼	外径 13.6 長さ 4.0	3.5	2.59H6/4 七色(黄)	赤色(赤)	赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
56	2個	溝物軸中間部 2	P-1	上硬鋼	外径 13.6 長さ 4.0	3.5	2.59H6/4 七色(黄)	赤色(赤)	赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
57	2個	溝物軸中間部 3	P-1	上硬鋼	外径 15.1 長さ 4.8	4.8	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
58	2個	溝物軸中間部 3	P-1	上硬鋼	外径 15.1 長さ 4.8	10	10.97H7/2 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
59	2個	溝物軸中間部 3	P-1	上硬鋼	外径 15.1 長さ 4.8	10	10.97H6/2 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
60	2個	溝物軸中間部 3	P-30	上硬鋼	外径 15.1 長さ 4.8	60	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
61	2個	溝物軸中間部 4	P-30	上硬鋼	外径 13.65 長さ 4.05	60	有孔2.59H5/6 有孔(黄)	黒色、白色、赤色、黒色(黒)	黒色、白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目、内径八分目
62	2個	溝物軸中間部 4	P-1	上硬鋼	外径 14.4 長さ 4.1	60	9.99H6/6 有孔	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目
63	2個	溝物軸中間部 4	P-2	上硬鋼	外径 12.8 長さ 4.2	60	2.59H5/6 有孔	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目
64	2個	溝物軸中間部 4	P-19	上硬鋼	外径 11.4 長さ 4.2	60	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
65	2個	溝物軸中間部 4	P-25	上硬鋼	外径 10.25 長さ 12.9	40	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色、赤色、赤色(赤)	白色、赤色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
66	2個	溝物軸中間部 4	P-7	上硬鋼	外径 14.4 長さ 4.4	4.4	7.59H7/3 七色(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目
67	2個	溝物軸中間部 4	P-8、P-10、 P-28、C-15	上硬鋼	外径 19.0 長さ 9.9	90	7.59H6/4 七色(黄)	白色、赤色、黒色(黒)	白色、赤色、黒色(黒)	中空部	活物換装	内径小径目
68	2個	溝物軸中間部 4	P-30	上硬鋼	外径 10.0 長さ 8.0	90	有孔7.59H5/6 有孔(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目
69	2個	溝物軸中間部 4	P-31	上硬鋼	外径 10.0 長さ 4.4	4.4	有孔10.97H7/2 七色(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目
70	1個	北中車	P-3	上硬鋼	外径 7.0 長さ 2.0	20	有孔7.59H7/3 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
71	1個	C-11区	溝物軸中間部	上硬鋼	外径 11.7 長さ 1.7	2.80	有孔7.59H6/1 七色(黄)	白色、赤色(赤)	白色、赤色(赤)	中空部	活物換装	内径小径目
72	1個	溝物軸	溝物軸	上硬鋼	外径 11.8 長さ 1.8	1.80	有孔7.59H7/2 七色(黄)	白色(白)	白色(白)	中空部	活物換装	内径小径目

第4表 小井川遺跡(第6次調査)出土遺物一覧表

図号 番号	調査区 番号	高取 地区	遺構	遺物No.	分類	仕様	口径	口径 測定	口径 測定	重量 (g)	保存率 (%)	色調	成形	胎土・石材	時代	備考	
73	A	2区	P-118		土器質 土製品	杯	—	(25)	(7.0)	10	10	外 5YR6/3 に近い黄褐色 内 5YR6/4 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子	良好	古墳後期	
74	A	2区			土器質 土製品	甕	—	(63)	—	破片	—	破片 赤、黒色胎子	ロク口	白色胎子、赤色母	良好	古墳後期	
75	A	2区	P-119		土器質 土製品	甕	—	4.4	—	破片	—	破片 赤、黒色胎子	ロク口	白色胎子、赤色母	良好	古墳後期	
76	A	2区			土器質 土製品	杯	(16.0)	(3.4)	—	20	20	5YR6/6 橙	ロク口	白色胎子	良好	古墳後期	
77	A	1区	SD1 7層		木製品 木製品	水筒	17.1	17.6	10.2	3800	100	—	—	—	中世		
78	A	1区	SD1 7層	S-3	石製品 石製品	水筒	12.2	11.95	0.65	30	30	—	—	—	中世		
79	A	1区	SD1 8層	W-32	土器質 土製品	皿	10.8	2.1	6	100	100	10YR5/2 灰黄褐色	ロク口	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
80	A	1区	SD1 9層	P-44	土器質 土製品	皿	10.8	2.3	5.4	100	100	7.5YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕
81	A	1区	SD1 10層	P-43	土器質 土製品	皿	12	2.5	6.2	60	60	10YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕
82	A	1区	SD1 10層	P-62, P-65	土器質 土製品	鉢	(86.0)	(8.8)	—	20	20	外 10YR6/2 灰黄褐色 内 7.5YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	赤色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕
83	A	1区	SD1 10層	P-40, P-42	土器質 土製品	鉢	—	6	—	40	40	7.5YR6/1 灰白	ロク口	白色胎子	良好	中世	内外面に凹線
84	A	1区	SD1 10層	P-66	土器質 土製品	杯	—	18.0	3.4	厚さ 17.6	2800	40	—	—	中世		
85	A	1区	SD1 10層	P-31	土器質 土製品	杯	—	18.0	(4.9)	13	10	10YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色胎子、石英	良好	中世	
86	A	1区	SD1 16層	P-41	土器質 土製品	甕	—	23.4	厚さ 24.7	厚さ 10.9	2600	80	—	—	中世		
87	A	1区	SD1 23層	S-7	石製品 石製品	土輪沓	直径 2.3cm	厚さ 1.6mm	—	—	—	—	—	—	中世	疑物不明	
88	A	1区	SD1	M-1	土器質 土製品	土輪沓	直径 2.3cm	厚さ 1.6mm	—	—	—	—	—	—	中世		
89	A	1区	SD2 4層	P-50	土器質 土製品	鉢	—	(6.9)	—	破片	10YR7/3 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕	
90	A	1区	SD2 4層	P-51	土器質 土製品	皿	9.9	2.2	5.8	100	100	10YR6/2 灰黄褐色	ロク口	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
91	A	1区	SD2 4層	W-26	木製品 木製品	漆器	14.4	(10.0)	—	70	70	—	—	—	中世	内外面に凹線	
92	A	1区	SD2 4層	S-6	石製品 石製品	漆器	長さ 8.6	幅 9.6	厚さ 3.7	485.7	70	—	—	—	中世		
93	A	1区	SD2 5層	W-35	木製品 木製品	漆器	最大径 (22.7)	最大径 (20.7)	厚さ (0.6)	100	100	—	—	—	中世	内外面に凹線	
94	A	1区	SD2 7層	W-28	木製品 木製品	漆器	—	(8.75)	(8.5)	60	60	—	—	—	中世	内外面に凹線	
95	A	1区	SD2 8層	P-53	土器質 土製品	鉢	—	(3.4)	—	破片	内 10YR6/2 灰白 外 5YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕	
96	A	1区	SD2 8層	P-45	土器質 土製品	皿	10	2.2	6.3	90	90	10YR6/2 灰黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
97	A	1区	SD2 8層	P-46	土器質 土製品	皿	(9.6)	2.1	5.6	100	100	10YR6/2 灰黄褐色	ロク口	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
98	A	1区	SD2 8層	W-27	木製品 木製品	下駄	最大径 11.9	最大径 8.2	厚さ 5.5	20	20	外 2.5YR6/5 黄褐色 内 2.5YR6/6 黄褐色	ロク口	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
99	A	1区	SD2 14層	P-81	土器質 土製品	皿	13	3.1	6.1	40	40	内 5YR6/3 に近い黄褐色 外 5YR6/4 に近い黄褐色	ロク口	白色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕
100	A	1区	SD2 15層	P-48	土器質 土製品	皿	(12.0)	2.9	(5.8)	30	30	10YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
101	A	1区	SD2 15層	P-49, P-52	土器質 土製品	皿	12	3.0	6.4	80	80	内 2.5YR6/3 に近い黄褐色 外 2.5YR6/4 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	底部に黒赤切り痕
102	A	1区	SD2 15層	P-47	土器質 土製品	皿	7.6	2.2	4	100	100	10YR7/2 に近い黄褐色	ロク口	白色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕
103	A	1区	SD2 15層	W-34	木製品 木製品	下駄	8	10.9	—	10	10	—	—	—	中世	底部に黒赤切り痕	
104	A	1区	15層下層 SD2	P-67	土器質 土製品	皿	(10.5)	2.55	5.8	50	50	7.5YR6/3 に近い黄褐色	ロク口	白色胎子、石英	良好	中世	底部に黒赤切り痕
105	A	1区	15層下層 S52	P-69	土器質 土製品	皿	7.4	1.5	4.2	90	90	5YR6/4 に近い黄褐色	ロク口	白色、赤色胎子、赤色母	良好	中世	底部に黒赤切り痕

図号 番号	調査区 (図号)	高さ (m)	遺構	遺跡No.	分類	仕様	口径	口径 (cm)		重量 (g)	発行率 (%)	色調	成形	胎土・石材	時代	備考
								口径	口径							
106	A	1面	15層下層	P-70	土師質土器	皿	10	2.5	5	95	内、7.5YR6/3 におい 色	ロウ口	白色、赤色、黒色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
107	A	1面	15層下層	P-71	土師質土器	皿	6.65	1.9	3.6	100	7.5YR6/2 灰褐	ロウ口	白色、赤色、黒色胎子 石灰、金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
108	A	1面	15層下層	P-83	土師質土器	皿	(12.7)	2.35	(7.2)	40	内、7.5YR7/3 におい 外、7.5YR6/3 におい 黒	ロウ口	赤色、白色、黒色胎子、 石英	中世	底部磁糸切り痕	
109	A	1面	15層下層	P-84	土師質土器	皿	最大径 9.0	最大径 0.7	厚さ 0.5	100	内、7.5YR7/3 におい 外、7.5YR6/3 におい 黒	破片	白色、赤色、黒色胎子、 石英	中世	一部酸化している	
110	A	1面	SD3 9層	P-84	土師質土器	皿	(9.4)	2.2	(5.4)	30	7.5YR6/4 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
111	A	1面	SD4 2層	P-56	土師質土器	鉢	(9.0)	3.9	(6.4)	30	10YR7/3 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
112	A	1面	SD4 2層	P-72	土師質土器	皿	(12.0)	2.8	(5.2)	30	7.5YR7/3 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
113	A	1面	SD4 2層	P-72	土師質土器	皿	(8.0)	1.6	4.4	70	7.5YR7/3 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
114	A	1面	SD4 3層	P-59	土師質土器	皿	(8.0)	1.95	(5.0)	10	7.5YR6/3 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、石英 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
115	A	1面	SD4 3層	P-57	土師質土器	皿	(7.8)	(4.0)	(6.0)	50	2.5Y2/1 黒	ロウ口	ロウ口	中世	外部磁糸切り痕	
116	A	1面	SD5 1層	P-64	土師質土器	皿	(2.0)	(6.0)	(2.0)	20	内、7.5YR3/2 黒 外、5Y2/1 黒	ロウ口	赤色胎子	中世	底部磁糸切り痕	
117	A	1面	SK1 1層	P-76	赤土器	皿	(1.5)	(7.0)	(6.0)	破片	内、赤色胎子 外、赤色胎子、 石灰、黒雲母	ロウ口	白色、赤色、黒色胎子 石灰、黒雲母	中世	底部磁糸切り痕	
119	A	1面	SK1 1層	P-75	赤土器	茶碗	(2.75)	(5.0)	(2.75)	10	7.5YR6/1 灰白	ロウ口	白色、黒色胎子	中世	内、外縁底部に磁 糸あり	
120	A	1面	北壁 20層	P-74	磁器	青磁	(2.4)	—	—	破片	7.5YR7/1 青灰 7.5YR5/5 黒緑 7.5YR5/1 青灰 5YR5/6 黒	ロウ口	黒色胎子、石灰、 金雲母	中世	内部磁糸あり	
121	A	1面	北壁 20層	P-74	磁器	かわらけ	(7.7)	1.75	4.7	70	内、7.5YR5/1 青灰 外、5YR5/6 黒	ロウ口	赤色胎子、金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
122	A	1面	北壁 20層	P-9	土師質土器	皿	(2.7)	—	—	破片	7.5YR6/4 におい 黒	ロウ口	赤色胎子、金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
123	A	1面	上層	P-9	土師質土器	皿	—	2.3	4.8	100	10YR 6/3 におい 黒	ロウ口	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
124	A	1面	上層	P-11	土師質土器	皿	13.4	3.1	6.5	90	内、10YR6/3 灰赤 外、7.5YR5/3 におい 黒	ロウ口	赤色胎子、 金雲母	中世	底部磁糸切り痕	
125	A	1面	上層	P-13	土師質土器	皿	12.3	3.3	6.15	90	7.5YR7/2 灰白	ロウ口	白色、赤色、黒色胎子、 金雲母	中世	外部磁糸切り痕	
126	A	1面	上層	P-13	土師質土器	鉢	(3.4)	—	—	破片	2.5YR7/1 灰白 黒色胎子	ロウ口	赤色胎子、 金雲母	中世	外部磁糸切り痕	
127	A	1面	上層	P-13	土師質土器	碗	(1.7)	(6.0)	(6.0)	破片	黒色胎子	ロウ口	黒色胎子	中世	中世	
128	A	1面	上層	P-26	赤土器	皿	最大径 23.9	最大径 0.7	厚さ 0.8	100	5Y 7/2 灰白	皿	黒色胎子	中世	購入品入る	
129	A	1面	上層	P-26	赤土器	茶碗	(2.8)	4.4	4.4	100	5Y 7/2 灰白	皿	黒色胎子	中世	購入品入る	
130	A	1面	上層	W-10	木製品	下駄	最大径 21.4cm	最大径 2.0	厚さ 2.4cm	100	5Y 7/2 灰白	皿	黒色胎子	中世	内外磁糸入る	
131	A	1面	上層	W-13	木製品	磐えし	最大径 (14.9)	最大径 2.0	厚さ (1.0)	50	5Y 7/2 灰白	皿	黒色胎子	中世	内外磁糸入る	
132	A	1面	上層	W-13	木製品	磐えし	最大径 10.0	最大径 0.7	厚さ 5.6	393.2	5Y 7/2 灰白	皿	黒色胎子	中世	内外磁糸入る	
133	A	1面	上層	F-1	石製品	石	最大径 3.8cm	最大径 1.2cm	厚さ 1.5	90	5YR7/6 黄	破片	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	一部2.5付纏	
134	A	1面	上層	W-2	木製品	不明	最大径 (5.2)	最大径 (2.9)	厚さ 2.6	破片	5YR7/6 黄	破片	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	内外、家付	
135	A	1面	上層	W-2	木製品	不明	最大径 (11.9)	最大径 (1.0)	厚さ (0.8)	破片	灰白	破片	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	内外、家付	
136	A	1面	上層	W-2	木製品	不明	最大径 (11.9)	最大径 (1.0)	厚さ (0.8)	破片	灰白	破片	白色、赤色胎子、 金雲母	中世	内外、家付	

品名 番号	部名 番号	品名 記号	高径 (mm)	底径 (mm)	溝溝 (mm)	溝深 (mm)	底深 (mm)	質量 (g)	残存率 (%)	色調	成形	地土・石材	焼成	時代	備考
137	A	1面上部	W-4	木製品	口径 17.8mm	底径 17.8mm	底深 0.5mm	0.3mm	—	—	—	—	—	近世	夏水清室
139	B	2面上部	M-2	金属	—	—	—	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
139	B	2面	P-116	土質	高径 5.6mm	底径 5.6mm	底深 1.0mm	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
140	B	2面	P-100	土質	球 (13.4)	4.25	—	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
141	B	2面	P-88	土質	球 (3.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
142	B	2面	P-99	土質	環	—	(4.4)	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
142	B	2面	P-99	土質	環	—	(4.3)	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
144	B	2面	P-112	土質	環	—	(9.0)	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
145	B	2面	P-104	土質	環	—	4.4	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
146	B	2面	P-90	土質	環	—	4.1	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
147	B	2面	P-91	土質	環	—	(4.95)	—	—	—	—	—	—	近世	古墳後期
149	B	2面	不明	石製品	不明	9.7	9.9	8.3	1064.5	100	—	—	—	古墳後期	—
149	B	2面	不明	石製品	不明	15	7.15	6.5	730.3	—	—	—	—	古墳後期	—
150	B	1面	SD1 9番	土質	皿	9.45	2.5	5	100	7.9YR6/2 灰褐	口ノコ	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	鹿野遺跡赤切り溝
151	B	1面	SD1 9番	土質	皿	7.7	2.1	4	100	7.9YR3/1 黒褐	口ノコ	白色、赤色、黒色胎子	良好	中世	外面直道にも黒い、二次使用か
152	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	19.1	11.9	3.6	100	100	—	—	—	中世	—
153	B	1面	SD1 9番	土質	皿	4.7	1.5	0.9	100	100	—	—	—	中世	—
154	B	1面	SD1 9番	土質	皿	4.3	1.5	0.9	90	100	—	—	—	中世	—
154	B	1面	SD1 9番	土質	皿	22.6	6.8	1.1	—	—	—	—	—	中世	—
155	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	—	(3.4)	—	—	—	—	—	—	中世	—
156	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	6.5	6.7	4.8	251.1	100	—	—	—	中世	—
156	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	5.4	5.4	3.5	30	—	—	—	—	中世	—
156	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	4.9	3.5	3.5	—	—	—	—	—	中世	—
159	B	1面	SD1 9番	土質	鉢	9.75	9.65	2.4	623.0	70	—	—	—	中世	—
160	B	1面	P-33	土質	皿	—	(4.6)	—	—	—	—	—	—	中世	—
161	B	1面	W-17	木製品	環	17.6	1.4	0.6	—	—	—	—	—	中世	—
162	B	1面	F-2	鉄製品	環	18.5mm	1.3mm	—	100	—	—	—	—	中世	—
163	B	1面	不明	木製品	環	21.95	1.45	0.9	—	—	—	—	—	中世	—
164	B	1面	不明	木製品	環	—	(4.0)	0.8	10	—	—	—	—	中世	—
165	B	1面	不明	木製品	環	—	(1.2)	—	—	—	—	—	—	中世	—
166	B	1面	不明	木製品	環	—	(1.1)	0.5	—	—	—	—	—	中世	2点
167	B	1面上部	P-34	土質	皿	7.4	1.8	—	30	10YR3/1 黒褐	—	—	—	近世	—
168	B	1面上部	P-38	土質	鉢	—	(7.2)	—	—	—	—	—	—	近世	—
169	B	1面上部	P-37	土質	鉢	—	(2.4)	—	—	—	—	—	—	近世	—
170	B	1面上部	P-54	土質	茶碗	—	(2.5)	(4.7)	—	—	—	—	—	近世	透射検査



第6次 出土遺物(土師質土器)



第6次 A区SD1 A-A'セクション 第1次調査のV字大溝と第6次調査のSD1が重なっている状況

写真図版 2

小井川遺跡第 5 次調査(令和 3 年度)A 区 1 面目(近世)



SD1 A-A' 断面



SD1 完掘状況



SD1 完掘状況



SD1 立板列検出状況



SD1 P-1 出土状況



SD1 P-8 出土状況



SD1 P-19 出土状況



SD1 P-21 出土状況



SD1 W-31 出土状況



SD1 W-40 出土状況



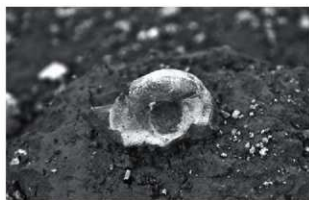
SD2 完掘状況



SD2 A-A' 断面



SD3 完掘状況



P-23 出土状況



P-24 出土状況

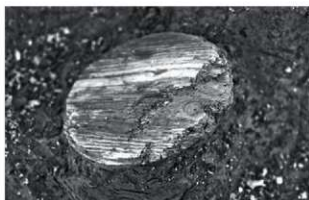


W-16 出土状況

写真図版 4



W-44 出土状況



1面上層 W-23 出土状況

小井川遺跡第5次調査(令和3年度)B区 2面目(古墳時代後期)



SD1 検出状況



SD1 B-B' 断面



SD1 C-C' 断面



SD1 完掘状況



SD1 P-22 出土状況



SL1 (石圓い炉) 検出状況



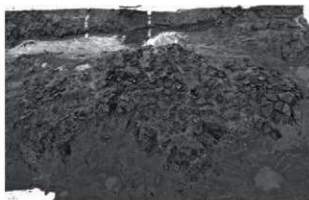
SL1 (石囲い炉) 半截状況 (東より)



SL1 (石囲い炉) 完掘状況



SL1 (石囲い炉) P-1 出土状況



遺物集中箇所 1 検出状況



遺物集中箇所 2 検出状況



遺物集中箇所 3 検出状況



遺物集中箇所 4 検出状況



木片集中箇所 1 検出状況

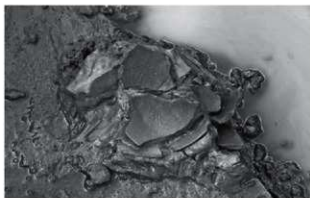
写真図版 6



木片集中箇所 2 検出状況



P-1 出土状況



P-2 出土状況



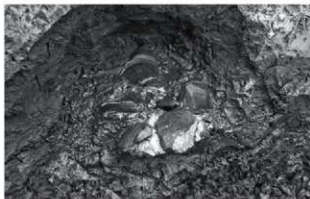
P-4 出土状況



P-7 出土状況



P-19 出土状況



P-25 出土状況



P-30 出土状況

小井川遺跡第5次調査(令和3年度)調査状況



A区 着手前状況



B区 着手前状況



A区 表土はぎ状況



B区 表土はぎ状況



プレハブ設置状況



空撮委託状況



A区 埋め戻し完了状況



B区 埋め戻し完了状況

写真図版 8

小井川遺跡第6次調査(令和4年度)A区 1面目(中世)



1 面目上層 集石検出状況



集石 W-10 出土状況



集石 F-1 出土状況



集石 S-1 出土状況



SD1 C-C' 断面(南壁)



SD1 完掘状況(北側)



SD1 完掘状況(南側)



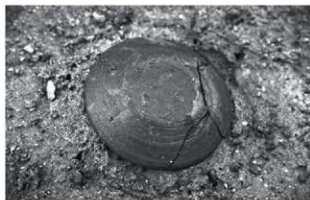
SD1 木杭検出状況(北側)



SD1 8層 S-3 出土状況



SD1 11層 P-44 出土状況



SD1 12層 P-43 出土状況



SD1 12層 P-65、66 出土状況



SD1 12層 S-5 出土状況



SD1 16層 P-41 出土状況



SD1 23層 S-7 出土状況



SD2 B-B' 断面

写真図版 10



SD2 C-C' 断面



SD2 完照状況



SD2 4層 P-51 出土状況



SD2 4層 W-26 出土状況



SD2 5層 W-35 出土状況



SD2 7層 W-28 出土状況



SD2 8層 P-45 出土状況



SD2 8層 P-46 出土状況



SD2 14層 P-81 出土状況



SD2 15層 P-47~49 出土状況



SD2 15層下層砂利 P-68~71 出土状況



SD2 15層下層砂利 P-67 出土状況



SD3 A-A' 断面



SD3 完掘状況



SD3 完掘状況(手前側)



SD3 P-84 出土状況

写真図版 12



SD4 A-A'



SD4 B-B'



SD4 完掘状況



SD4 1層 P-56 出土状況



SD4 2層 P-72 出土状況



SD4 3層 P-57 出土状況



SD4 3層 P-59 出土状況



SD5 完掘状況



SD5 P-64 出土状況



SK1 完掘状況



SK-1 1層 P-75 出土状況



SK-1 2層 P-74 出土状況



P-11 出土状況



P-13 出土状況

小井川遺跡第6次調査(令和4年度)A区 2面目(古墳時代後期)



調査区完掘状況



P-118 出土状況



P-119 出土状況



南壁 古墳時代遺物包含層状況

小井川遺跡第6次調査(令和4年度)B区 1 面目(中世)



SD1 A-A' 断面



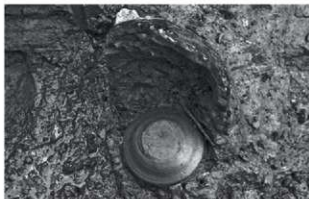
SD1 B-B' 断面



SD1 完整状況(北側から)



SD1 完整状況(南側から)



SD1 9層 P-39、W-24 出土状況



SD1 9層 P-39 出土状況



SD1 9層 P-60、W-37出土状況



SD1 9層 P-60出土状況



SD1 木製品 W-44～48出土状況



SD1 木杭 W-49出土状況



SD1 9層 S-4出土状況



F-1出土状況

小井川遺跡第6次調査(令和4年度)B区 2面目(古墳時代後期)



調査区完掘状況



P-88出土状況

写真図版 16



P-90 出土状況



P-91 ~ 93 出土状況



P-98 出土状況



P-99 出土状況



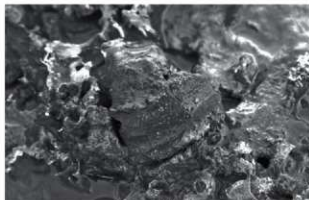
P-100 出土状況



P-104 出土状況



P-112 出土状況



P-116 出土状況

小井川遺跡第6次調査(令和4年度)調査状況



A・B区 着手前状況



A区 表土はぎ状況



プレハブ設置状況



調査区養生状況



調査区内養生状況



空撮委託状況



A区 埋め戻し状況



A・B区 埋め戻し完了状況

写真図版 18

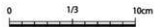
5次A区

SD1

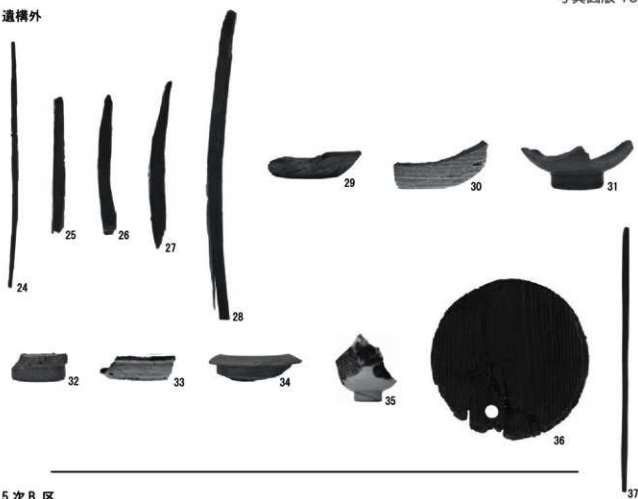
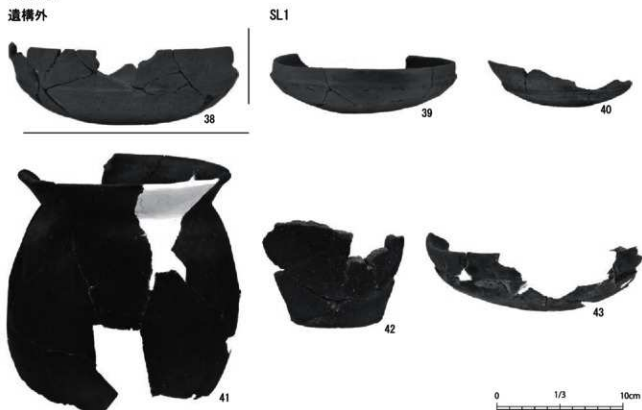


SD3

遺構外



遺構外

5次B区
遺構外



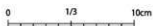
遺構外



SD1



遺物集中箇所 1



遺物集中箇所 1



遺物集中箇所 2



遺物集中箇所 3



遺物集中箇所 4



遺構外



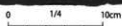
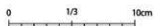
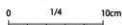
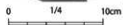
写真図版 22

6次A区

遺構外



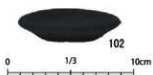
SD1



SD1



SD2



写真図版 24

SD2



103



104



105

SD3



106



107



108



109



110

SD4



111



112



113



114

SD5



115



116



117

SK1



118

SK1

1 面上層遺構外



119



120



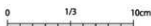
121



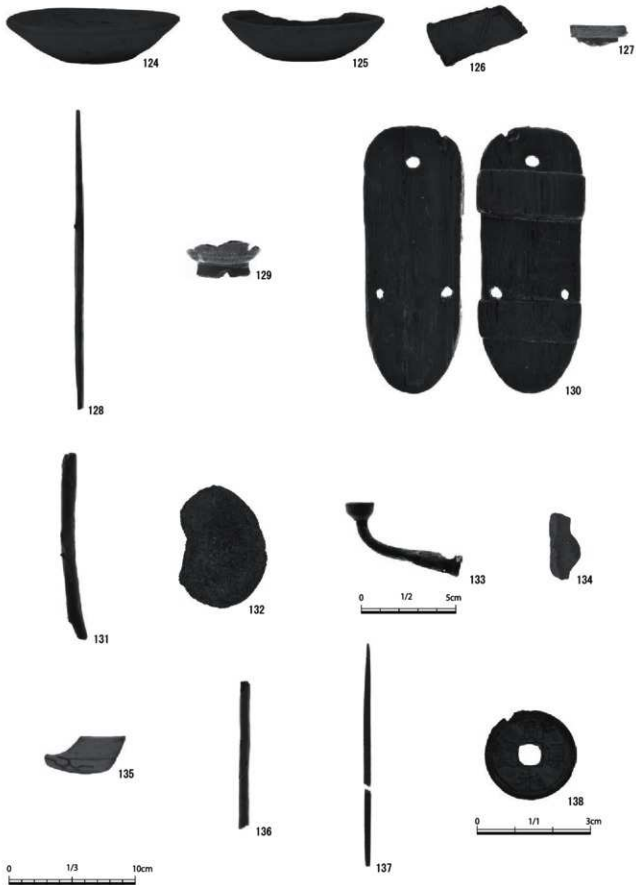
122



123



1 面上層遺構外



写真図版 26

6次B区

遺構外



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149

SD1



150



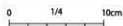
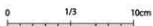
151



152



153



SD1



154



155



156



157



158

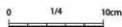
遺構外



160



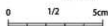
159



161



162



163



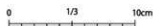
164



165



166



167



168



169



170

報告書抄録

ふりがな	こいかわいせき							
書名	小井川遺跡（第5次・第6次）							
副書名	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第348集							
編著者名	内田祥一、パリオ・サーヴェイ株式会社							
発行者	山梨県観光文化・スポーツ部、東海旅客鉄道株式会社							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL 055-266-3016							
発行日	2024年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村 コード	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
こいかわいせき 小井川遺跡	山梨県中央市 布施地内	19387	-	35° 56' 18"	138° 31' 22"	20220323 ～ 20220527	5次 1,500 m ² 6次 830 m ²	中央新幹線建設 工事のため
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
	集落跡 溝状遺構	古墳 中世 近世	溝状遺構・竪		古墳時代土師質土器・ 室町時代土師質土器・木製品 江戸時代土師質土器・陶磁器		古墳・中世・近世にかけての遺 構確認面が2面確認された。 小井川遺跡の東端。	
要約	本遺跡は中央市布施地域に所在する。過去に4回調査を実施し、平安時代の竪穴住居や中世の大型建物遺構、近世の溝状遺構等が確認されている。今回の第5次・第6次調査では、古墳時代の石囲い竪や遺物集積箇所、中世の溝状遺構や近世の大溝状遺構が確認された。近世の大溝中から中世～近世のかわらけなど土師質土器片や青磁などの陶磁器、漆桶などの木製品が出土した。より東側の調査地点では中世や近世にかかる遺物は僅かな出土にとどまり、代わって古墳時代の遺物包合層が検出された。遺物は坏や高坏、甕などの土師質土器が多数出土し、出土遺物の時代や堆積状況から近隣にある上三條河原遺跡（古墳時代後期）の西端部であると考えられる。またこのことから、大溝が小井川遺跡の東境界である可能性が考えられる。							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第348集

小井川遺跡（第5次・第6次）

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷日 2024年3月13日 印刷

発行日 2024年3月22日 発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町 923

TEL 055-266-3016

maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 山梨県観光文化・スポーツ部、東海旅客鉄道株式会社

印刷 青柳印刷株式会社